# 自 己 発 指 重 点 校 の 記 録



創立30周年 新たな歴史を刻むために

千葉県立船橋法典高等学校

## 「自己啓発指導重点校の記録」の発刊にあたって

本校は、市川市に隣接する「法典の森」に囲まれた自然豊かな船橋市藤原に、昭和56年に 開校されました。開校時は1学年6クラスでしたが、葛南地域の開発に伴う人口増加により、 昭和61年には1学年10クラスにまで規模が拡大され、昭和63年には全校30クラスで約1,300名の生徒が在籍しました。

その後、学区内の中学校在学者数の減少とともに、学習活動や学校生活に意欲が低い生徒の本校への入学が徐々に増え、教育活動に困難をきたすようになり、退・転学者も増加しました。 平成15年には1学年4クラスとなり、その学年生徒の卒業率(平成17年度)は60%を割り込みました。

このような本校の状況を改善すべく、平成12年度に1学年について多クラス(1クラス増)編制による少人数学級展開が導入され、平成17年度までの6年間試行されました。そのうちの5年間の教育実践について、平成16年度末に総括されました。

それによると、「少人数化」について、特色ある取組として職員の意欲が喚起された、学年職員が増えた、授業規律を確保しやすくなった、生徒一人一人へのきめ細かく粘り強い指導がしやすくなった、など指導の充実に寄与したと評価される一方、生徒の状況については、出席状況や授業への取組に改善はみられたものの、成績不振、長欠・退学等についてはそれほどの成果は見られなかったとの評価でした。

しかし、このことは「少人数化」の取組を否定するものではなく、それまでの失敗や成功の体験、指導のノウハウを活かして、さらに大胆に特色を出していかなければならない現状であることを示唆したものでした。

このような総括を踏まえて、船橋法典高校の自己啓発指導重点校としての第一歩が平成18年度にスタートしました。1学年における複数担任制(ハーフクラス)を可能にする加配、教員公募制度による人材確保、そして何より生徒を社会で自立して力強く生きていけるよう育てるという使命感と教育愛、成功体験を踏まえた確かな指導マニュアル(ノウハウ)を共有した指導実践の積み重ねにより、現在の見違えるほどの変革を遂げるに至りました。

このたび創立30周年を迎え、特に自己啓発指導重点校として取り組んだこの5年間のさまざまな教育実践の記録を船橋法典高校の教育の指針として継承するとともに、本校のさらなる発展を願い、本記録誌を発刊するに至りました。

終わりに、本記録誌の発刊にあたり御協力いただきました方々に、心からお礼申し上げますとともに、本校の改革に向けた特色ある取組に対し、時宜を得た数々の御指導を賜りました千葉県教育委員会の皆様、そしてさまざまな困難を抱えながら本校の教育活動を支えていただきました歴代の教職員の皆様に深く感謝を申し上げます。

校 長 岡 野 茂

## もくじ

■「自己啓発指導重点校」とは・・・・ 1	改善指導カード (様式)	29
	■ 指導重点校1期生の思い出	. 30
■ 数値に表れた成果 1	新しい学年団	30
<基本的な統計値の推移>2	毎日「目から鱗」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
■ 自己啓発指導重点校の準備段階 · 3	年間固定で全員清掃	
< 平成17年7月19日の職員会議資料> · · · · · 4	朝読書から朝自習へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
< 平成17年7月19日の城員 云磯貞科 / · · · · · · 4 < 平成17年9月9日の中学校あて案内文書 > · · · · · 4	読破賞?グッドマナー賞? 満員の保健室	
	学年主任の情熱	
■ 目指す学校の姿・・・・・・・・・ 6	■ 平成19年度1学年主任の記憶	
<職員アンケート集計結果>6		
■ 少人数指導の課題はどうなったか・ 8	部活動全入制 教員の指導には従うこと	
少人数指導の課題8	進路希望を叶える	
少人数指導の現状9	なぜ変わることができたのか	
■ 教員公募と求める教員像・・・・・・9	■ 自己啓発指導重点校と部活動・・・	. 34
<平成18・19年度用学校紹介シート>10	グランドの改修	34
<平成20年度用学校紹介シート>11	寂しい放課後	
<平成21・22年度用学校紹介シート>12	固定観念を変えるために	
<平成23年度用学校紹介シート>13	学校の活性化へ	
■ 指導重点校1期生の取組・・・・・ 15	■ 規範意識の徹底 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	. 35
学年目標は「船橋で1番素晴らしい学年になろう!」・・・・15		
緻密な取組リスト15	基本姿勢	
<学年の取組リスト>15	学年室当番	
指導マニュアル18	立ち番指導	
学年・学級組織の工夫20	頭髪・服装指導	
(1) 班編制と係活動20	遅刻指導 ······· 早朝登校制度 ······	
<学年係の役割> ·······21 (2) 班編制と学級係・委員会 ·····21	平朔立仪制度	
<学年係の委員会・学級係分担表>21	始業前の音楽放送	
< 委員会・学級係の役割> · · · · · · · · · · · · 21		
■ 船橋法典高校での3年間(特別寄稿)…22	■ 学年室体制による生徒のサポート	. 38
	■ カードによる生徒のフォロー…	. 20
はじめに22	■ カードによる主体のフォロ	03
実践と成果22	■ 生徒理解と教育相談 · · · · · · · ·	. 30
おわりに23		
■ カードを使った段階的な指導・・・ 24	生徒面談週間 ······· 保護者面談週間 ······	
授業時の注意事項の徹底24	教育相談委員会と特別支援教育校内支援委員会	
<授業時の注意事項>24	教育相談等の校内研修会	
「問題行動カード」の使用25	相談室の状況	
問題発生時の流れ25	スクールカウンセラーの活用	
学年室での対応・・・・・・25		
問題行動カードの使用状況26	■ 掲示物の工夫	• 42
問題行動カード(様式)27	■ タ粉制の党羽支持	. 10
■ 改善指導のスタート · · · · · · 28	■ 各教科の学習支援	
	国語での学習支援	43

地歴・公民での学習支援44	自己啓発指導重点校4年目のスタート	$\cdots 67$
数学での学習支援44	「継承と発展」に基づく学年の取組 …	$\cdots 67$
理科での学習支援45	今後に向けて	69
保健体育での学習支援46	■ 検定試験を通しての自己啓発・	70
芸術での学習支援47	■ 快足試験を通じての自己召先	70
英語での学習支援48	進路希望と基礎学力	70
家庭での学習支援49	K-1 検定	····· 70
情報での学習支援50	ビジネス系検定	$\cdots 71$
■ 着任職員への説明・・・・・・・ 50	■ 様々な体験活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
<授業での配慮事項>51	百人一首カルタ大会	$\cdots 72$
■ さわやか朝自習‥‥‥‥ 52	デイキャンプ体験	$\cdots 72$
	伊是名島ホームステイ体験	
<主な実施内容>52	ボッチャ競技で交流体験	$\cdots 73$
<実施上の留意点>53	幼児とのふれあい体験学習	
■ 充実した理科の実験 · · · · · 53	朝読書と図書委員会活動	
■ 九夫 じた 壁付め 夫歳 55	通学路清掃	$\cdots 75$
■ 豊かな心をはぐくむ教育 54	上級学校の模擬授業体験	$\cdots 75$
■ 豆がないではくくも教育 ************************************	■ 特別支援学校との交流・・・・・・	75
取組の概要54		
主な成果55	初めての交流体験	$\cdots 75$
■ 地域間交流体験・・・・・・・ 56	継続的な交流に向けて	
	2年目の交流会	$\cdots 76$
取組の概要56	■ 高校生活アンケート ・・・・・・・	77
主な成果56	■ 同议工品 ノング ト	11
生徒の感想57	1 学期の意識	77
■ 社会奉仕体験 · · · · · · · · · 57	2 学期の意識	····· 78
■ 社会学は体験 57	3 学期の意識	80
取組の概要57	期待できる生徒の意識	81
生徒の感想文58	穏やかで静かな学校の背景	$\cdots 82$
■ 特別支援教育のスタート · · · · · 59	■ 生徒たちの声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83
特別支援教育のモデル60	母校への手紙	83
校内支援体制の整備60	生徒による学校紹介	84
学習指導61	■ 尚拉朗区老の吉	0.0
特別活動・部活動61	■ 学校関係者の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80
生徒指導・教育相談など62	授業と学習指導について	86
講演会の実施63	生徒指導について	87
研究の成果63	進路指導について	88
■ 性叫士运数本の批准	特別活動等について	89
■ 特別支援教育の推進‥‥‥ 64	開かれた学校づくり等について	90
校内支援委員会の活用64	■ 中党技力をの証件	00
講演会の実施64	■ 中学校からの評価・・・・・・・	90
今後の課題65	<中学生配布用リーフレット>	$\cdots 92$
■ 就職支援65	■ ミニ集会参加者の声	93
<訪問企業数等の推移>65	授業についての感想	93
	生徒についての感想	
■ 部活動の生徒への指導・支援‥‥ 65	学習環境についての感想	
	船橋法典高校の印象やイメージ	
■ 継承と発展をめざして‥‥‥ 67	その他、気づいた点	

<資料1>	文部科学省の豊かな体験活動推進事業パンフレットの抜粋96
<資料2>	平成20年度の魅力ある取組「さわやか朝自習」96
<資料3>	平成21年度の魅力ある取組「現役進路決定率90%の実現」97
<資料4>	平成22年度の魅力ある取組「ユニバーサルデザインによる学力向上プロジェクト」…97
<資料5>	県教委ニュース VOL.52(平成21年2月)の第4面 ······98
<資料6>	ユニバーサルデザインによる学力向上プロジェクト「体験活動編」報告シート …99
<資料7>	ユニバーサルデザインによる学力向上プロジェクトと「さわやか朝自習」101
<資料8>	入学年度別卒業割合の推移102
<資料9>	自己啓発指導重点校の取組に携わった130名の職員103
<資料10>	教育功労者としての功績103

# 自己啓発指導重点校の記録

創立30周年 新たな歴史を刻むために

## ■「自己啓発指導重点校」とは

自己啓発指導重点校は、特色ある学校づくりを推進するための取組であり、平成16年度には浦安高校と姉崎高校が、平成18年度には船橋法典高校と上総高校が、それぞれ指定されている。指定に際しては、生徒に対する一層適切な指導・助言が必要と考えられる学校のうち、特に中退者及び長欠者の多い学校で、地域や市教育委員会等の協力の得られる学校を地域バランスや生徒の実態・効果等を考慮して決定されたとのことである。これらの学校では、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、部活動等を通して目標を持たせるとともに、生徒の学習意欲を高め、自己実現を支援する教育活動を展開することが期待されている。そして、その教育活

動が、円滑に実施されるように、自己啓発指導重 点校に対して、人的支援が行われている。人的支 援の内容は、1学年の学級数分の加配と少人数指 導に必要な非常勤講師の配置、並びに公募制によ る教員の配置となっている。公募制は、各指導重 点校が求める教師像を予め示し、県内公立の高等 学校、中学校及び特別支援学校から、意欲と熱意 のある教員を広く募集するものである。



自己啓発指導重点校は、県外でも紹介されており、全国紙紙面の用語解説によれば、「中退者や長期欠席者の多い高校向けに始めた千葉県教委の支援制度。きめ細かい学習、生活指導を行うため、県内の中学、高校から意欲ある教員を公募できるほか、基準より多い教員の割り当てを受けられるのが特徴。03年度に浦安、姉崎高が指定され、09年度は両校含め、4校に広がっている。」(平成21年7月2日読売新聞全国版朝刊)と説明されている。

## ■ 数値に表れた成果

自己啓発指導重点校の取組によって、多くの顕著な成果が得られている。ここでは、まず数値に表れた成果についてまとめておくことにする。次のページの一覧表は、自己啓発指導重点校の指定を受けた平成18年度前後の、本校の教育活動に係る基本的な統計値の推移を表したものである。平成21年度の数値を中心に、過去のデータと比較してみると、以下のような成果を読み取ることができる。

特色ある入学者選抜における志願倍率は、平成20年度入試(19年度実施)以降、毎年2倍を超え、平成22年度入試(21年度実施)では、県内公立高校全日制平均の2.31倍を0.41上回る、2.72倍の高倍率となった。

毎年1クラス分以上の生徒が退学していたが、退学者数は、年々減少してピーク時の3分の 1程度になった。これに伴って、入学時の生徒数に対する卒業者数の割合は、7割を下回る状 況から、かなり改善され8割近くになっている。

年間出席率は着実に改善し、年間欠席日数が30日以上の生徒も、120人程度から半分以下の56人に減少した。また、遅刻者数は、各学年で1日平均30人を超えるレベルから約3分の1の10人程度になった。

特別指導を受ける生徒の数は、ピーク時の3分の2の30名前後となり、逆に、部活動の加入生徒数は、平成15年度の1.5倍の185名となった。さらに、現役進路決定率は、最近の厳しい就職状況の中、平均して10%程度改善された。

#### <基本的な統計値の推移>

		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
入試 特色	化 選 抜	1. 79	1. 45	1. 94	2. 35	1.88	2. 39	2. 24	2. 72
倍率 学力村	食査選抜	1. 36	1. 14	1. 36	1.04	1.03	1. 20	1. 49	1. 31
1学年におけ 中学校出身者		48. 2	45. 2	52.5	41.6	51.9	57. 5	42.4	48.5
退学	<b>数</b>	54	64	50	46	36	19	23	9
転 学 者	<b>数</b>	5	5	6	6	10	9	8	7
原級留置	者 数	6	3	2	3	0	4	2	2
左眼山安泰	1学年	89.0	85. 5	88.2	89.4	90.6	94. 1	93.4	95. 6
年間出席率 (%)	2学年	88.9	88.2	89.2	88.3	90.6	92.0	93.7	94. 3
(/0)	3学年	89. 1	88. 7	89. 4	87.6	88.2	91.5	92.0	<i>95. 0</i>
4 0 7 4	1学年	34. 2	28. 0	37. 1	17.5	12.4	12.4	8. 9	4. 0
1 日 平 均     遅 刻 者 数	2学年	31.2	26.5	25. 7	29.0	13.5	13.0	11.8	9.8
<b>在</b> 列	3学年	43. 7	31. 7	24.4	25.3	22.7	14.8	13.0	8. 7
年間欠席30日以_	上の生徒数	118	122	99	113	80	59	56	18
特別指導 (括弧内は独自	件数 1基準)	42	36	36	44	35	11 (4)	25 (3)	15 (0)
特別指導対象者数 (括弧内は独自基準)		68	65	70	78	66	25 (6)	42 (6)	30 (0)
部活動加力	人者 数	120	_	129	132	134	188	185	223

斜字体の数字は2学期末現在のもの↑

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
進 4年制大学	17	10	10	10	13	13	14	21
進: 4 年 制 大 学   学: 短 期 大 学   者: 短 期 大 学   数: 専修・各種学校等	7	6	4	2	4	5	4	10
数 専修・各種学校等	43	50	20	19	16	30	41	34
就 職 者 数	24	30	31	41	48	42	40	31
その他の人数	55	43	29	31	24	19	24	34
卒 業 者 数	146	139	94	103	105	109	123	130
現役進路決定率(%) (進学数+就職数)÷卒業者数	62.3	69. 1	69. 2	69.9	77. 1	82.6	80.5	73. 9
卒 業 割 合(%) 卒業者数÷入学者数	73. 0	69. 5	58.8	64. 4	65.6	68.6	76. 9	81. 3

## ■ 自己啓発指導重点校の準備段階

平成17年夏以降の自己啓発指導重点校に向けての準備段階の動きを、当時の職員会議の記録などを紐解きながらまとめてみた。

平成17年7月19日、職員会議において、自己啓発指導重点校の指定に係る次の3点について共通理解を図った。

- ・学校全体の状況を考えると、人的支援を受け、生活面や学習面できめ細やかな指導を 行う必要があるので、自己啓発指導重点校の指定を受けること。
- ・1学年の学級編制は、40人学級が基本で、1学級につき担任2人と副担任1人が担当し、その1学級を2つのホームルーム教室に分け、各20人を1人の担任が1年間受け持つこと。
- ・教科の授業における少人数指導の形態については、各教科で検討すること。

8月30日、本校の学校説明会において、参加した中学生及びその保護者に対して、自己啓 発指導重点校の指定等について説明した。

9月2日、PTA理事会において、自己啓発指導重点校の指定を受けたことを報告した。そして、平成18年度の1年生では1クラスを2分割し、少人数指導を行うこと、及び教科(実施教科については検討)でも少人数指導を行うことを報告した。

9月8日、職員会議(9月1日 企画調整会議)において、「8学級編制検討会議」を設け、 平成18年度新入生を8クラス展開で実施するための検討を行うものとし、できるだけ早く、 教室配置等についての原案を作成するものとした。各教科の少人数授業の実施形態についても、 引き続き検討するものとした。

9月9日、市川市・浦安市公立中学校説明会において、自己啓発指導重点校について説明した。

9月12日、保護者宛の通知文書により、自己啓発指導重点校の指定等について周知した。 9月下旬、校長による船橋市内の中学校訪問を実施し、自己啓発指導重点校の指定等について説明した。

9月29日、職員会議(9月22日 企画調整会議)において、平成18年度新入生は8クラス展開で実施することとし、各教科の少人数の指導形態についても決定した。家庭科の指導形態、及び中学校までの学習内容の復習を行う時間、教科については、教育課程審議委員会を中心に引き続き検討するものとした。

10月、教頭による市川及び松戸市内の中学校訪問を実施し、自己啓発指導重点校の指定等について説明した。また、習志野、市川及び松戸市内の中学校に対して関連資料を郵送した。

11月、1学期に訪問した中学校(船橋市、鎌ヶ谷市、市川市)に対して、再度、職員による中学校訪問を実施し、自己啓発指導重点校の指定等について説明した。

#### <平成17年7月19日の職員会議資料>

#### 自己啓発指導重点校について (報告)

1 自己啓発指導重点校の指定について

人的支援を受け、生徒指導や学習指導できめ細やかな指導を行うため、自己啓指導 重点校の指定を受ける。

- 2 1学年の学級編制について
  - (1) 学級編制

学級編制については、40人学級とし、2人担任、1人副担任とする。 学級を20名ずつに分割して、2人の担任で1年間受け持つ。

(2) 構成員

学年主任1名、担任8名、副担任4名、学年付3名(週30時間の非常勤講師2名と教員1名)の合計16名とする。加配された教員はすべて1学年に配置する。

3 生徒指導について

1 学年全員(16名)で、遅刻指導、頭髪指導、服装指導等のきめ細やかな指導を 実施し、生活面の一層の改善を図る。

- 4 学習指導について
  - (1) 授業形態について

各教科の実態に応じた少人数指導を実施する。

(2) LHRや学校行事について

学級担任2名と副担任1名の合計3名の指導のもと、学級全体(40名)で行う。

- 5 今後のスケジュール (7月20日現在の予定)
  - (1) 8月30日(火)学校説明会
  - (2) 9月9日(金) 市川市·浦安市公立中学校説明会
  - (3) 9月未までに 関係中学校への資料配布 (ポスター等)
  - (4) 9月・10月 管理職の中学校訪問

#### <平成17年9月9日の中学校あて案内文書>

千葉県立船橋法典高等学校

#### 自己啓発指導重点校について

1 本校の目標

本校は、千葉県教育委員会より、平成18年度から「自己啓発指導重点校」の指定を受けました。自己啓発指導重点校とは、「生徒一人一人によりきめ細かな指導を行い、部活動等を通して目標を持たせるとともに、生徒の学習意欲を高め、自己実現を支援する教育活動を展開する。」高校です。自己啓発指導重点校の指定に伴い、さら

に少人数による学習指導、生活指導を実施し、学習指導、生徒指導をより充実させ、 本校の活性化を図ります。

#### 2 具体的な教育活動

#### (1) 学習指導の工夫

平成18年度からは、1年次に全ての教科で20人程度の授業を実施します。

#### ア 学び直しの機会の確保

本校に入学してくる生徒の中には、中学校の学習内容が十分に身についていない生徒がいます。このような生徒のために、中学校の学習内容の復習を各教科の授業で行います。

#### イ 少人数授業の充実

従来から少人数授業を実施している英語と数学では、「先生が一人一人を見てくれるからやる気になる」、「分からないところをすぐに聞けるので良い」というような生徒の声があります。来年度は、すべての教科で20人程度の授業を実施し、より分かりやすい授業により、学力の向上を図ります。

#### (2) 生徒指導の推進

本校の生徒指導は、生徒が社会に出て困らないように、社会生活を営む上で必要なルール・マナーを厳しく、丁寧に指導しています。

#### ア 少人数による生活指導

平成18年度から「自己啓発指導重点校」の指定を受けたことに伴い、1年生のホームルームを複数担任とし、40人のホームルームを2分割して、20人程度で生活指導を行います。

#### イ 規律指導

授業に関係のないもの(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、漫画・雑誌、化粧品、飲食物)を机上に置くことは禁止しています。授業妨害に及ぶ行為(大声でしゃべる騒ぐ、無断で教室への出入り、座席の移動)は厳禁です。

#### ウ 遅刻指導

遅刻の回数に応じて指導(学年注意、生徒指導部長注意、校長指導、特別指導) を行います。

#### エ 頭髪・服装指導

服装は、指定のブレザーを着用します。頭髪の染色等は認めていません。

#### オ 授業への遅刻について

授業への遅刻については、厳しく指導しています。授業に遅刻した時は学年職 員室で「入室許可証」を書いて、授業担当者に提出してから教室に入ります。

#### (3) 進路指導の充実

1年次から進路ガイダンスを実施します。また、総合的な学習の時間にキャリア 学習を実施し、3年間を通してキャリア意識の向上を図ります。

## ■ 目指す学校の姿

平成17年10月に船橋法典高校の在り方についての職員対象アンケートを実施した。下の集計結果の点数は、各間に当てはまる項目を、優先順位を付けて5つ選んでもらい、項目毎に優先順位1位5点、2位4点、…、5位1点として合計したものである。各項目は、点数の大きい順に並べてある。集計結果を大雑把にまとめると、職員の立場で、船橋法典高校が目指すべき学校は、「授業が成立し、落ち着いて学習に取り組むことのできる学校」「基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる学校」そして、「勉強のやり直しができて丁寧な指導が受けられる学校」ということになる。

#### <職員アンケート集計結果>

間1 数年後の船橋法典高校が、どんな学校になればよいか。

- ・授業の成立する学校(59点)
- ・ 真面目な生徒が存在できる学校(45点)
- ・元気で明るく笑顔があり「活気のある学校」(33点)
- ・あいさつ、清掃ができ、時間を守れる学校(32点)
- ・生徒、教師の信頼関係が保てる学校(31点)
- ・生徒一人一人を大切にする学校(20点)
- ・目標を個人が掲げられる学校(18点)
- ・部活動の成立する学校(12点)
- ・成績が振るわない生徒を指導できる学校(9点)
- ・地域の信頼がある学校(4点)

#### | 問2| 船橋法典高校の望む生徒像は?(入学させたい生徒)

- ・基本的な生活習慣が身に付いている生徒(58点)
- ・善悪の判断がつけられる生徒(53点)
- ・集中できる生徒(23点)
- ・人間関係を円滑に行える生徒(21点)
- ・職員の指示に従える生徒(21点)
- ・やる気のある生徒(16点)
- ・ 進路決定に向けて努力できる生徒(15点)
- ・話の聞ける生徒(15点)
- ・まじめに何にでも取り組める生徒(13点)
- ・休まず学校に来る生徒(13点)
- ・卒業しようと思っている生徒(12点)
- ・リーダー性を持っている生徒(6点)
- ・勉強について行ける生徒(2点)



- <参考> 平成23年度前期選抜における期待する生徒像は、次のア、イ又はウの 生徒である。
  - ア 中学校で遅刻・欠席・早退が少なく、かつ、本校入学後も学習活動に 積極的に取り組む生徒
  - イ 中学校で生徒会活動や学校行事に積極的に取り組み、本校入学後もそ の分野に積極的に取り組む生徒
  - ウ 中学校で部活動などに3年間熱心に取り組み、本校入学後も部活動に 積極的に取り組む生徒

#### 問3 船橋法典高校のアピールポイントは?

- ・勉強のやり直しができます(60点)
- ・基本的なことを手取り足取り教えます(31点)
- ・少人数授業ができます(29点)
- ・進路決定ができます(24点)
- ・すべてのやり直しができ、将来が変わります(19点)
- ・勉強のどこが分からないかが分かります(17点)
- ・法典の森や四季に触れられます(14点)
- ・部活動ができます(即レギュラー)(9点)
- ・新しい自分が発見できます(7点)
- 福祉についての勉強ができます(0点)
- ・ファームステイができます(0点)

#### │問4│ 問3で答えた内容を行うために具体的にどうしたらよいか。(自由記述)

- PRのポスターにお金をかける
- ・望まない生徒像をはっきり示す
- ・社会に出て大切なことなど保護者、職員で話し合い年間を通して指導する
- 各学年の共通理解、共通行動の徹底
- 教員が話し合う場をつくる
- ・教科書にこだわらず、独自(小・中の復習)プリントを作成してつまずいた地点からの 再スタートをする
- ・自分の目標を掲げ、それに向かい努力したことを評価できるシステムの開発
- ・インターンシップの延長として、職場体験を積極的にさせる(アルバイトを積極的に行わせ、活性化を図る。入学者倍増計画)
- ・教育課程、日課の見直し。(余裕の時間確保)
- ・ 予算にしばられない恵まれた環境整備、柔軟な学校運営(予算と人材確保)
- ・食堂の設置。職業訓練カリキュラム導入。屋上緑化、風車発電でアピール

## ■ 少人数指導の課題はどうなったか

## 少人数指導の課題

船橋法典高校は、1 年生 1 6 0 名を 5 クラス編制とする多クラス展開による少人数指導を、平成 1 2 年度から 1 7 年度まで 6 年間行ってきた。その経験を踏まえつつ、自己啓発指導重点校の指定を受けた平成 1 8 年度から、1 年生 1 6 0 名を 8 クラス編制にすることになった。このことについては、平成 1 7 年 7 月 1 4 日及び 1 9 日の職員会議において、話し合われている。次の①から⑤は、その際に指摘された問題点である。

- ① 20人は、生活集団として小さすぎるので、人間関係を築く上で支障があるのではないか。
- ② 20人の生活集団では、クラス間の様々な格差が表れてくるのではないか。
- ③ 1年次の20人の生活集団が、2年次に40人の生活集団になるのは、生徒にとって変化が大き過ぎるのではないか。
- ④ 8クラスになると、同一学年同一階での教室配置ができなくなり、生徒指導上、問題があるのではないか。
- ⑤ 毎年8人の担任を決めるのは難しいのではないか。

その後、5年が経過した時点(平成22年度末)での状況は、以下のとおりである。

①について、確かにクラス内の人間関係がうまくいかないとき、対立関係が顕わになったり、問題行動に繋がることもあったが、そのマイナス面は、特別活動や部活動での人間関係、或いはカウンセリングなどで補うことができている。担任にとっては、生徒一人一人に目が届き、生徒同士の望ましい人間関係を築かせる上で、大きなメリットになっている。

②について、成績面や生徒指導面で、ある程度の格差は生じたが、40人クラスでの格差 よりも顕著であったとは言えない。

③について、生徒たちは、中学校の40人のクラスから、高校に入学して20人のクラスに入ると、異口同音に「とても少ない!」と感想を述べる。逆に、2年に進級して40人に戻るときは、既に中学校で経験済みであるためか、あまり大きなギャップは感じていないようである。学年としては、新クラスにすぐに馴染むための準備として、特別活動における様々な学年行事を用意し、学年全体の親睦が図られるように配慮している。

④について、普通教室棟の2階から4階は、各階8教室しかないので、1教室を学年職員室に転用すると、残り7教室である。現在、同一学年同一階の教室配置ができなくても、特に大きな問題はなく、学年間の連携で対応できている。

⑤について、教員公募制や加配などの人的支援のおかげで、担任の確保は、どうにかできている状況である。ただし、毎年、半数の担任しか2年次に持ち上がれないということが、継続的な指導や校務分掌編制の観点で課題となっている。

## 少人数指導の現状

平成22年度時点では、1学年では、全ての教科科目で20人のハーフクラスによる少人数授業を実施し、中学校の授業内容の復習を始めとする基本的な内容を指導している。2学年では、数学・英語・理科(化学・生物)の科目で1クラスを2分割し、少人数授業を実施している。さらに、2・3学年では、学校設定科目を含む選択科目を多く取り入れ、多様な進路希望に対応できるようなカリキュラムになっている。具体的には、2年は2単位の6科目から1科目選択、3年は2又は4単位の19科目から8単位を選択する。どの選択科目も少人数での講座となっている。また、情報と体育ではTTによる授業形態を取り入れている。

## ■ 教員公募と求める教員像

「千葉県県立中・高等学校教員公募制度」は、特色ある学校づくりをさらに推進するため、自己啓発指導重点校や進学指導重点校に対して、意欲と熱意ある教員を千葉県公立高等学校教員、千葉県公立中学校教員及び千葉県公立特別支援学校教員から公募するものである。「自己啓発指導重点校」においては、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、部活動等を通して目標を持たせるとともに、学習意欲を高め、自己実現を支援する教育活動を展開するために必要な人材を公募するものである。平成22年4月現在、この制度による船橋法典高校の所属職員は7名(教諭に占める割合約18%)である。

毎年、公募に際しては、各指導重点校の教育目標、指導目標値、求める教員像、これまでの 実績などをまとめた学校紹介シートを配付している。以下に、平成18年度から平成23年度 までの船橋法典高校の学校紹介シートの内容を載せた。これらのシートに記された船橋法典高 校の「求める教員像」(平成20年度までは「目指す教員像」)は、要約すると、

- ・愛情を持って生徒を指導できること。
- ・学級担任や部活顧問として活躍できること。
- 生徒の進路実現に貢献できること。

この3つが全部できる教員ということである。ハードルは、かなり高い。特に「愛情を持って」と言うのは根本的な話であり、個性豊かなたくさんの生徒を前にしたとき、自信が持てない場合もある。しかし、愛情を持って指導できなければ、担任や顧問としての活躍も、進路実現への貢献も期待薄である。本校のスローガンである「厳しく 優しく 美しく、一人一人を大切にする」ことは、即ち「愛情を持って指導すること」に他ならない。

#### 1 本校の目標

本校の教育方針「学修・創造・躍伸」に基づいて、次のような人間を育成します。

- (1) 基礎・基本を重視した分かりやすい授業の展開により、自ら学ぶ態度を伸ばし、個性豊かに生きていく人間を育成します。
- (2) 生徒会活動、学校行事、部活動等を通して情操豊かな人間性を培い、生命を尊重する心、感謝する心等を育て、思いやりのある人間を育成します。
- (3) 学校の教育活動全体を通して健全な心身と何事にも前向きに取り組む意欲を育て、自分の人生を切り開いていく態度と行動力を身につけた人間を育成します。

#### 2 指導目標値

- (1) 担任による個別面談の機会を年間5回以上設定します。
- (2) 欠席・遅刻・早退・退学の割合を前年度の20%減を目指します。
- (3) 進路決定率70%以上を目指します。
- 3 具体的な教育目標(平成18・19年度新入生対象)
  - (1) 学習指導について
    - ア 1年次に全ての教科で20人程度の少人数授業を実施し、きめ細やかな学習指導 を行い基礎・基本の定着を図ります。
    - イ 2年次・3年次に大幅な選択科目を導入し、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた授業を展開します。
  - (2) 生徒指導について
    - ア 1年次のホームルームを複数担任とし、ホームルームを2分割して20人程度で 生活指導を行います。
    - イ 遅刻指導、頭髪指導等を積極的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、社会生活を営む上で必要なルールやマナーを厳しく丁寧に指導します。
  - (3) 進路指導について
    - ア 1年次から進路ガイダンスを実施し、進学指導及び就職指導の充実を図ります。
    - イ 担任による個別面談を通して生徒一人一人の能力、特性、興味関心等に応じた進 路指導を行います。
  - (4) 生徒会活動等について
    - ア 小さな成功体験を積み重ねることにより、何事にも前向きに取り組む態度を育てます。
    - イ 生徒会活動を活性化し、学校行事、部活動等の充実を図ります。

#### 4 目指す教員像

- (1) 個々の生徒の人格を大切にし、愛情を持って教科指導、生徒指導に熱心に取り組む 教員
- (2) ホームルーム担任、部活動の指導などに積極的に取り組む教員
- (3) 生徒の進路指導に熱心に取り組む教員
- 5 これまでの実績

- (1) 1年次の少人数学級編制
- (2) 全ての教科における少人数授業の実施

#### <平成20年度用学校紹介シート>

#### 1 本校の目標

本校の教育方針「学修・創造・躍伸」に基づいて、次のような人間を育成します。

- (1) 基礎・基本を重視した分かりやすい授業の展開により、自ら学ぶ態度を伸ばし、個性豊かに生きていく人間を育成します。
- (2) 生徒会活動、学校行事、部活動等を通して情操豊かな人間性を培い、生命を尊重する心、感謝する心等を育て、思いやりのある人間を育成します。
- (3) 学校の教育活動全体を通して健全な心身と何事にも前向きに取り組む意欲を育て、自分の人生を切り開いていく態度と行動力を身につけた人間を育成します。

#### 2 指導目標値

- (1) 担任による個別面談の機会を年間5回以上設定します。
- (2) 欠席・遅刻・早退・退学の割合を前年度の20%減を目指します。
- (3) 進学・就職希望者の90%以上の進路決定を目指します。
- 3 具体的な教育目標(平成20年度新入生対象)
  - (1) 学習指導について
    - ア 1年次に全ての教科で20人程度の少人数授業を実施し、きめ細やかな学習指導 を行い基礎・基本の定着を図ります。
    - イ 2年次・3年次に大幅な選択科目を導入し、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた授業を展開します。
  - (2) 生徒指導について
    - ア 1年次のホームルームを複数担任とし、ホームルームを2分割して20人程度の きめ細やかな生活指導を行います。
    - イ 遅刻指導、頭髪指導等を積極的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、社会生活を営む上で必要なルールやマナーを厳しく丁寧に指導します。
  - (3) 進路指導について
    - ア 1年次から進路ガイダンス、インターンシップ等を実施し、進学指導及び就職指 導の充実を図ります。
    - イ 担任による個別面談を通して生徒一人一人の能力、特性、興味関心等に応じた進 路指導を行います。
  - (4) 生徒会活動等について
    - ア 小さな成功体験を積み重ねることにより、何事にも前向きに取り組む態度を育て ます。
    - イ 生徒会活動を活性化し、学校行事、部活動等の充実を図ります。
- 4 目指す教員像

- (1) 個々の生徒の人格を大切にし、愛情を持って教科指導、生徒指導に熱心に取り組む 教員
- (2) ホームルーム担任、部活動の指導などに積極的に取り組む教員
- (3) 生徒の進路指導に熱心に取り組む教員
- 5 これまでの実績
  - (1) 1年次の複数担任制の実施
  - (2) 全ての教科における少人数授業の実施

#### <平成21・22年度用学校紹介シート>

#### 1 本校の目標

本校の教育方針「学修・創造・躍伸」に基づいて、次のような人間を育成します。

- (1) 基礎・基本を重視した分かりやすい授業の展開により、自ら学ぶ態度を伸ばし、個性豊かに生きていく人間を育成します。
- (2) 生徒会活動、学校行事、部活動等を通して情操豊かな人間性を培い、生命を尊重する心、感謝する心等を育て、思いやりのある人間を育成します。
- (3) 学校の教育活動全体を通して健全な心身と何事にも前向きに取り組む意欲を育て、自分の人生を切り開いていく態度と行動力を身につけた人間を育成します。
- 2 指導目標値
  - (1) 担任による個別面談の機会を年間5回以上設定します。
  - (2) 欠席・遅刻・早退・退学の割合を前年度の20%減を目指します。
  - (3) 進学・就職希望者の90%以上の進路決定を目指します。
- 3 具体的な教育目標(平成21・22年度新入生対象)
  - (1) 学習指導について
    - ア 1年次に全ての教科で20人程度の少人数授業を実施し、きめ細やかな学習指導 を行い基礎・基本の定着を図ります。
    - イ 2年次・3年次に大幅な選択科目を導入し、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた授業を展開します。
  - (2) 生徒指導について
    - ア 1年次のホームルームを複数担任とし、ホームルームを2分割して20人程度の きめ細やかな生活指導を行います。
    - イ 遅刻指導、頭髪指導等を積極的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、社会生活を営む上で必要なルールやマナーを厳しく丁寧に指導します。
  - (3) 進路指導について
    - ア 1年次から進路ガイダンス、インターンシップ等を実施し、進学指導及び就職指 導の充実を図ります。
    - イ 担任による個別面談を通して生徒一人一人の能力、特性、興味関心等に応じた進 路指導を行います。

- (4) 生徒会活動等について
  - ア 小さな成功体験を積み重ねることにより、何事にも前向きに取り組む態度を育てます。
  - イ 生徒会活動を活性化し、学校行事、部活動等の充実を図ります。
- 4 求める教員像
  - (1) 個々の生徒の人格を大切にし、愛情を持って教科指導、生徒指導に熱心に取り組む教員
  - (2) ホームルーム担任、部活動の指導などに積極的に取り組む教員
  - (3) 生徒の進路指導に熱心に取り組む教員
- 5 これまでの実績
  - (1) 複数担任制及び少人数授業の実施による学習基盤の確立
  - (2) 分かりやすい授業、朝自習、各種補習など学力向上のための取組
  - (3) 豊かな心をはぐくむ教育を推進する実践研究(平成18・19年度千葉県教育委員会指定)
  - (4) 地域間交流や社会奉仕など豊かな体験活動の推進(平成19・20年度文部科学省 指定)
  - (5) 高校生就職支援事業指定校としての活動や高校生インターンシップの実施
  - (6) SNEモデル校としての実践研究(平成20・21年度文部科学省指定)

#### <平成23年度用学校紹介シート>

1 本校の目標

本校の教育方針「学修・創造・躍伸」の下、徳育・知育・体育のバランスのとれた教育実践を通して、次のような人間を育成します。

- (1) 自立した社会生活を営むために必要な教養を身につけた人間
- (2) 豊かな人間性と規範意識を持ち、尊敬と思いやりを示せる人間
- (3) 自らの生き方在り方を考え、進路実現を図れる人間
- 2 指導目標値
  - (1) 夢や目標を掲げて努力する生徒70%以上
  - (2) 授業が分かる生徒70%以上
  - (3) 規則や礼儀を守れる生徒100%
  - (4) 欠席者・遅刻者・早退者・退学者の割合を前年の10%以上減
  - (5) 進路決定率90%以上
  - (6) 生徒会活動や部活動等で活動する生徒60%以上
  - (7) 学校生活に満足している生徒70%以上
- 3 具体的な教育目標(平成23年度新入生対象)
  - (1) 学習指導
    - ア 1年次のすべての教科で25人程度の少人数授業、2・3年次についても可能な

限り少人数授業を展開し良好な学習環境をつくるとともに、きめ細かな指導を行う ことで基礎・基本の定着と学習意欲の向上を目指します。

イ 2・3年次に大幅な科目選択を設定し、生徒の興味・関心や進路志望に応じることで意欲的学びとなることを目指します。

#### (2) 生徒指導

ア 1・2年次のホームルームを複数担任とし、1年次は25人程度、2年次は33 人程度でホームルームを編制し、生徒一人一人を大切にしたきめ細かな生活指導を 行うことで落ち着いた学習環境づくりを目指します。

イ 遅刻指導や頭髪指導等を厳しく温かく行い、学校生活の基礎を確立するとともに 社会生活を営むに必要なルールやマナーの定着を目指します。

#### (3) 進路指導

1年次から進路ガイダンスやインターンシップ等を実施し、キャリア教育・進路指導の充実を図るとともに、学年と進路指導部職員が協働した面談指導を通して、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心や進路志望に応じたきめ細かな進路指導を行うことで生徒のより確かな進路実現を目指します。

#### (4) 特別活動

学校行事、生徒会活動や部活動等を活性化し、多くの生徒一人一人に小さな成功体験を積み重ねることで、自信を持って前向きに取り組む態度の育成に努めます。

#### 4 求める教員像

- (1) 生徒一人一人を大切にして、愛情を持って教科指導や生徒指導に熱心に取り組む教員
- (2) 学級経営や部活動指導などに積極的に取り組む教員
- (3) 学年や各校務分掌と十分連携協力して、生徒の進路指導に熱心に取り組む教員

#### 5 これまでの実績

- (1) 複数担任制及び少人数授業の実施による良好な学習環境を確立、並びに生徒一人一人へのきめ細かな指導による分かる授業の推進
- (2) 朝自習や各種の個別指導による学力向上や進路実現に向けた取組
- (3) 厳しく・温かく、生徒一人一人を大切にした生徒指導体制の確立
- (4) 高校生就職支援事業指定校としての活動、高校生インターンシップの実施
- (5) 昨年度卒業生の進路決定率は80.5%(大学11.4短大3.3専門学校30.0就職40.7 その他14.6)
- (6) SNEモデル校(平成 20·21 年度)、高等学校における特別支援教育推進校(平成 22 年度)として研究
- (7) 地域間交流や社会奉仕など豊かな体験活動の推進(平成 19·20 年度文部科学省指定)、豊かな心を育む教育を推進する実践研究(平成 18·19 年度)

## ■ 指導重点校1期生の取組

## 学年目標は「船橋で1番素晴らしい学年になろう!」

平成18年4月、自己啓発指導重点校に指定されて、最初の1年生を迎えることになる。 事前に中学校や保護者へ説明したとおり、自己啓発指導重点校としての趣旨を貫徹するため に、1学年所属の14名の職員が中心となって取り組むことになった。この14名のうち、 9名が4月に着任したばかりの職員で、学年主任と担任2名は、中学校経験者であった。

学年目標は、単純明快に「船橋で1番素晴らしい学年になろう!」ということにした。指導に際しての基本的なスタンスは、中学校で培った知・徳・体の力を伸ばすことが高校の責務であると捉え、中学校である程度、身についているこれらの力を引き続き伸ばすことである。要するに、中学校での指導方法をできるだけ引継ぎ、ギャップが生じないように心掛けることであった。そして、学習活動の定着を図るために、授業、進路について真剣に取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、基本的生活習慣を確立させるために、挨拶、時間、服装、言葉遣い等、TPOに応じた態度も育成するものとした。また、集団の一員としての意識を向上させるために、コミュニケーション、ルール、マナー、思いやり、清掃等を大切にする心の育成を目指すことにした。

## 緻密な取組リスト

単純明快な学年目標を達成するために、非常に具体的で、広範にわたる緻密な学年の規範 (取組リスト)が作成された。以下に列挙するのは、4月当初の学年会議で示された取組リストの中身である。これらは、意図的に「中学4年生」のイメージを基にして作成されたものである。もちろん、1回の学年会議だけで、これらすべてについて、学年職員の共通理解が図られたわけではない。当面、できるところから実行に移し、その後、5月にかけて何回かの会議を経て調整し、最終的には、ほとんどの事柄が実行に移された。現在も本校で行われている特色ある取組の多くは、このリストがルーツになっている。

#### <学年の取組リスト>

- ① 学年室待機を心がけ、生徒の動向を把握する。
  - ・職員の学年室を基点とした活動が重要。学級担任だけに任せず、学年の生徒に対して学年担任の意識を持つ。
  - ・学年室当番は、始業後フロアーを巡回しスムーズに授業が成立するようサポートする。
  - ・4月~6月の時期に厳しく指導することが肝心。
  - ・気になる生徒は、必ず個別に指導する。公欠扱いなので担任に報告する。
  - ・問題行動が発生した場合、原則としてすぐに現場へ向かい、まず学年室で対応する。そ の後、生徒指導部へ連絡する。

- ・発行された問題行動カードは、担任が生徒ごとにファイルする。年間の発行枚数の累計により、丁寧に指導する。1枚で担任注意、2枚で担任注意及び保護者連絡、3枚で学年主任注意、4枚で生徒指導部長注意、8枚で校長注意、10枚で特別指導とする。
- ② 校内環境の向上に努める。
  - ・教室や廊下の掲示物の乱れ、イタズラ書、床のゴミなどに気づいたときは、まず職員が 率先垂範で行動し生徒に示す。
  - ・各教室内についても、当該担任任せにせず全員で取り組み、生徒の活動につなげる。
  - ・「環境は人を創り、人は環境を造る」のスパイラルを上向きにしていく。
- ③ LHRの運営は学年の歩調を合わせて計画的に行う。学習レクを企画する。
  - ・学級内と学年全体で取り組む内容とを調整して計画し、職員のサポートの下で生徒に自 治的活動を体験させる。
  - ・月1回程度の学年集会・学年レクを企画する。運営は学級四役(委員長、副委員長、書 記、会計)が中心になる。
  - ・国語(漢字)、数学(計算)、英語(単語)、一般常識の底上げを図る。
  - ・全員に漢字検定の資格を取得させる。
  - ・学年内で一般教養検定を実施し一般教養を身につける。日本・世界地図を貼るなど掲示 物での演出もする。
- ④ 表彰や行事等の評価を行う。
  - ・技能教科などの作品公開、教室美化表彰、学習レク表彰を行う。
  - ・善行は些細なことでも評価し、家庭へも報告する。
- ⑤ 既存の学級組織を活用する。
  - ・係の活動を日常的に頻繁に行う。
  - ・班活動や、係活動を通してよりよい人間関係を築く。
  - ・必要に応じて新設の係を設置する。
  - ・集会での整列指導は学級四役が行い、1列の場合は出席番号順、2列の場合は出席番号順男女2列に並ぶ。
- ⑥ 朝の読書タイムをSHRで設定する。
  - ・8時30分の出席・連絡が終了後8時40分まで担任監督の下で実施する。移動教室等は配慮する。
  - ・学級文庫は、図書委員が図書室から定期的に搬入搬出を行う。
  - ・読書から発展して、「鉛筆で奥の細道」「百人一首」「漢字検定練習」「理科検定」を実施する。
- ⑦ 頭髪・服装点検は日常的に実施する。
  - ・生徒指導部による全校点検だけでなく、日頃から指導しておく。
  - ・注意を与え3日の猶予期間で改善するように指導し、家庭にも連絡。改善できなかった 場合は、家庭連絡し公欠扱いで再登校指導。さらに3日の猶予期間で改善できない場合 は特別指導とする。
  - ・学年の生徒指導部が授業中巡回点検を行う。
  - ・女子の指導もバランスよく行う。

- ⑧ 遅刻点検・入室カード点検を行う。
  - ・教室へ8時30分に入室できなかった生徒は学年室で遅刻カードに記入し出席簿に挟む。
  - ・遅刻数の集計などを掲示する。
  - ・学期ごとに累計し、遅刻35回で保護者同席の校長注意。45回で特別指導とする。
  - ・副担任は朝会終了後、分担して学年室での遅刻者の受付と昇降口での声かけを行う。
  - ・授業時間内で所在不明になった生徒は、出席簿を確認して家庭連絡し、問題行動カード を発行する。
  - ・授業に遅れたときの入室カード5枚で、問題行動カードを発行する。カードの点検は学 年室でも実施する。
- ⑨ 家庭連絡を密にする。
  - ・保護者とは携帯電話等で気軽に連絡できる関係をつくる。
  - ・保護者に対しては、問題行動の報告など事務連絡ばかりでなく、労いや感謝の意を伝え 人間関係を大切する。
- ⑩ 教室をオープンにし基本的な部分は同一歩調をとる。
  - ・学年室当番は積極的に教室に入り、授業規律の守れない生徒を指導する。
  - ・座席は1学期間固定し、座席表を教卓に置くとともに壁・出入口にも掲示する。
  - ・机の位置がわかるように床にマークを入れる。
  - ・席替えは学習環境の向上に支障がないように決める。進級対策にも配慮する。
- ① 生徒による母校の中学校訪問を実施する。
  - ・考査結果、成績報告、手紙、文化祭ポスター等を持って出身中学校へ挨拶に行かせる。
  - ・LHRで事前指導を行い、保護者面談週間の午後5時以降に訪問させる。
- ② 学校行事へは積極的に参加させる。
  - ・球技大会、体育祭、文化祭、カルタ大会等への参加は、学級四役を中心に班の力を基に して取り組ませる。
  - ・考査前には補習期間(放課後・LHR・法典タイムも利用)を設け、指名して参加させる。
- ③ アルバイトは制限する。
  - ・放課後や夜間のアルバイトは、委員会活動や学校行事に支障があるので、健全な高校生 活を維持するためにも制限する。
  - ・経済的にやむを得ずアルバイトする場合は、必ず許可をとる。
- ④ 級友・先生の名前を覚え所属感や愛校心を持たせる。
  - ・持ち物に記名させたり、学級組織表・教科担当の掲示等を整備する。
  - ・班活動や係活動を通して人間関係を広げていく。
- ⑤ 挨拶を励行させる。
  - ・朝(起立・礼・着席)、授業(気を付け・礼)、帰り(起立・礼・着席)を繰り返し行う。
- 16 清掃を励行させる。
  - ・班単位で清掃分担を決める。
  - ・10分間の拘束を確実に行う。
  - ・自主的な活動ができるように分担を細分化した一覧表を作成する。

- ・内容が不十分の場合、居残り清掃も考える。
- ① 校内でのアメ、ガム、化粧、携帯音楽プレーヤー等を制限する。
  - ・授業中の飲食、音楽鑑賞、ゴミの投げ捨て等は厳しく指導する。
  - ・化粧や装飾品は授業の集中力をそぐだけでなく、社会(校外)に出れば危険も伴うこと を生徒に教える。
  - ・ルーズソックスや腰バンは転倒の危険あり。過度のミニスカートも注意する。
  - ・再三の注意にもかかわらず改善が見られない場合は問題行動カードを発行する。
- 18 昼食時のマナーを確立する。
  - ・廊下に座って食べない。始業5分前に、ゴミの始末など後かたづけし、授業の準備。
  - ・美化係に昼休みの5分間活動をさせる。5校時の教科担任・学年室当番は気づいたら美 化係を動かす。

## 指導マニュアル

学級担任や教科担当が、果たすべき役割を、1日の流れに沿ってまとめたものである。どの学級でも、どの授業でも、学校生活の規範が守られるよう、統一的に指導するために作成されたものであり、指導マニュアルとして大いに活用されている。このマニュアルによる指導を、すべての学級に浸透させることが、自己啓発指導重点校の取組の基礎であったと思われる。

時間	日程	留意事項
8:20~8:30	職員打合	・会議室にて全体の連絡、学年の連絡、欠席者の確認など伝達
		する。
8:25~8:30	登校音楽	・生徒は急いで教室に向かうようにする。
8:30~8:40	S H R	・号令係挨拶(起立・礼・着席)
		・担任は呼名して出欠確認(返事をさせる)
		・各クラス公平に遅刻をとる。
		・授業同様で携帯・飲食(ガム)などは厳禁。
		・朝の説諭と連絡。私語がないように注意する。「話は目で聞く」
		・朝の読書活動を励行する。(原則 8:40 まで、移動教室配慮、
		漫画以外の本を自席で読む、廊下に出ない、図書室とタイア
		ップ)
		・遅刻者は学年室で遅刻カードに記入し入室する。カードは出
		席簿に挟む。
		・副担任は学年室に詰める当番と昇降口に立つ当番とに分れる。
		担任不在の場合は学級が優先。

8:45~9:35	1 校 時	・職員はチャイムで授業展開場所にいる。
		・自席に着席させ授業に不必要なものをしまわせる。服装につ
		いてもチェックする。これ以降の注意はペナルティーになる。
		(担任は座席表を教卓に貼る)
		・号令係挨拶「気を付け、礼」
		・教科担任は呼名して出欠確認する。(返事をさせる)
		・遅れた生徒は学年室で入室カードを記入し教科担任に提出す
		る。
		・教科担任は出席簿を訂正する。
		・授業規律を守らない場合は「生徒指導カード」を発行する。
		場合によっては学年室で個別に指導する。(公欠扱い、学年室
		当番だけでは対応しきれないことも予想されるので、できる
		だけ学年室待機)
		・チャイムで授業を終了する。(時間内は教科担任が指導し拘束
		する)
		・号令係挨拶「気を付け、礼」
		・学年室当番は、「追い出し」「巡回指導」「施錠」「入室許可カ
		ード受付」を行う。
		・チャイムの後、少し経ってから廊下の巡回を必ず1回行う。
		廊下の巡回では、積極的に教室に入り「授業参観」「授業規律
		のサポート」「教室・廊下の環境美化」「中抜け生徒の確認」
		「頭髪・服装チェック」「トイレ点検」等を行う。
		・終業3~5分前、施錠した教室を開ける。
9:35~9:45	休 憩	  ・係の生徒は黒板、教室の美化活動を行う。(生徒の活動をサポ
		ートする)
		・移動教室はすぐに行う。(最初の校舎案内を確実に)
		・廊下で危険な行為や人に迷惑がかかるような行為をさせない。
		(大きな音を流す、廊下に座る)
		・トイレは原則として学年フロアーを使用し、目的以外の使用
		を禁止する。
		・校外に出さない。(自販機の使用は可)
9:45~10:35	2 校 時	・ 1 校時に同じ。ただし、所在不明の生徒がいる場合、学年室
		又は巡回している当番に連絡する。(担任は家庭連絡)
10:35~10:45	休 憩	・1校時後の休憩に同じ。
10:45~11:35	3 校 時	・ 2 校時に同じ。
11:35~11:45	休 憩	・1校時後の休憩に同じ。
11:45~12:35	4 校 時	・ 2 校時に同じ。

	1	<u></u>
12:35~13:20	昼 食	・昼食のマナーを守る。(椅子に座る、ゴミの始末、移動した席
	休憩	を戻す等)
		・校外に出さない。(購買・自販機の使用可)
13:15~13:20	予鈴音楽	・最低5分前で授業準備、移動教室を完了する。
		・学年室当番は、「追い出し」「巡回指導」「施錠」「入室許可カ
		ード受付」を行う。
13:20~14:10	5 校 時	・ 2 校時に同じ。
14:10~14:20	休憩	・1校時後の休憩に同じ。
14:20~15:10	6 校 時	・2校時に同じ。
15:10~15:20	清 掃	・清掃場所に移動し清掃開始する。(分担表を作成)
		・清掃監督者は出欠や取組状況を確認して評価し、学級担任に
		報告する。
15:20~15:35	S H R	・学級四役により進行する。次第は、①担任による出席確認、
		②四役から今日の授業評価連絡と注意、③担任の説諭、④係
		の号令で挨拶
15:35~	放 課 後	・出席簿、遅刻カード、入室カード等の点検整理、学級日誌の
		点検記入
		・保護者への連絡 (必要に応じて)
		・出欠黒板の記入(会議室)
		・学年会議(定例は月曜日)

## 学年・学級組織の工夫

#### (1) 班編制と係活動

各学級で、7人又は6人の班を3つずつ編制する。学年全体では24(3班×8学級)の班ができる。さらに、7つの学年係を設け、各班の班員は、必ず何れか1つの学年係を担当する。これで、各学年係の人数は、学級で3名、学年全体で24名となる。ただし、放送係だけは、これより少ない人数とする。各学年係には、学年職員が顧問としてつき、月に1回程度、LHRの時間などを使い、係会議や係活動を行う。この係活動によるメリットとしては、次のような点が挙げられる。

- ・行事などで生徒の活動・活躍する場面が増え、自信がつき、責任感も養うことができる。
- ・学級の垣根を越えた交流で、学年内の親睦が深まり、クラス替え後にスムーズに人間関係が築ける。
- ・どの学級にも同じ係があるので、学年全体で指導の歩調を合わせやすい。
- ・係活動の活性化によって、キャリア教育の観点で勤労観を高めることができる。

#### <学年係の役割>

学 年 係	役割
班 長	学年行事の企画運営、学年集会の運営など
副班長	学年の規則・風紀に関する部分の企画運営など
文 化	文化祭の企画運営、考査の試験範囲の取りまとめなど
体 育	授業時の号令、球技大会・体育祭・学年レクの企画運営など
図書	朝の読書に使う本を、月ごとに図書室から搬入・搬出など
美 化	昼食後の学年フロアー内の美化活動など
放送	集会時の放送機器の準備、BGM操作など

#### (2) 班編制と学級係・委員会

次の分担表により、各学年係が、委員会や学級係を担当するものとした。

#### <学年係の委員会・学級係分担表>

学 年 係	委 員 会 ・ 学 級 係
班長、副班長	委員長、副委員長、書記、会計、選管・掲示、会誌・掲示
文化	文化委員、家庭科係
体育、美化	体育委員、保健委員、美化委員、号令係、ストーブ係、環境係
図書	図書委員、環境係
放送	放送委員、環境係

### <委員会・学級係の役割>

委員会•学級係	役割
委員長副委員長書会	学級四役、学級をまとめるリーダー、学年行事の企画運営、集会 では列の先頭に立ち整列指導、会の司会進行、授業評価の報告等
文 化 委 員	文化祭、カルタ大会の運営等
体 育 委 員	体育祭、スポーツテスト、学年レクの準備運営
保 健 委 員	身体測定などの記録や準備等
図書委員	図書室の整理、受付係、学級文庫の運営
美 化 委 員	美化活動全般の企画運営、昼食後の美化活動、ワックス掛け
放送委員	放送機器の準備
会誌編集委員	生徒会誌「そよぎ」の原稿作成・編集
選挙管理委員	生徒会役員選挙の企画運営
家庭科係	家庭科の授業の準備・連絡
号 令 係	始業と終業時の号令「起立・礼・着席」
掲示係	教室掲示物の作成・掲示
環境係	美化委員の補助、ワックス掛け
ストーブ係	冬季のストーブ準備、管理等
日 番	学級日誌記入、消灯、机整理、黒板管理、日付記入等

## ■ 船橋法典高校での3年間(特別寄稿)

#### はじめに

平成17年から3年間、船橋法典高等学校に中高の交流により勤務させていただきました。それまでの勤務校は印旛地区だったため船橋地区の高校についての情報はあまり持っていませんでした。後日、その頃の船橋法典高校は、生徒指導が難しい学校だったことを知りました。勤務1年目は1年生の担任を任されました。入学式から毎日のように頭髪・化粧・服装・遅刻・欠席・器物損壊・けんか・暴言等の指導が始まり1年間切れることがありませんでした。放課後は、学年室から問題行動や無断欠席した生徒の保護者に電話連絡をかけまくり生徒指導に忙殺される毎日でした。学年の先生方のおかげで何とか乗り切ることができる状態でした。一方、文化祭「緑城祭」ではうれしい発見もありました。文化祭は中学校では実施されない行事です。生徒の準備への取り組みは決して積極的なものではありませんでした。しかし、当日は生き生きした優しい表情で小学生に応対する姿も見ることができました。生徒たちの素直な面が、短時間ですが垣間見られました。しかし、この一年間はとても長く感じられました。

## 実践と成果

2年目の平成18年度は、1学年主任を担当しました。 この年から自己啓発指導重点校の指定を受け、1学年は 20名8学級という少人数クラスが編制されることにな りました。このことにより全ての面できめ細やかな指導 が可能になりました。

入学説明会・入学式で、保護者と生徒に話す機会を与 えられた時に「中学4年生のつもりで生活していきまし



ょう」と伝えました。これは、中学校で指導されていたことをそのまま継続していこうという 意味で使いました。

どこの中学校でも基本的な生活習慣については十分に指導しています。若干の生徒を除き、ほとんどその指導に従ってきています。だから船橋法典高校に入学してきた生徒の半数以上は指導に従ってきた中学生のはずだと思ったからです。高校デビューを目論んでいる生徒に釘をさす目的でもありました。

4月の生徒指導は肝心です。8学級の足並みが揃うように学年会議で一日の流れ(18~20ページ参照)や生活の規則について十分に共通理解・共通行動し臨みました。例えば、朝のSHRでは連絡後の時間を使って、朝の読書を実施しました。これは2年生になると漢字検定に向けての学習時間や朝自習へ変化していき有意義な時間活用につながっていきました。放課後の清掃も全員が分担して取り組みました。教室の床にマークを付け机椅子の整理

整頓に努めたり、教室の雰囲気を高めるための掲示 物をつくるなど教室環境へも気を配り整備しました。

行事の面でも学年の職員の創意工夫により、充実に努めました。 2 学年の校外学習は、生徒たちに自信をつけさせるために「富士山研修」を静岡県御殿場市にある国立青少年教育施設に宿泊して実施しました。この研修では全員が座禅体験をして、自らを見つめ直す機会を持ちました。メインは、山中湖村



役場とタイアップした山中湖の清掃活動です。講演会を聴き、ボランティア活動することで 環境保全の大切さを学びました。この取組は、千葉日報にも掲載され生徒の自信へとつなが りました。

2 学期の緑城祭は「沖縄」を学年発表のテーマにし、壁新聞・モザイク画・模擬店やサーターアンダギーを作り販売するなど大いに盛り上がりました。このように統一感のとれた内



容の発表をするためには、1学期からLHRを計画的に使い準備していきました。ここにも学年の 先生方の多彩なアイデアと強力な実行力が基盤に なりました。

沖縄修学旅行は、文化祭を通しての事前学習の成果も見られ十分な平和学習ができました。また、エイサー体験や民泊することで、地元の方々との交流でコミュニケーション能力の向上や人の温か

みを感じるには十分な成果が収められました。

進路についても早くから意識させるためにキャリア教育の充実を目指しました。漢字検定を全員で受けることは資格取得の大切さを意識させるためでした。朝自習の時間などを使い継続的に学習させました。また、インターンシップや就業体験など積極的な参加を呼びかけ生徒の意欲を喚起させてきました。

## おわりに

今振り返るとあっと言う間の3年間でした。この間にいろいろな経験を積むことができました。校長先生・教頭先生・事務長をはじめたくさんの先生方の支援があり乗り切ることができました。そして中学校も高校も目指す目標は同じであることを強く確認することができました。でも何といっても学年の先生方のチームワークの良さが一番の思い出です。とても充実した3年間でした。ありがとうございました。

(平成18年度1学年主任 古林聖哉)

## ■ カードを使った段階的な指導

「問題行動カード」(27ページ参照)の使用と段階的な指導について、平成17年5月12日の職員会議において、第1学年から提案された。「問題行動カード」は、生徒の問題となる行動について、注意をした内容を明確にし、記録に残すためのものである。当時、一部の生徒であるが、無断早退、中抜け、無断外出等が続いていた。一部の授業では、生徒の授業を受ける姿勢が乱れており、騒々しい状態になっていた。また、注意に対する暴言、服装のみだれ、頭髪の変色、いじめ行為などの問題行動が目につき、指導上の困難を感じる状況であった。これらの状況を改善するためには、授業担当者をはじめ、学年職員全員で統一した指導を展開することが必要であった。また、問題となる行動を注意するときに、何が悪いのかをはっきりと説明することも重要であった。このような背景から「問題行動カード」の使用が提案された。

「問題行動カード」は、口頭で注意が伝わらない場合の手段として、有効であるが、事前に 生徒への十分な周知が必要である。また、カードによる指導は、ある程度以上の問題に対して 行うもので、その前に口頭による注意や基本的な指導が行われ、生徒が理解し改善するよう導 くことが前提である。カードを機械的に発行するような、乱発状態は避けるべきであるという 共通理解ができていた。

## 授業時の注意事項の徹底

平成17年5月12日の職員会議において、以下のように、授業中の指導方法の共通化と 連携指導の実施について、申し合わせを行った。

申し合わせ事項の1つは、携帯電話はしまったか、授業に関係のないものは机の上に出ていないか、また、授業に必要なものが机の上に出ているかなどについて毎時間確認してから授業を始めることである。もう1つは、「授業時の注意事項」の徹底である。機会をとらえて、

「授業時の注意事項」を1つ1つ読み上げるなどしてしっかりと生徒に伝達する。「聞いてない、知らない」ということがないようにする。また、担任からも、状況の変化に応じてこまめに「授業時の注意事項」の喚起を行うものである。

#### <授業時の注意事項>

- 1 授業中の次の行為を問題行動とみなし、指導します。
  - ・席を離れ立ち歩いたり、授業担当者の許可なく教室を出入りすること。
  - ・私語を繰り返したり、大声で話す、騒ぐこと。また、携帯の着信音を鳴らすなど大き な音を立てること。
  - ・授業担当者の注意を無視し続けるなど、正そうとしないこと。プリントを受け取らないなど、学習活動をしようとしないこと。その他授業内容に応じ、他の生徒の聴講を妨げていると担当者が判断する行為。
- 2 授業を受ける姿勢の基本として、頭髪服装に問題のある生徒を指導します。
  - ・頭髪服装等の問題を指摘し指導しても一向に応じない、反抗的態度をとること。

- 3 授業中に、学習に無関係なものを使用することを禁じ、状況に応じ指導します。
  - ・携帯電話は、手を触れた時点で預かり、学年室で保管。時計代わりの使用も不可。
  - ・化粧道具、マンガ、菓子、携帯音楽プレーヤーなどは、使用していた時点でしまうよ う指導し、繰り返す場合などは預かる。
  - ・その他のもので、聴講の妨げになるようなケースについても状況に応じ指導する。

## 「問題行動カード」の使用

授業担当者は、授業中の問題発生時など、必要に応じて学年室にある「問題行動カード」を使用する。ただし、問題が軽微な場合は、乱発による効果の低下を避けるため口頭注意で済ませる。「問題行動カード」には、問題行動の種類がいくつか具体的に印刷されているので、該当項目を丸で囲み、指導経過を簡単に記入する。そして、カードの下半分を生徒へ、上半分を担任へ渡す。担任は、上半分を、生徒の記録を書き込む「生徒カルテ」に貼付する。

## 問題発生時の流れ

以下は、授業中に様々な問題が発生した場合の基本となる具体的な対応を、時系列で示したものである。

- ① 問題行動が発生した場合、状況に応じた注意・指導をする。携帯電話の場合は、すぐに預かり問題行動カードに記録する。「無断の授業抜け」は、発生時点で問題行動カードに記録する。
- ② ①で改善しない場合、くり返し注意・指導する。くり返す回数は3回程度とする。
- ③ ②で改善しない場合、授業妨害等であると宣告して「指導に従わない場合は別室での指導となる」と告げる。②で改善した場合は問題行動カードに記録し解決。
- ④ ③で改善しない場合、授業妨害と見なして学年室へ連れて行き、学年室当番など学年 室担当者に問題行動カードと一緒に引き継ぐ。授業担当者は、すぐに授業に戻る。③で 改善した場合は問題行動カードに記録し解決。
- ⑤ 引き継いだ学年室担当者は、問題行動カードの記録をもとに事情をよく聞いてから、問題点を指摘して説諭するとともに、指導状況を記録する。
- ⑥ ⑤で反省できない、理解できない、無視等の場合は、教室へ戻さず生徒指導部に対応 を任せる。特別指導も考慮する。

## 学年室での対応

学年室当番の人数は2名とし、問題行動について授業担当者から引継ぎがあった場合は、 次のように対応する。

- ・生徒から、注意された状況やどのようなことで今回の行動に至ったかなど、事情を開く。
- ・今回の行為がなぜ重大な問題なのか、自分のしたことがどのような影響を周囲に及ぼしたかなど、問題点を具体的に指摘し考えさせる。

- ・文章を書かせるなどして、今回のことを自分で見つめなおさせ、反省させる。
- ・問題行動カードのほかに、記録用紙を用いて状況と指導経過を記録する。
- ・授業担当者と指導担当者が、生徒の反省状況や感情の状態を観察し、次の時間の授業への出席が可能かどうかを判断する。状況が思わしくない場合は、生徒指導部に預けるなどの次の段階の準備をする。

## 問題行動カードの使用状況

以下は、平成17年の6月初旬から7月中旬まで約1ヶ月半の、問題行動カードの使用状況について調査した結果である。調査対象は、1学年職員10名で、アンケート形式で得た回答をまとめたものである。まず、1ヶ月半で使用した問題行動カードの枚数であるが、15枚が2人、10枚が1人、7枚が1人、5枚が2人、1枚が2人、0枚が1人、記述なし1人という結果であった。単純平均では、職員1人当たり約5.9枚であった。一方、カードを出された生徒の割合は、0枚が54%、1枚が25%、2枚が11%、3枚が3%、4~6枚がそれぞれ2%、7枚が1%であった。

#### <発行の際に気になること·工夫する点などについての回答>

- ・出す方では何度も注意した上で出すのだが、出された方は意識しておらず、何で自分だけがと文句を言う場合がある。
- ・中抜け、無断早退、携帯預かりは、即カード発行に統一したほうが良い。
- ・危険行為など注意する以前の問題は、即カード発行で良い。

#### <カードを出した効果についての回答>

- どの程度のことで出すのか、タイミングが不明。
- ・最初は重大なことと受け止めていたが、慣れると気にしない生徒もいるようである。
- ・累積することについては、気にしている様子なので、歯止めになっていると思う。
- ・注意してもなかなか改善が見られない生徒が多い。
- ・カードを出しそうで出さないことで効果が上がっている。
- 効果がある。
- ・次の授業で改善している生徒も多い。
- ・カードを出されることについては、結構ぴりぴりしている。「次やったらカード」という と収まることも多い。ただ、カードを受けた経験のある生徒が、周りで見ていて「何で あいつカード出されないんだ」と言い出すこともある。

#### <カードの改善点についての回答>

- ・自分でも基準が不明確で、あまりひどい例以外は出しづらかった。
- ペナルティーに結びつかないと効果は薄いかもしれない。
- ・カードの枚数によってペナルティを科すようにする。
- ・記入しにくく、その後の指導など明確でない。
- ・学年で足並みを揃え、枚数を決めて次の指導に進めたほうが良いと思う。
- ・授業中の問題行動をケース分けして作成しているので、授業以外の場面で生じた問題行動については記録しにくい。

## 問題行動カード(担任提出用)

生 徒	年 組 番 氏名					
発生日時	月日()限目(教科)【	時 分頃】				
発生場所	教室()・校内()・校外(	)				
指 導 者	科(部)氏名					
問題行動の内容						
1 無	断の授業抜け					
2 授業の遅刻(入室カード5枚)						
3 授	受業妨害					
(1	) 立ち歩き・席に着かない ② 私語・騒音					
G	プリント破棄等の学習拒絶 ④ その他(	)				
4 授	受業を受ける姿勢を逸脱した行為					
(1	) 授業に必要ないものを机上放置、使用					
2	) その他(	)				
5 3	たの他の指導拒否					
	(具体的に	)				

------ 切り取り・割り印 -------

## 問題行動カード(生徒控え)

年 組 番氏名

## 警告

あなたは下記の問題行動について指導されました。今後、問題行動を繰り返して、このカードを複数受け取ると、<u>特別指導を含む厳しい指導</u>を受けることになります。必ず改善し、繰り返さないようにしなさい。

発生日日	時 月 日( ) 限目	(教科 )【	時 分頃】			
発生場所	新 教室( )・校内(	)•校外(	)			
問題行動の内容						
1	無断の授業抜け					
2	授業の遅刻(入室カード5枚)					
3	授業妨害					
	① 立ち歩き・席に着かない ②	私語・騒音				
	③ プリント破棄等の学習拒絶 ④	う その他(	)			
4	授業を受ける姿勢を逸脱した行為					
	① 授業に必要ないものを机上放置、使用					
	② その他(		)			
5	その他の指導拒否					
	(具体的に		)			

指導者

## ■ 改善指導のスタート

平成16年度から「改善指導」(当時は「再登校指導」と呼ばれていた)が始まった。生徒の 頭髪や服装の乱れを正すための取組であり、ゼロ・トレランス方式(90年代にアメリカで始 まった不寛容を是とする教育方針)を前提としたものである。登校時に生徒昇降口で、職員が 生徒の頭髪や服装を一斉に点検し、ルール違反の場合は、一旦帰宅させ、改善してから再度登 校させるものである。この取組は、この年に突然始まったわけではなく、数年来行われてきた 頭髪指導の延長上にあるものであった。「生徒にとって、より良い指導をしたい。」「船橋法典高 校をより良くしていきたい。」という職員の共通認識のもと、生徒指導部が中心となって企画立 案し取り組んだ。

さらに、平成16年7月16日の職員会議において、改善指導で授業を欠く場合は公欠とすること、また、改善指導を連続して行っても、指導に従えない場合は、やむを得ず特別指導にすることが決まり、平成16年度の2学期から実施に移された。改善指導の具体的な流れとしては、2日連続して改善指導を行っても、改善されなかった場合は、3日目に生徒に対して教頭及び生徒指導主事が警告を与えてから、改善指導を行こととした。さらに4日目になっても改善されない場合は、保護者に来校してもらい、翌日から3日間の特別指導を行うこととし、それでも、改善・反省状況が不十分なときは、日数を指定して特別指導の期間を延長することとした。

次のページに載せたのは、現在、改善指導の際に使われている「改善指導カード」の様式である。



## 改善指導カード

発行者

生徒指導部

年	組	番	氏名
	/\JTF	· <del>Ш</del>	1/1/1

上記のものは、下記の理由で再登校指導を行います。

記

- 1 日 時 <u>平成 年 月 日( ) 時 分</u> 下校
- 2 理 由 a 頭髪1) 茶髪等2) 色落ち3) エクステ 《詳細》4) 変色5) その他()
  - b 服装 1) リボン・ネクタイ 2) その他 (
  - c その他 (

保護者の確認 保護者氏名 印

再登校時間 平成 年 月 日( ) 時 分

------ 切り取り・割り印 ------

## 改善指導カード(控)

発行者

生徒指導部

年 組 番 氏名

上記のものは、下記の理由で再登校指導を行います。

記

- 1 日 時 <u>平成 年 月 日( ) 時 分</u> 下校
- 2 理 由 a 頭髪 1) 茶髪等 2) 色落ち 3) エクステ 《詳細》
  - 4)変色 5)その他( )
    - b 服装 1) リボン・ネクタイ 2) その他 ( ) c その他 ( )

再登校時間 平成 年 月 日( ) 時 分



# ■ 指導重点校1期生の思い出

平成16年度の1学年が入学してきたときから、職員の間で船橋法典高校をかえていこうという雰囲気が盛り上がり、それ以前では考えられなかった「授業中の携帯電話使用は取り上げ」などのルールが始まったと聞いている。服装頭髪の改善指導、遅刻カード、入室カードの制度がどのように始まったかについては、定かでないが、平成18年4月の始業式が終わったときに当時の3年生が「また厳しくなるのかよ。」と話しながら体育館を退場していったことが印象に残っている。

「問題行動カード」については、平成17年に人事交流で中学校から着任した職員が提案したものである。着任と同時に1年の担任をまかされ、何が何だかわからないうちにクラス経営が行き詰ってしまった。そこで、中学で使われていた「問題行動カード」の導入を学年に提案し、2学期から、この学年限定で取り入れることになった。翌18年度からは職員の共通理解が得られ、学校全体で取り組むようになった。

## 新しい学年団

それまでの1年生は、160人5クラス展開であったが、平成18年度から8クラス展開に移行することになった。問題行動カードを提案した職員が、新しい学年主任となり、自己啓発指導重点校への公募制で中学より転任した職員2名を含む14名の職員で、平成18年度の1学年職員団が編制された。この14名のうち8名は、着任したばかりの職員であった。着任初日から、学年会議では、非常に細かい内容の打ち合わせが続いた。会議では、新学年への具体的な取組などが詳しく説明され、教室環境、座席、班組織など高校ではあまり聞き慣れないことが数多くあった。特にクラスの役員決めなどは、今までに考えつかなかった方法で示され、非常に面食らったことを覚えている。

## 毎日「目から鱗」

入学式前日に「当日茶髪にしてきている生徒がいたらスプレーで染めてください」と言われていたので、覚悟して当日の朝を迎えた。教室に20人の生徒が着席しているのを見て、非常に少ないなと感じた。反抗的な生徒がいるわけでもなく、大きな違和感もなく生徒達の中に入っていけた。20人クラスは思っていたより良かった。生徒一人一人の顔がよく見え、ホームルームでも授業でも生徒との会話を楽しめる状況であった。

懸念していた班活動や机の位置の固定などは、生徒は中学での活動がそのまま続いているという感覚で、全く違和感なく進めていた。学年会議で提示されたときには、内心こんなに面倒なことをやるのかという感じであったが、これが驚くほどスムーズにクラス経営ができ、毎日が「目から鱗」状態であった。また、入室カードのおかげで、チャイムが鳴ってから教科書等の準備をする生徒もいなくなり、大変落ち着いて授業に臨むようになった。

### 年間固定で全員清掃

それまでは、帰りのSHR後に、当番制で清掃を行うことになっていたが、清掃をしないで帰ってしまう生徒が多かったため、平成18年度から、先に清掃をすることになった。清掃の担当場所は、当番制で週や月毎に変わるのが一般的だが、学年主任の示した案は1年間同じ清掃場所、同じ仕事を担当するものであった。全員清掃であるため、とにかく一人一人に役割を付ける。教室掃除ならば1年間モップかけ専門で、運ぶ机の列も決まっていた。当時の生徒は自分から仕事を見つけて行うことは苦手だが、決められたことをやり続けることは比較的得意であったようだ。これによって、掃除には、生徒全員でまじめに取り組むことができ、予想以上の成果を収めることができた。

### 朝読書から朝自習へ

学年主任からの提案で、生徒が授業に落ち着いて臨めるように、朝のSHRの余った時間に朝読書をさせることになった。各自が読む本を持って来るように入学式のときに連絡したが、徹底されなかった。読む本が準備できなかった生徒のために、図書委員を使って各クラス20冊程度の本を図書室から貸し出してもらうことにした。初めは読書に集中して大変よい試みだと思ったが、1学期も終わりに近づくと読書に集中できない生徒が少しずつ増えてきた。学年職員の中からこのまま読書を続けるのは限界だという意見がでて2学期からは、芭蕉のことばを書き写す「えんぴつで奥の細道」を行うことになった。この学年の生徒は黙って作業を行うことができたので、この試みは良かったと思う。その後も計算、漢字など趣向をこらした朝自習を行うことにより、生徒も飽きずに取り組むことができた。朝自習はこの2年後の平成20年度から学校全体で取り組むことになった。

## 読破賞?グッドマナー賞?

頑張っている生徒は、学校として、できるだけ表彰して、他の生徒のモラールも高めようということで、いろいろな表彰のルールを設けることにした。3ヵ年階勤がとても少なかったので「学期皆勤賞」を設け、終業式で表彰した。学年主任がたくさんの皆勤者の名前を読み上げ、代表が壇上にあがり賞状をもらうというスタイルがスタートした。また、50冊、70冊、100冊とたくさんの本を読んだ生徒へは「読破賞」を授与した。その他、学年独自の賞として、入室カードを1枚も使わなかった生徒に「グッドマナー賞」、朝自習の確認テストの成績上位者に「成績優秀賞」、各行事での「MVP賞」など、数多くの表彰を行い、表彰者の名前を廊下に掲示した。これによって、多くの生徒の自己肯定感を高めることができたと思う。

## 満員の保健室

授業を苦痛に感じる生徒が多いこと、また食事が不規則で、夜遅くまで出歩いて体調をく

ずすなどで、保健室を利用したがる生徒が多かった。そこで、保健室を利用するときの3つの約束を定めた。1つは、学年室で許可を得て、予め保健室へ連絡してもらうこと。2つ目は、原則として1日1時間のみの利用とすること。3つ目は、携帯電話を学年室へ預けること。これらのルールを徹底することで、保健室の利用を本来の姿に戻すことができた。

## 学年主任の情熱

何よりも学年団の若い力、学年主任の情熱によって動いていた学年であった。従来のやり方とは全く違った方法で行っていく学年経営は、本当に勉強になった。高校の教員としてある程度の経験を積んできたつもりであったが、それらの経験は、船橋法典高校において意味をなさなかった。学年主任が毎朝配付する学年連絡に、初めは驚いた。毎日の学年連絡には、学年主任からのメッセージがきちんと書かれ、頑張っている教員のことがほめてあった。担任業務をこなす上で大変役に立ったと思う。そして、非常に細かいマニュアルがあることにより8クラスが同じ歩調で指導することができたのが大変大きい。学年会議でも活発な意見交換がおこなわれ、1人の教員の困っていることは、学年全員で共有した。学年会議の回数は多かったが、前向きな話し合いがほとんどであったことを覚えている。

(川崎広美)

# ■ 平成19年度1学年主任の記憶

自己啓発指導重点校に指定されて2年目、平成19年度の1学年主任を任されることになった。前年度の1学年の経験を基本に、さらに発展させていけたらと考え取り組むことにした。 生徒数は、留年生3名を含む163名であった。

## 部活動全入制

本校は部活動の加入率が非常に低かったため、1学期間は必ず何かの部活動に加入するということを新しいルールにした。部活動に参加するきっかけ作りになってくれればと思い、始めたものである。しかし、家庭の経済状況から、アルバイトをしなくてはいけないとか、部活動をやるエネルギーがない生徒が多く、なかなか良い結果につながらなかった。

## 教員の指導には従うこと

生徒に対しては、入学時より「教員の指導には従う」ということを言い続けてきた。中学校への説明がまだ浸透しておらず「こんなに厳しいと思わなかった。」という生徒が多くいた。 頭髪の指導では「改善指導」が行われ、茶髪等の生徒は一旦自宅に帰って、直してから再び 登校することになっていたが、保護者からの苦情電話もけっこうあった。

1年目は特別指導の切れ目がないぐらいに、いろいろな事件が続いた。問題行動も頻発した。そして、30人近くの1年生が学校を去ることになった。もともと高校生としての目的 意識が乏しく、仕方なく高校に通っている生徒が多いようであった。化粧をしてくる生徒、



休みがちな生徒、経済的に厳しい生徒など、なかなか学校に目が向かない生徒も数多く存在した。とにかく一生懸命、学校生活を送ろうとしている生徒のために、それを乱す生徒や他の生徒に恐怖感を与える行動をする生徒に関しては、特に厳しい姿勢で臨んだ。学年職員が一貫した姿勢で指導に当たることにより、2年、3年と進むにつれ非常に落ち着いた学年になって行ったと思う。

## 進路希望を叶える

学習が苦手な生徒が多く、朝自習では基本的な計算や漢字の書き取りなどを継続的に行った。また、1年次から夏休みの赤点者補習などを行った。数学、英語に苦手意識が強く、自己肯定感がもてない生徒が多いため、少しでも自分に自信が付けられるようにと、漢字検定の全員受験を行った。自宅学習を十分にできる生徒が少なかったため、朝自習の時間などを使い勉強させた。3年間継続させることにより7割近くの生徒が3級に合格し、準2級に合格した生徒も10名以上となった。このことは生徒達の大きな自信になったと思う。

3年生では進路希望を叶えると言うことで、就職希望者を集めて一般常識の勉強会を開いたり、大学希望者には1学期から論文指導を行い、AO受験に備えさせた。この結果、現役 進路決定率は最終的に8割を超えることができた。

## なぜ変わることができたのか

本校が自己啓発指導重点校に指定されてから5年が経過した。地域の方や保護者の方々に学校が変わったと言われることが多くなった。確かに学校の雰囲気は当時とまったく変わったと思う。なぜここまで学校が変わることができたのか。自己啓発指導重点校に指定された平成18年度の1年生(26期生)から船橋法典高校が変わったと思う。その理由は1つにまとめることはできない



が、校長の方針、学年主任の改革と学年職員の思い、それを支える生徒指導部の働きかけ等、 複数の要素が重なり変わることができたのだと思う。相変わらず学習が苦手な生徒や、きめ 細かな指導が必要な生徒が多いことは今も変わらない。この落ち着いた状況を継続していく には、職員の丁寧で熱心な指導と、それによって得られる地域や保護者からの信頼が重要に なってくると思う。

(川崎広美)

# ■ 自己啓発指導重点校と部活動

## グランドの改修

サッカーボールを蹴ると、生い茂った雑草でボールが止まるほど荒れ果てたグランドも、 平成18年3月の真間川流域貯留浸透施設の竣工とともに、本来のあるべき姿に戻った。水 はけが良く美しい現在のグランドは、このときに完成したものである。期せずして、平成 18年4月、本校自体を本来のあるべき姿に戻すべく、自己啓発指導重点校の指定を受けて、 建て直しが始まることになった。

生徒の学習意欲を高めるためにいくつかの方策がとられ、生徒一人一人にきめ細やかな指導が行われた。しかし、生徒の規範意識の向上や授業規律の徹底・出席状況の改善はすぐにとはいかず、目標の持てない生徒と職員集団との溝は、そう簡単には埋まっていかなかった。

## 寂しい放課後

当時の部活動の状況と言えば、放課後グランドには片手ほどの陸上部と数人の野球部、テニスコートはと言えばローラーを引いて整備を行うのは顧問の日課であったり、屋内では集会だけにしか使われなくなった柔道場、部員よりも台の数の方が多かった卓球部、体育館では使った用具やボール以外にゴミが散乱しているなど愛好会とも同好会ともとれないような活動をしている部が存在していた。平日の夕方になる前には辺りは静かになり、カラスの鳴き声だけが騒がしく響いていた。もちろん土、日は、部活動の生徒の声が聞こえるわけでもなく、学校の門の鍵を開け、学校に足を踏み入れることがとても重たく感じた時期があった。

## 固定観念を変えるために

自己啓発指導重点校の指定を契機にして、教室の枠の中だけでなく同じ価値観を持ち、 1つの目標に向かって活動する部活動を盛んにしていくことで、学校の活性化につなげてい こうとする取組が始まった。

中学校時代にリーダーシップをとって、まとめていく経験が少なかった生徒に対して、「どうせ自分なんか」「誰かがいつかはやってくれる」「見ぬふり、聞かぬふりをしていれば」など染みついた固定観念を変えさせる必要がある。そのために、興味のあること、経験や体験したことなどをきっかけに、自ら一歩を踏み出す勇気と、挑戦していく姿勢を少しでも身につけさせたいと、どの部活動の顧問も考えていたように思われた。

本校が自己啓発指導重点校に指定される前は、部活動加入者も少なく定着率も低かった。 その後、年々加入数の増加とともに定着率も上がって、平成22年5月の1年生の加入率は55%(前年は48%)で、平成21年5月の1年生の1年後定着率は89%(前年は55%)となった。中途退部者の数は減少傾向で、3年間継続して活動する生徒が増えてきた。

## 学校の活性化へ

ここ数年部活動の姿に変化がみられてきた。陸上部が2年連続の関東大会への進出者を出したり、いくつかの部が予選を勝ち抜き県大会へと駒を進めるなど日頃の成果が少しずつ良い結果として表れてきた。また、大会への参加にとどまらず、毎朝の清掃など奉仕活動の定着や毎月の自転車乗車マナーアップ隊として地域の交通安全に一役買って出るなど、各部活動の部員が学校の看板となっているといってもおかしくないほどの活動が見られるようになってきた。

落ち着いた環境で学習に取り組む姿勢をつくっていくためにも、規範意識を高める「厳しい指導」であったり、自尊感情を高める「温かい指導」など、教室の中だけで体得しきれないものを、部活動を通して培って行きたい。そして、一人でも多くの生徒が部活動に参加し、それらの生徒が、学校の活性化に貢献することを期待したい。

(小川康弘)













# ■ 規範意識の徹底

## 基本姿勢

規範意識を徹底する上で、生徒指導に係る本校職員の基本姿勢は、次の3点である。

① 保護者との連携

担任は、欠席・遅刻・早退を含め特に気になる生徒には家庭連絡を密に行なう。連絡が 取りにくい・子供に無関心・非協力的な保護者も少なくないので、根気強く行っていく必 要がある。

② 職員全体での指導

生徒は、指導に際して「○○先生はこう言った」「注意しなかった」など、自分に都合のよい解釈をする傾向がある。全職員が同じスタンスで、一丸となって指導しなければ、なかなか徹底できない。

③ 「見落とさない」「見逃さない」指導

生徒は注意されなければ、それでよいと思い、他の生徒にも広がる。常に生徒に目をくばりながら、根気強く継続して指導していく必要がある。

## 学年室当番

学年所属職員全員に、学年室当番を割振り、次のような業務を行なっている。学年室当番に当たっていない時間帯も、できる限り学年室で執務するようにお願いしている。

- ・チャイムが鳴る前に、廊下にいる生徒に入室を促す。移動教室の生徒への呼びかけ。
- ・空き教室の施錠(盗難防止のため)
- ・遅刻カード、入室許可証の発行
- ・頭髪服装指導(遅刻してきた生徒に対して)
- ・その他生徒への対応

## 立ち番指導

休み時間(昼休み)の外出を防止するため、正門・裏門に職員を配置している。4月中旬に分担を作成し、全職員で対応している。平成21年度からは、生徒の状況に応じて実施することにしている。

### <指導上の注意点>

- ・許可証(外出・早退届)のない者は、許可証を担任からもらってくるように指導する。 担任がいない場合は副担任か学年主任が許可する。許可証には必ず捺印が必要。
- 「そこの自動販売機で買うだけだから」というのも認めない。
- ・注意を無視して出ていった生徒がいた場合、生徒指導部に連絡する。「指導拒否」として 特別指導とするので、顔や特徴、人数などをよく確認しておく。

## 頭髪・服装指導

各学期の始め及び生徒の状況に応じて一斉指導を実施している。学年ごとの指導は、適宜 実施している。改善指導の延べ回数によって、担任・学年注意、家庭連絡、特別指導などを 段階的に実施している。

#### ① 頭髮指導

規定に合わないものは、改善指導とする。ただし、特別な事情がある場合には期日を設けるなど柔軟に対応する。なお、改善指導になった場合、授業は公欠扱いとする。

金髪・茶髪などの染色、脱色、パーマ等  $\rightarrow$  改善指導 エクステ等  $\rightarrow$  外す (外せなければ改善指導)

#### ② 服装指導

学校所定の服装がなされていない場合は改善指導とする。学校所定のもの以外のものを着て登校した場合は預かる。ただし、特別な事情がある場合には考慮する。その場合は異装願を生徒指導部に提出する。なお、改善指導になったとき、戻ってきた場合のみ授業は公欠扱いとし、戻ってこなかった場合は欠席扱いとする。



ピアス・イヤリング・指輪・ネックレス等の金属製アクセサリー類  $\rightarrow$  預かる 化粧について特に目立つもの  $\rightarrow$  改善指導

靴下は通常の形でないもの、無地で白・黒・紺のいずれでないもの → 改善指導 学校所定のブレザー・ズボン・スカート・ワイシャツ・ネクタイ・リボンでないもの → 改善指導

学校所定のセーター・ベスト以外 → 預かり スエット類 → 預かり

### 遅刻指導

遅刻してきた生徒は学年室で遅刻カードを記入し、学年室当番の印またはサインをもらい、そのカードをもって教室に入り授業担当者に渡すことになっている。授業担当者は、渡された遅刻カードに入室時刻と授業担当者名を記入し、出席簿に挟む。移動教室等の場合は、授業終了後、生徒が出席簿に挟む。担任は帰りのHRのときに、出席簿の記載と遅刻カードの有無を照合し、遅刻カードを書かないで入室した生徒がいた場合は、遅刻カードを記入させる。

学期ごとに、遅刻の回数によって、保護者召喚・担任(学年)指導、指導部長指導、特別 指導などを段階的に実施している。

## 早朝登校制度

午前7時45分から午前8時15分までに登校した生徒に対して、「早朝登校証明書」を発行し、保護者召喚・担任(学年)指導に相当する遅刻回数に関して、証明書1枚につき1回、本人の遅刻回数を減らせるようにしている。

## 授業規律の確立

授業規律を確立し、すべての生徒が落ち着いて学習に集中できる環境を確保する。そのために、全職員が協力して「見落とさない・見逃さない指導」を行なっている。また、学校全体で統一的な指導ができるように、授業中の対応を次のようにマニュアル化している。

① 授業の最初に「携帯電話は鞄にしまうこと。鳴ったり、さわったりした時点で預かり

ます。その他授業に関係ない物もしまうこと。見つけ次第預かります。」と宣言する。

② 授業に関係ない物を使用したり、机の上に置く行為

(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、漫画・雑誌、化粧品、飲食物等)

その場で預かり、放課後に学年主任又は担任から返却する。生徒が「預かり」を拒否 したときは、「問題行動カード」を発行する。それでも拒否する場合は、学年室の他の職 員と連携して別室での特別指導とする。

③ 授業への遅刻

生徒は「入室許可書」を記入し、授業担当者に渡す。入室許可書5枚で問題行動カードを1枚発行する。

④ 授業妨害に及ぶ行為(大声でしゃべる・騒ぐ、無断での教室の出入り・立ち歩き、無断での座席の移動等)

口頭で注意し、従わないときは、問題行動カードを発行する。それでも従わない場合は、学年室の他の職員と連携して別室での特別指導とする。

⑤ 問題行動カードの累積枚数によって、自宅謹慎を含む特別指導を行なう。

## 始業前の音楽放送

朝のSHR開始前の5分間と5時間目の始業前5分間に、予鈴の代わりの音楽を放送している。これによって、授業等の準備や心構えが無意識にスムーズに行なえるようになっている。

# ■ 学年室体制による生徒のサポート

普通教室棟の各階に学年室を配置し、常に学年職員が2名常駐(時間割に当番を割り当てる)する体制を整え生徒をサポートしている。本校では、遅刻してきた生徒や授業中に教室を退室した生徒は、教室に入室する前に学年室を経由しなければならないことになっている。該当する生徒は学年室で、遅刻の場合は遅刻カード、再入室の場合は入室許可証を記入することになっており、学年職員が対応にあたる。遅刻の回数や入室許可証の枚数によっては、特別指導の対象になるのだが、ペナルティーを与えることが目的ではなく、カードを通しての生徒一人一人と話をして生徒理解を深めることがねらいである。また、生徒に対して理由を聞くだけでなく、挨拶の仕方や服装の指導、健康観察などを含め、生徒とコミュニケーションをとるなかで、人間関係の形成や生徒の様子の変化に気づき、生徒をサポートするシステムになっている。このように学年室でのサポート体制が整っているので、生徒の相談などには入室しやすい環境となっており、臨時の相談室にもなり、生徒が頻繁に出入りできる環境を整備している。

保健室に行くにも学年室を経由(学年職員が養護教諭に事前連絡する)することになっており、生徒の様子を学年職員が把握できるようになっている。体調が悪いだけでなく、不安や悩

みを持っている生徒が、学年職員に相談することで気分が落ち着き、すっきりして保健室に行かずに教室に帰っていくという場面も多く見られる。

このように本校の学年室は、生徒との人間関係作りや生徒理解、相談から指導まで、生徒一 人一人にあったフォローをできる場所として機能している。

# ■ カードによる生徒のフォロー

本校には、当たり前のことやルールが守れない生徒もいる。生徒指導部が中心となり様々なルールを設けて対処しているが、その1つの手段としてカードを利用している。先の学年室体制のところで、遅刻カードや入室許可証について説明したが、他にも、問題行動カードなどがある。授業規律や教員との対話などで違反した生徒に対し問題行動カードの利用もあるが、他のカード同様、あくまで指導の中での発行である。なぜ、カードの発行に至ったかの経緯を説明し、理解させ素直に聞かせる手段でもある。

最近は、指導することによって「切れる」生徒も少なくなったが、以前は指導中に癇癪を起こし、退室してしまう生徒もいた。よく話しをして何が悪かったのか、どうしてそうなったのかを整理整頓することが必要だが、そのためには教員との信頼関係が必要となる。普段の学校生活の中で、いかに生徒一人一人を理解して接しているかどうかが重要となる。そのような中で、生徒との信頼関係が築かれ、指導が生きるのではないだろうか。他には、改善指導カードがあり、服装・頭髪指導の際に利用しているが、他のカード同様の目的で利用している。

このように、本校では様々なカードを利用して指導にあたるが、職員間の共通の認識が必要となる。そこで、遅刻指導や授業規律を守らせる指導、学年室常駐についても年度始めに生徒指導の手引きを職員に配付し共通理解のもとで指導にあたっている。

# ■ 生徒理解と教育相談

## 生徒面談週間

本校では生徒との面談を、生徒理解の最も基本となる場と捉え、年度始めの4月中旬と夏休明けの9月上旬の2回、生徒面談週間を設定している。面談週間中、学級担任は、昼休みや放課後を利用して、学級の生徒全員と面談を行う。面談週間以外でも、進路相談等を含め広く教育相談活動として生徒面談を行っている。

## 保護者面談週間

保護者面談は、生徒理解のための基本であると同時に、保護者との信頼関係づくりの場と

して大きな価値がある。本校では、保護者面談週間を6月中旬及び11月中旬の2回設けており、保護者の便宜を考え、面談週間には土曜日が含まれるようにしている。面談週間の土曜日には授業公開も実施している。保護者の仕事の関係で、面談希望時間が遅い場合も、可能な限り対応するようにしている。また、必要に応じて、家庭訪問も実施している。

## 教育相談委員会と特別支援教育校内支援委員会

授業時間割の中に教育相談委員会の時間を確保し、必ず週1回は開催するようにしている。これにより、平成20年度は計26回、21年度は計29回実施することができた。メンバーは各学年から1名、養護教諭、スクールカウンセラー、生徒指導部から2名という構成になっている。平成20年度から、特別支援教育コーディネーター2名が加わり、教育相談委員会のメンバーは、特別支援教育校内支援委員会のメンバーを兼ねることになった。教育相談委員会としての活動は、各学年の教育相談的な対応を必要とする生徒の情報交換と具体的な対策についての検討であった。平成20年度からは、特別支援教育校内支援委員会としての活動に軸足を置いている。毎週の委員会の中で、月5日以上欠席のある生徒、学習面や生活面で困り感のある生徒、その他気になる生徒を把握し、支援策を検討するとともに、スクールカウンセラー・相談室との情報交換や相談室の利用状況の把握、また、ソーシャルスキル教育の準備等を行なっている。

## 教育相談等の校内研修会

教育相談委員会が企画運営する、年2回の教育 相談校内研修会を行い、これによって教育相談の資 質向上に努めている。平成17年度までは、生徒や 保護者との面談を意識した面接法などの研修が多か ったが、生徒の変化に伴い、平成18年度以降は、 社会性の育成や対人関係の改善など、教育相談の予 防開発的な側面を重視する内容となっている。平成



18年度は「アサーショントレーニング」と「VLF」(相手の気持ちを推し測る集団指導プログラムの1つ)、平成19年度は「ソーシャルスキルトレーニング(SST)」の研修を行った。

平成20・21年度は、「高等学校における発達障害支援モデル事業」の実践研究に伴い、特別支援教育の研修を中心に実施した。平成20年度は、植草学園大学准教授の鳥居深雪氏を講師として招き、「高等学校における特別支援教育の在り方」、「発達障害の理解と支援策」及び「ソーシャルスキル・エデュケーションの理論と実践」について3回の研修会を、また、日本カウンセリング学会認定カウンセラー会会長の下司昌一氏を講師として招き、「高等学校における教育相談と特別支援教育について」をテーマとした研修会をそれぞれ実施した。平成21年度は、鳥居深雪氏を講師として招き、「個別の指導計画と教育支援計画」、「個別の指導計画と事例研究」について2回の研修会を、また、メンタルクリニック院長の永井俊哉氏

を講師として招き、「精神科医からみた思春期の子どもが抱える問題と対応策」をテーマとした研修会をそれぞれ実施した。これらの研修会を通して、特別支援教育が高校で必要な背景、発達障害の基礎知識、自己啓発指導重点校の取組との関連性などについて、職員の理解を深めることができた。

### 相談室の状況

相談室には、毎週金曜日、スクールカウンセラーが常駐して生徒からの相談を中心に、保護者や教員の相談を受けている。スクールカウンセラーのいない日も、2人いる養護教諭のうち1名が常駐しており、毎日相談を受けることができる体制になっている。さらに平成19年度からは、生徒からの相談を受けやすくするために、スクールカウンセラーとの



面接に限って授業は公欠扱いとするようにした。同時に、普通教室を使っている相談室の中に、間仕切りをして、よりプライバシーに配慮した面接室を新たに設けた。スクールカウンセラーと養護教諭は、特別支援教育校内支援委員になっているので、週1回の委員会に出席して情報交換を行っている。また、相談室の活動を周知するため、保護者には年度初めに相談室の利用案内を配布し、生徒には定期的に「相談室だより」を発行している。

利用状況であるが、相談という形で予約して来る生徒は少なく、「なんとなく話をしに…」と相談室に来て、スクールカウンセラーや相談室担当養護教諭と会話をする生徒が多い。特に相談するというわけでもなく、相談室に頻繁に来る生徒は、家庭や集団適応に何かしらの不安を抱えていることがある。自身の問題として、相談としてまとめることができないので相談室に来て無駄話として話すが、漠然とした孤独感や不適応感、欲求を抱えており、自分に愛情と関心を注いでくれる人との関わりを求めて相談室に来るケースがある。あるいは怒りや不安を自分で消化しきれず、その助けとなる友人関係もないため、相談室で話して気持ちの安定を保っている場合もある。

相談内容は、友人や恋愛など人間関係に関するものが最も多く、次に学校に来たくないなど不登校に関するものが多い。友人関係に関しては、深刻ないじめやトラブルよりもむしろ、対人スキル不足によるものや、自尊心の低さなどにより、意見の食い違いやミスコミュニケーションに耐えきれないで相談に来るケースが多い。また、中学でいじめや不登校を経験し、その傷や原因を持ち越したまま入学してきて、同じパターンを繰り返しそうなので相談に来るケースもある。

## スクールカウンセラーの活用

週に1回だけの勤務であるが、スクールカウンセラー活用推進計画を作成し、それに基づいて以下の事項を行なうことになっている。

① 保護者・生徒・教員を対象とした個別の面接相談

教育相談室を中心に、一部保健室等も使いながら、通年実施している。また、相談室だよりを月1回発行し、予防・開発的な側面として広報活動も行なっている。

② 保護者・教員を対象としたコンサルテーション的な相談 保護者や教員が、自分のかかわっている生徒との接し方を個別具体的に相談できるよう

にしている。特に保護者に対しては、毎学期広報し、 積極的な利用を呼びかけている。保護者対象の電話 による相談活動も可能な限り実施している。

③ 保護者・生徒・教員を対象とした研修会の実施 各学年ごと、生徒対象に年1回は講演や演習の形 (学年の人数は少ないので演習形式も十分可能)で かかわってもらう。さらに保護者や教員対象に、子 ども達とのかかわり方を中心とした内容の研修を実 施している。



# ■ 掲示物の工夫

一般に高校では、中学校と比べて、教室や廊下の掲示物にあまり気を使わなかったり、壁面が閑散としていることが多い。本校では、全校で掲示物の充実に心掛けている。例えば、各ホームルーム教室では、設定した学年目標や学級目標を、学校目標や校歌と一緒に並べて分かりやすく掲示している。教室の後ろの黒板には、2週間分の行事予定を掲示し、連絡事項を書き込めるコーナーも作るなどして、工夫している。こうすることで、口頭だけでなく視覚から情報を得ることができるので、生徒も常に確認がしやすい環境となっている。日課の変更等の連

絡も、口頭でだけでなく、必ず板書するようにしている。また、毎月の皆勤者、年間計画、行事に向けての連絡など、様々な情報を工夫して掲示している。その他、1学年の各クラスでは、入学直後に「高校生になって」というタイトルで書いた作文の一部を無記名で掲示した。以下はその一部であるが、どれもとても素直に書かれており、生徒同士の親近感や安心感に繋がるものである。



「目標は、学校を休まず遅刻せずに来ること。なぜなら中学校ではすごく休んだから。」 「高校生になって頑張りたいことは、新しい友達をたくさん作ることです。一生つきあえる 友達を作りたいです。」

「高校生になって不安でいっぱいです。勉強について行けるか、すごく心配です。」

「高校生になって頑張りたいことは、就職のことをいっぱい学ぶことです。卒業したら就職 を考えています。就職するのに何が必要なのか、わかりません。」

「中学校の時は、家庭教師をつけて学習をしました。これからは自分の力で頑張りたいです。」

# ■ 各教科の学習支援

自己啓発指導重点校の中心となる取組として、少人数指導やティームティーチングによる「きめ細かで丁寧な指導」を行ってきた。しかし、元々教科に対する苦手意識や学習の場面での困難さを感じている生徒が多く、全員が参加できる「わかりやすい授業」を実践するためには、単に教師の数を増やし、講座ごとの生徒の数を減らすだけでは、解決できない部分も多かった。そこで、それぞれの教科担当者が実践している指導上の様々な工夫や配慮を、皆で共有して、学校全体の実践に繋がるよう、教科ごとにまとめることにした。また、各教科で特別な教育的支援を必要としている生徒が、どのクラスにも必ず存在するという前提で取り組むことにした。以下は、教科ごとの学習支援について、「学力向上のための全体への支援」、「学力向上のための個別支援」、「授業に集中できない生徒への個別支援」及び「評価での配慮」の4つの視点でまとめたものである。

## 国語での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・考え方や説明の筋道をわかりやすく視覚的に示す。
  - ・ 反復練習、口頭での指示の反復、学習内容の再確認など、学習場面での繰り返しを多く する。
  - ・普段あまり使わない用語を説明するときに、時間をかけて平易な言葉を使って説明する。
  - ・プリントには、わかりやすい説明図やたとえ話などを必ず入れるようにする。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・プリントの課題を作成するとき、苦手意識があり時間がかかりそうな生徒のために、別のプリントを用意する。
  - ・暗記や書き写すことが特に苦手な生徒に対しては、課題の出し方を工夫する。
  - ・欠席が多く、平常の授業内容の理解や提出物の状況がよくない生徒については、定期考 査前後に個別に指導する機会を設け、授業内容を補うようにする。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・該当生徒がいる場合は、他の生徒との学習環境の共有ができるよう働きかける。見過ご して何もしなかった、ということのないように留意する。
  - ・個々の担当者の特長を活かして生徒一人一人にアプローチしながら、授業が学習の場で あることを時間をかけて丁寧に説明し、理解させるよう努める。
  - ・「問題行動カード」の活用や学年職員室での個別面談などで対処する。
- ④ 評価での配慮
  - ・達成感を味わえるように、課題の提出状況など目に見える形での評価を大切にする。
  - ・観点別評価の面から努力の跡を評価に反映させるなど、日々の学習活動が評価できるように工夫する。

### 地歴・公民での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・授業の導入では、簡単な質問を投げかけ、学習意欲を高めるようにする。
  - ・授業の話題として、その日のニュースなども取り入れ、飽きないような工夫をする。
  - ・授業中は、聞き取りやすいように、できるだけゆっくりと話す。
  - ・用語の解説は、わかりやすい言葉を使い、例を挙げて説明する。
  - ・作業の説明などの場面で、同じことを繰り返し質問される場合があるが、個別に丁寧に 答えるようにする。
  - ・板書やプリントにおいて、難読漢字に限らず難しそうな漢字にはルビをふる。
  - ・専門用語は目立つように大きく板書する。用語の説明の板書は、全体を色チョークで囲むようにする。
  - ・毎回授業用プリントを用意し、書くことが苦手な生徒にも取り組みやすくする。
  - ・大判の写真、かけ図、DVDの映像などの資料をできるだけ利用する。
  - ・生徒のやる気を喚起するために、達成感が沸くような課題を出す。
  - ・提出させる課題は、生徒自身が教科書で調べられる内容で、主に穴埋め形式のプリント を使う。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・一斉の作業等で遅れがちな生徒に対しては、机間指導の場面を利用して、個別に支援する。
  - ・サブノートを作成し、穴埋め等の作業を行う中で、一人一人の課題を明確にする。
  - ・ノートをとるのが遅い生徒のために、板書の仕方を工夫したり、板書を写す時間を十分 にとるようにする。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・私語の多い生徒や関心の低い生徒を、主人公や場面の登場人物にして、ロールプレイの ような型で授業を進めるなどして参加できるように工夫する。
- ④ 評価での配慮
  - ・生徒の習熟度に合わせて評価基準を設け、まじめに取り組む姿勢をできるだけ評価する。
  - ・作業を伴う学習を多く取り入れ、その取組の状況を評価する。
  - ・授業の補助プリントを毎時間回収し評価するとともに、他のプリント類も含めて、1つのファイルとして整理する仕方も評価する。

## 数学での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・小・中学校段階の知識や技能が必要な場面では、生徒の習熟度を把握し、場合によって は、十分に時間をかけて復習するようにする。
  - ・授業中は、基本的な既習事項や誰でも疑問に思いそうな点について生徒に質問を投げか け、思い出したり、考えたりする時間を多くとるとともに、質問に答えることで達成感

が得られるようにする。

- ・話し方の工夫として、「△ページを開けて」「問△を見て」など生徒への指示は、同時に たくさん出さずに、一つずつ順に分かりやすく出すようにする。
- ・プリントの課題を用意するとき、意識して、全員にできる課題と発展的な課題とに分け て作成するようにする。
- ・板書するとき、チョークの色は3色のみ使い、白(鉛筆) 黄(重要) 赤(公式) など使い分ける。
- ・授業の中で机間指導など、個別に対応する時間を増やすとともに、定期考査前には、放 課後の補習を行い、弱点を補うようにする。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・ノートを取るのが苦手な生徒のために、板書を写す時間を十分に確保する。
  - ・簡単な計算を苦手とする生徒に対しては、簡単な計算のプリントを別に用意し、授業中に一緒に学習したり、放課後を利用して練習する。また、演習の時間などにも、個別に 指導する時間を作る。
  - ・数学に興味・関心を持てない生徒に対しては、生徒との会話を多くして、質問しやすい 環境を整えたり、グループ学習で教えあう時間を設けるなどの工夫をする。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・普段の学校生活の中で、生徒との人間関係づくりをする。
  - ・生徒が興味・関心をもって取り組める課題を用意する。
  - ・机間指導などで、個別に対応する。
- ④ 評価での配慮
  - ・努力が見られる生徒に対しては、ノートなどの提出物を評価して加点するようにする。
  - ・できるだけレポートを提出させる機会を多くし、その提出状況や内容を具体的に評価する。

# 理科での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・授業のノートは毎時間1ページを基本にし、はじめに日付とタイトル(授業目標)をかかせ、その日の授業のノートのレイアウトを黒板にかいて説明する。
  - ・板書の字は大きく書き、ノートをとる時間を十分に確保する。
  - ・作業中は、できるだけ机間指導などで、個別に指導する時間を作る。
  - ・図や絵を描いたり、色を塗るなどの作業も多く取り入れるようにする。
  - ・身近な例をあげて説明し、難しい言葉はなるべく使わないようにする。
  - ・毎時間、最後に簡単な問題を出し、その解答状況を評価すると同時に、理解できていな い生徒を発見し、個別指導を行う。
  - ・実験観察の場合は、T・Tで気になる生徒をできるだけフォローする。
  - ・定期考査前に復習のためのプリントを作成し、全員にきちんと取り組ませる。

### ② 学力向上のための個別支援

- ・数学的な考え方を使う場面で、なかなか理解できない生徒については、ステップ・バイ・ステップの学習プリントを利用して、生徒同士の教え合いや、放課後の短い補習などで対応する。
- ・日本語が不自由な生徒については、丁寧に理解度を把握しながら、必要な個別指導を行 う。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・座学で参加できない生徒でも、実習では熱心に取り組むときがあり、実習をうまく利用 して参加できるように工夫する。
  - ・授業に集中できず私語が止まらないなど他の生徒の迷惑になる生徒がいたら、問題行動 カードを利用して指導する。
- ④ 評価での配慮
  - ・テストの成績が悪くても、欠席をせずにしっかり授業を受けている生徒には、できるだ け平常の評価が良くなるよう配慮する。また、授業中の発言やノートの内容もできるだ け評価する。
  - ・毎時間のノートのチェックに際しては、努力しても字が汚かったり、絵が下手だったり という生徒がいるので、個人内評価を行うようにする。

## 保健体育での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・技術向上だけを目的とするのではなく、いろいろな単元(種目)に取り組ませ、各種目の の醍醐味を味合わせ、やる気の伸長に努める。
  - ・人間関係を考慮したグループ分けをすると同時に、別のグループの生徒との関わりをも たせるような場面も作るようにする。
  - ・1クラスを2名の教員で指導し、すべての生徒の活動に目が届くようにする。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・運動が苦手、意欲が湧かない、コミュニケーションが難しいなどの理由で、積極的に参加できない生徒については、本人から話を聞く機会を設けて、どのようにしたら、うまくいくかを話し合い、できるところからスタートさせるように指導・助言をするとともに、つまずきが生じたら、その都度、話を聞くようにし、次へのステップに着実に進めるように支援する。



- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・技術面で遅れをとる生徒や授業参加がうまくできない生徒には、グループ内での役割分担(準備、片づけなど)を確認し、グループの一員としての自覚を促すとともに、その活動状況も評価する。

・落ち着きのない生徒については、授業担当者2名のうち1名がその対応にあたり、落ち着いた状態で授業に参加できるようにする。

#### ④ 評価での配慮

- ・運動を苦手とする生徒も多いので、授業への出席状況、参加状況、協調性などを、観点 別評価の「関心・意欲・態度」の中で特に重視して評価する。
- ・「知識・理解」の観点については、生徒にゲーム運営を行なわせるなどして、単元ごとの ルールやマナーの理解度で評価する。
- ・リーダー育成のため、班別学習を積極的に取り入れたり、体育委員の活躍の場を設け、 生徒の頑張りを積極的に評価する。

## 芸術での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・一度に多くのことを伝えようとせずに、指示は 1つずつ丁寧にし、教科書やプリントのどこの 説明かを明確にしておく。
  - ・話し方では、大きな声で、語尾をはっきりさせることが基本で、重要なことを繰り返し言う場合、逆に要点を「1回」だけ言って強調する場合などメリハリをつけるようにする。



- ・板書は、大きな文字で見やすく書き、重要事項は必ず黄色チョークを使用するなど、できるだけパターンを決めておく。また、板書を補うためのプリント類や、磁石で黒板に貼る掲示物なども状況に応じて併用する。
- ・一斉指導の後、必ず個人指導の場面で生徒の個々の状況の確認し、次の一斉指導について来られるように支援する。
- ・課題はできるだけパターン化しておき、どこに何を記入するのか、毎回必要なことは同じ位置、同じ形で提示できるようにする。また、提出された課題は、確実にチェックし、 赤ペン等で指導事項を書き込むとともに、返却時に口頭でも指導する。
- ・単元によって、グループごとの作業を行い、皆で協力できる場面を用意する。
- ・授業中に何か指示する時に、すぐに生徒を指名せず、「誰か答えてくれる人」「誰かやってくれる人」などと声をかけ、生徒の自主性に訴える場面を用意する。
- ・表現することが得意な生徒とそうでない生徒がいるが、授業の最初のガイダンスで「上手に描こうとしなくてよい。お互いにみているものが同じだと思わなくてよい。描くことを怖がらず描いて欲しい。描く人によって違ってかまわない。(色調などは、見ている人によって、またその時の心理状態にも左右されるもの)」と伝える。(美術)
- ・クロッキーの授業では全員がモデルをやり、10分間動かず話さず、皆の視線を浴びる ことを経験させ、話しをしない、動かない、短時間で形を描くことに慣れさせる。(美術)
- ・個人指導での範書は、生徒の席で、生徒の用具用材を使用して行い、用具についての指導も行う。(書道)

### ② 学力向上のための個別支援

- ・学習意欲のない生徒に対しては、個人指導の時間を作り、一緒に練習したり、練習方法 などもアドバイスする。少しでも上達が見られたら、褒めたり励ましたりして学習意欲 を高める。また、学習カードを用意し、毎時間の練習目標と練習進度状況、感想・反省、 自己評価を記入させるようにする。
- ・作業等の指示が一斉の説明では、理解できなかった生徒に対しては、机間指導の際に、 プリントや教科書を使って順を追って丁寧に説明する。
- ・描くことに抵抗をもっている生徒に対しては、授業での時間配分を個別に決め、集中して描こうと努力する時間、自分の作品を客観的にみる時間、考える時間などと分けて取り組ませるようにする。これにより時間内にやるべきことを明確にし、集中力を高めるようにする。また、同じ題材でも生徒によって表現意欲や、表現方法が違うため、画材などはできるだけ生徒が使いたいものを自由に使わせるようにして、意欲的かつ、主体的に取り組めるようにする。(美術)
- ・どうしても描くことができない生徒に対しては、教師がデモストレーションを行い、その作品をトレースさせるなどして、作品を完成させる喜びを味わわせるようにする。(美術)
- ・作品製作が進まない生徒に対しては、生徒の座席で、生徒の道具を使って範書して見せる。 れ間指導においても気をつけて言葉がけをする。(書道)
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・グループでの作業時は指導者も中に入り、全員と作業をするようにこころがける。
  - ・集団生活をしていることを、しっかりと認識させ、皆と協調できるように時間をかけて 指導する。
  - ・落ち着きがなく集中できない生徒がいる場合は、本人の日常の変化や生活上で困っていることがないか、それとなく聞き出して話し合い、その生徒の立場を踏まえて、作品のすすみ具合を見ながら課題をこなしていく指導をする。
  - ・生徒同士で教え合えるような場面を大切にする。
- ④ 評価での配慮
  - ・作品の善し悪しだけでなく、授業態度や協力性も大きく評価する。また、そのことを予め生徒に伝えるようにする。
  - ・得意、不得意があるので、完成度よりも上達度をみて、「真面目に取り組んでいるか」「まわりに迷惑をかけていないか」をしっかり評価する。
  - ・その日の指導内容がわかって作品づくりができていれば、合格点を与えるようにしている。

## 英語での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・説明をしている箇所がわからなくなってしまう生徒もいるので、板書する際、説明をする際、どこをやっているのか指示を明確にする。また、説明が理解できたか、ノートを

きちんととっているかなど、机間指導を増やして、確認しながら授業を進める。

- ・板書は文字を大きく書き、配置にも注意する。また、色チョークを使って、視覚に訴える板書をこころがける。
- ・ノートをとるのが遅い生徒のために、常に板書が残っているような黒板の使い方を工夫する。
- ・補助プリントを使用する場合は、その解答が板書の中に見つけられるような工夫をする。
- ・早口にならないよう話すスピードに注意する。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・ノート作りに時間のかかる生徒に対しては、単語練習や英文練習プリントを用意し、英 文をたくさん書く練習をさせる。
  - ・英文の音読ができない生徒に対しては、単語の読み方を教科書に書かせる。また、発音 練習の際にはそばに立ち、その生徒の音を聞き、正しく発音しているか確認する。
  - ・成績が振るわない生徒に対しては、テスト前に2時間程度の補習を何回か行って、基礎 基本を補い、ある程度自信を持たせてからテストに臨ませる。また、テスト終了後は、 できなかった箇所の課題を用意し、復習させるようにする。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・授業中に参加できない生徒に対しては、答えられそうな問題で指名したり、机間指導で ノートのとり方などを丁寧に指導するようにする。
  - ・授業中の教室は私的空間ではなく、公の場であることを根気よく諭す。
- ④ 評価での配慮
  - ・一人一人の良いところに目を向けて評価するように心がける。
  - ・テストの得点で評価するだけでなく、授業への取組、板書をきちんとノートに写すこと、 忘れものをしないこと、課題を提出することなど授業に臨む姿勢全般を重視して評価する。

## 家庭での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・教具や実物を使用して説明し、視覚的に印象付けるようにする。
  - ・板書は色チョークを使用して見やすくし、難しい漢字には、ふりがなを振るようにする。
  - ・説明は、一方的にならないように、生徒の様子を確認しながら行い、できるだけ平易で 身近な言葉を使うようにする。
  - ・課題やレポートは、できるだけ教科書や資料等を自分で調べて、書くことができるよう な内容とする。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・被服製作が苦手な生徒には、そばに行き、物差しの測り方、印のつけ方、ミシンの使い方などを丁寧に教える。
  - ・作業が遅い生徒には、放課後、個別に丁寧に指導をする。
  - ・調理が苦手な生徒には、生徒の前で、切り方・調味料の計り方の手本をみせる。

- ・プリントが提出できない生徒には、声をかけ、提出物を出すよう促すとともに、プリントを再度渡し、テスト前に個別に指導する。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - ・プリント学習などの場合には、生徒のそばに行き、「ここにこのように書くように」と具体的にマンツーマンで指示をする。
  - ・欠席した生徒でも実習レポートが提出できるように、参考資料として、要点をまとめた プリントを用意する。
- ④ 評価での配慮
  - ・それぞれの習熟度にしたがって到達点を考慮するようにする。
  - ・以前より態度、提出物など何かしら向上が見られたならば、プラスの評価とする。

## 情報での学習支援

- ① 学力向上のための全体への支援
  - ・講義よりも情報のリテラシーの体得に重点を置いた授業を心がけ、実習を多く取り入れ るようにする。
  - ・ワープロソフト等での初歩的なキーボードやマウスでの操作及びタイピングについて、 反復して練習する機会を設ける。
  - ・習熟度の高い生徒が、近くで困っている生徒を教えるなど、生徒同士の教え合いを促す。
  - チームティーチィングでの机間指導を行い個別指導を徹底する。
- ② 学力向上のための個別支援
  - ・ワープロ等で文字入力が極端に遅い生徒については、個別指導や近くの生徒に見てもら うなどして、特に、ローマ字入力の習熟度を高めるようにする。
- ③ 授業に集中できない生徒への個別支援
  - チームティーチィングで指導する実習科目であり、個別対応の時間を十分に割くようにする。
- ④ 評価での配慮
  - ・授業内で作品の制作が終わるように工夫し、作品の評価を重視する。

## ■ 着任職員への説明

異動する職員にとって、着任した学校の生徒の実態に合った授業を行うことは、当面する大きな課題となる。進学指導重点校から自己啓発指導重点校への異動、あるいは、その逆の場合もある。

授業の要素は、大雑把に言えば、学習者へ伝える内容(Contents)と、その伝え方(Delivery)であり、生徒の実態に応じて、それらを調整しなければ、授業が成立しない。したがって、生

徒の習熟度によって取り扱う内容を適切に選択し、生徒の興味関心の度合いにより指導法を工夫する必要がある。そこで、本校では、4月1日に行う着任職員のオリエンテーションのときに、生徒の習熟度や興味関心の度合いについて、具体的に説明するようにしている。また、効率よく Contents と Delivery を調整できるように、以下に示すような「授業での配慮事項」を印刷して配付している。内容は、どれも初任者研修で扱うようなもので、ベテラン教員には特に目新しい事柄はないが、基本に忠実であることの大切さを示す資料である。

### <授業での配慮事項>

### (1) 板書

- ・板書の文字は大きく丁寧に書くことを心掛ける。
- ・最初に授業のテーマや目標を目立つように書き、できるだけ最後まで消さないようにす る。
- ・色チョークの使い方に注意し、重要事項を目立たせるなど板書をパターン化しておく。
- ・授業の内容によっては、説明図の拡大コピーを黒板に貼るなどの工夫をする。
- ・写真や映像等の視覚教材を積極的に利用する。

#### (2) 教材

- ・苦手意識を持つ生徒向けの課題から発展的な課題まで準備し、全ての生徒に対応できるよう配慮する。
- ・達成感が味わえる課題を用意する。
- ・長い文章が苦手で読解力に課題がある生徒のために「穴埋めプリント」なども利用する。
- 難しい漢字にはできるだけルビをふる。
- 課題やノート提出などを日々の授業の中でパターン化しておく。
- ・補助プリントを活用して、書くことが苦手な生徒や欠席した生徒をフォローする。

#### (3) 指導方法

- ・学習するための教室環境を整えてから授業を開始する習慣をつける。
- ・机間指導を適宜取り入れ、個別指導の時間を確保する。
- ・ティームティーチングの利点を活かし、個別指導を充実させる。
- ・できるだけわかりやすい言葉を使い、例をあげて説明する。
- ・指示は1つずつ出し、全員に徹底する。
- ・伝えたい情報を明確にして、説明もできるだけ繰り返すようにする。
- ・ノートをとる時間を十分に確保する。
- 授業ごとのノートのレイアウトを提示する。
- ・視覚優位と聴覚優位の生徒がいることを踏まえ、説明の仕方やプリントの作り方を工夫する。
- ・生徒に解説させたり、知っていることを話させたりする。また、ロールプレイの手法も 利用して、理解を深める。
- ・グループ活動を取り入れ、生徒同士の関わりをもたせることで教えあいを促す。

### (4) その他

・教室は公共の場、学習の場であることをきちんと理解できるようにする。

- ・生徒に関わる時間を増やすとともに、できるだけ良いところを見つけてほめるようにする。
- ・同じ質問であっても、丁寧に何度でも答えるようにする。
- ・授業中に問題を起こした生徒がいた場合には、問題行動カードを利用して指導し、学年 室で対応してもらう。
- ・生徒に注意を与えるとき、例えば、「~するな」ではなく「今は~をやろう」などのよう に表現方法を工夫する。
- ・生徒に注意や指示を与えるとき、その目的や理由について丁寧に説明する。
- ・簡単な質問を投げかけたり、生徒の興味のある話題に触れるなど、授業に引き付ける工 夫を欠かさない。

# ■ さわやか朝自習

朝の10分間を授業へのウォーミングアップの時間とし、授業に臨む態勢を整えるとともに、主体的な学習態度を確立させるために「さわやか朝自習」を実施している。教育課程上の「ホームルーム活動」に位置づけ、基礎学力定着のための学習、読書活動、進路対策、学校行事の準備学習などを計画的に継続して行なっている。

この朝自習を、担任や副担任として担当することで、 生徒の一般常識や基礎学力の状況を具体的に把握するこ とができる。また、自分の担当教科以外の分野を教える ことになるので、指導法の工夫に繋げることもできる。

朝自習の実施時間は、原則として午前8時35分からの10分間で、1校時が体育の場合は5分間としている。

日 課 表

	- H-1: P-1
S. H. R	8:30~ 8:35
朝自習	8:35~ 8:45
1 限	8:50~ 9:40
2 限	9:50~10:40
3 限	10:50~11:40
4 限	11:50~12:40
昼 食	12:40~13:25
5 限	13:25~14:15
6 限	14:25~15:15
清 掃	15:15~15:25
S. H. R	15:25~

### <主な実施内容>

1 学年	読書、えんぴつで奥の細道、百人一首、校歌書写、漢字検定対策ワーク、
	基礎力小テスト、基礎力定着確認テストなど
2 学年	読書、基礎力ドリル、沖縄豆知識、えんぴつシリーズ、進路資料を読む、
	漢字検定対策、就職試験対策ドリルなど
3 学年	漢字検定用小テスト、地理A、就職試験対策ドリル、えんぴつシリーズ、
	読書、百人一首書き取りなど

### <実施上の留意点>

- ① 当該の学級担任又は学級副担任が指導し、教務 部及び各学年の朝自習係が準備等を担当する。
- ② 職員の朝会や朝のSHRを定時に終えるように し、朝自習の時間を確保する。
- ③ 指導者は、生徒が落ち着いて静かに「自習」ができる環境を整える。
- ④ 実施担当者は、教科担任と協力して、できるだけ生徒の知識欲を刺激する教材を準備する。



- ⑤ 実施担当者は、学年主任と連携して、LHRや「法典タイム」に係る調整を行う。
- ⑥ 検定や学校行事と関連して扱うなど、明確な目標を設定し、生徒が達成感を味わえるように工夫する。また、達成度の高い生徒については、表彰できるものとする。
- ⑦ LHRや「法典タイム」などで、朝自習の内容に係る確認テスト(10~15) 分程度) や競技会(百人一首カルタ大会など)を実施し、知識の定着を図る。
- ⑧ 定期考査中の朝自習は、生徒各自の試験勉強を行う。
- ⑨ 秋の読書週間中の朝自習は、全学年で読書活動を実施する。

(参考) 平成21年度の漢字検定の合格者数

	準2級	3級	4級	5級	合計	
3 学年	1 1	3 6	9	0	5 6	
2 学年	6	2 8	1 0	2	4 6	
1 学年	1	9	9	7	2 6	

## ■ 充実した理科の実験

平成22年度、理科の授業において、抽象的な原子やエネルギーに関する概念を、実験器具を活用することにより具体的に分かりやすく指導する取組を行った。実験器具の購入には、文部科学省の「原子力・エネルギーに関する教育支援事業交付金制度」を利用した。具体的には、1学年で履修する理科総合Aの単元「核エネルギーの利用」において、「放射能鉱物標本」や「原



子燃料鉱物標本」を実際に使用し、放射線の強さを測定したり、放射線の飛跡を観察した。放射線の存在を実際に目で見ることができ、講義だけでは得られない実感を持たせることができた。生徒からは「放射線はどこにでもあることを知り驚いた。毎日放射線を浴びていて大丈夫なのかと思ったが、計算した結果量が少ないのがわかり安心した。」「見えない放射線の飛跡を見ることができてラッキーだった」などの感想が聞かれた。

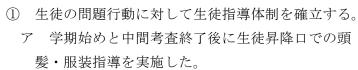
# ■ 豊かな心をはぐくむ教育

### 取組の概要

平成18・19年度、県教育委員会(指導課)の豊かな心をはぐくむ教育を推進する事業の実践研究校に指定され、規範意識を高める「厳しい指導」と、自尊感情を高めるための「温かい指導」を融合させた「豊かな心をはぐくむ教育」を推進した。そして、本校の抱えている学習指導や生活指導などの課題を解決するため、「厳しく、優しく、美しく」をスローガンとして掲げた。

「厳しく」「優しく」では、欠席・遅刻・早退や授業規律など基本的生活習慣の確立を図るための厳しい生活指導を行う一方、生徒が努力したことを全校集会や学年集会で褒めるなど

優しい指導を試みた。また「美しく」ということで、 通学路清掃や校舎内の美化活動などを実施して、生活 環境の整備を図ってきた。具体的には、次の7つの事 柄を実践した。





- イ 基本的生活習慣や授業規律の確立を目的に、遅
  - 刻カード・入室カード・問題行動カードを発行し、段階的に指導を入れ、注意を喚起した。15回で保護者同伴の学年主任注意、20回で保護者同伴の生徒指導主事注意などである。
- ウ 特別指導に対しては生徒の生活状況に合わせたきめ細やかな指導を行った。特に1学年では、特別指導発生時にそれを学年全体の問題として捉え、学年集会を実施し生徒に注意をうながした。また、生徒の生活状況に合わせ、登校謹慎か家庭謹慎かを相談で決め、登校謹慎の場合は、1~6限まで担当者を決め、課題の克服やスクールカウンセラーによるカウンセリングを行っている。家庭謹慎の場合は、毎日学年担当の職員が家庭訪問を行うと同時に担任が朝夕それぞれ家庭連絡を取って登校時と変わらぬ生活を確認した。土日にかかる場合もそれぞれ同様に実施した。
- ② いのちを大切にするキャンペーンを展開する。
  - ア 平成18年度は全校のLHRで「高校生の豊かな心の育成にかかるLHRの指導事例 集」を活用した。
  - イ 平成18年度は新体操の山崎浩子氏の「折れない心」、平成19年度は両足を切断した 島袋勉氏の「夢をあきらめない」の講演会を開催した。
  - ウ オートバイ・薬物に対する注意を喚起するために全校集会や学年集会を開いた。
- ③ 善行や優れた面を評価する。
  - ア 成績上位者や皆勤・精勤者を学期末や学年末の終業式で表彰した。
  - イ 皆勤者を毎月学年毎に発表し、クラスや廊下、階段に掲示した。

- ④ 読書を奨励する。
  - ア 朝読書・朝学習の時間を設け、落ち着いた状態で授業に取り組ませた。1年生は年間 スケジュールを決め、読書週間、常識問題(算数・地理・英単語)、百人一首、鉛筆で綴 る奥の細道、漢字検定対策を行った。それに付随し12月にはカルタ大会の学年別の実施、2月には漢字検定を1、2年全員が受検した。
  - イ 読破賞を設け、朝学習テストの成績上位者とともに、全校集会や学年集会で表彰した。
- ⑤ 美化活動を推進する。
  - ア 机の配置、掲示物を統一し、教室環境の一層の整備を図った。
  - イ 毎日の全校清掃の徹底で、全校生徒の美化意識の 向上と習慣化を図った。
  - ウ 通学路清掃を実施し、地域の中に存在する学校を 意識させた。



- ⑥ 問題行動の早期発見・早期対応のために教育相談を充実させる。
  - ア 船橋法典高校より2年先に自己啓発指導重点校となった浦安高校からスクールカウン セラーを迎え、落ち着いた中で現在何に重点をおいて生徒に指導を行っているかなどに ついて職員研修を実施した。
  - イ ソーシャルスキルトレーニング (SST) を総合の時間に実施している浦安高校を尋ね、来年度に向けての具体的な内容と展開の研修を行った。
  - ウ 相談室に職員を常駐させ、いつでも気軽に利用できる環境を作ると同時に、「相談室便り」を発行し、PR活動に努め、生徒にとって身近な存在になるよう試みた。
  - エ 学校謹慎の際、スクールカウンセラーや係の職員が面接を行った。
- ⑦ 開かれた学校づくり

毎年5月には保護者面談・職員による中学校訪問・生徒から中学校の担任への近況報告の手紙、6月には市内中学校の進路担当者協議会の実施、10月にはミニ集会の開催・青少年補導委員学校訪問などをとおして積極的に情報提供を行うとともに、外部の方々の意見に耳を傾け、学校運営に活かしている。

## 主な成果

- ・「厳しく」では、以前より規範意識や基本的生活習慣が確立され、特別指導される生徒が減少すると同時に、出席状況が飛躍的に改善されるなどの成果が出ている。
- ・「優しく」では、努力したことや善行を表彰することにより、皆勤賞、読破賞、朝自習での 漢字検定、沖縄検定、基礎学力テストなどに頑張る生徒が以前より増えてきた。生徒を褒 めて伸ばすことができた。
- ・「美しく」では、清掃の徹底、通学路清掃、清掃ボランティア活動などを実施し、校舎内外がきれいになるとともに、自分たちが生活する環境について考えさせることができた。
- ・落ち着いた環境で授業に臨むことができ、充実した高校生活を送る生徒が増えた。
- ・退学者が減少し、中学からの志願者数が増えた。

・講演会をとおして、優しさ、思いやり、夢に向かって努力する素晴らしさなどを実感する ことができた。

## ■ 地域間交流体験

### 取組の概要

平成19年度、文部科学省の豊かな体験活動推進事業における地域間交流推進校に指定された。これにより、自然体験、社会体験など生徒の教科学習を支える体験を大切にして、人やものとかかわる力を高めるとともに、豊かな人間性や社会性などを育むための実践が行われた。

① 富士山宿泊研修(5月実施)

2年生を対象として、1泊2日の富士山研修会を 実施した。宿舎の国立中央青少年交流の家(静岡県 御殿場市)では、コミュニケーションスキル上達の ための講演、炊飯実習等を実施し、新しい学級での 人間関係づくりや、修学旅行に向けての意識を高め た。また、2日目は、山中湖畔において清掃活動と 環境学習を行い、勤労体験による充実感や自然を大 切にする豊かな心をはぐくむことができた。



② 高校生インターンシップ(8月実施)

キャリア教育の一環として、夏季休業中に職場体験・職場実習し、社会人・職業人として自立するための勤労観や職業観を培うとともに、日々の教科学習が大切なことを学んだ。

③ 沖縄への修学旅行(11月実施)

修学旅行の3泊のうち、1泊は伊江島での民泊とし、それぞれの民泊先において、農業・ 漁業等の職業体験や実習などを通しての交流体験を実施した。また、沖縄の自然や郷土文 化に触れる中で歴史を学び、平和の大切さについても理解を深めた。

## 主な成果

- ・富士山宿泊研修・沖縄修学旅行では、生徒は充実 感を持っており奉仕活動の意義や社会の一員とし ての役割についての学習が深まった。
- ・進級やクラス替えによる不安な気持ちを共同生活 することで乗り越え、学級や学年の良好な人間関 係を築くための大きな機会となった。
- 係を築くための人さな機会となった。 ・社会生活に必要なコミュニケーションスキルを身に付けることができた。



- ・ボランティア活動や環境問題への興味関心が高まった。
- ・目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢が見られるようになった。

### 生徒の感想

- ・仲間と協力することやボランティアの大切さを学びました。とても楽しく思い出に残った 2日間になりました。
- ・富士山を「生」で見られたし、班でカレー作りをして、たくさん思い出ができて楽しかっ た。
- ・富士山はとてもきれいで山中湖もきれいだった。でもゴミは本当に多く、世界遺産に登録 されない理由がよくわかった。ボランティアでゴミを拾って少しきれいになったと思う。
- ・美化係としてカレーの後片付け、山中湖の清掃などの活動に熱心に取り組めたと思う。な かなか楽しい宿泊研修だった。
- ・事前学習プリントで富士山の知らなかった部分を学習できたことが良かった。
- ・山中湖の清掃では多くのゴミが捨てられているのにびっくりしました。みんなで協力して 清掃してすごくきれいになったので良かった。自然の中にゴミを捨てないようにして欲し いと思いました。
- ・山中湖畔清掃は湖を眺めながらゴミを拾って、先生とも話したりして楽しくできた。

## ■ 社会奉仕体験

## 取組の概要

平成20年度、文部科学省の豊かな体験活動推進事業における高校生の社会奉仕活動推進校に指定された。これにより、ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動、自然に関わる体験活動、及び職業・就業に関わる体験活動を実施した。

ボランティア活動の意義(総合的な学習の時間)、班活動や集団行動(特別活動・LHR)、 富士山の自然環境(理科、社会)などについて、事前学習を行った後に、実際の清掃ボラン



ティアによる社会奉仕活動を体験した。また、学年集会、LHR、関係教科の授業における修学旅行の事前指導と並行して、高校生としての勤労観や職業観についての学習を行い、修学旅行の民泊先における就業体験に結びつくようにした。

### ① 富士山研修(5月実施)

学級の人間関係づくりをしながら、山中湖畔などのゴミ拾いによる清掃ボランティアの活動を通して、環境学習や社会奉仕活動の体験をした。

- ② 地域の清掃ボランティア(各学期に1回実施) 学校周辺の通学路のゴミ拾いによる清掃ボランティア活動を通して、社会奉仕活動の体験をした。
- ③ 高校生インターンシップ(8月・12月実施) 夏休み、冬休み等の長期休業期間を利用して、勤労観・職業観を養うための就業体験を 行った。
- ④ 沖縄修学旅行(10月実施) 修学旅行で民泊した家庭の家業を手伝うことを通して、沖縄の人達と交流するとともに 職業・就業体験を行った。いずれも、そこに至るための経過と準備の活動にも重点を置き、 本番での教育効果があがるように努めた。

## 生徒の感想文

「正直この研修はあまり楽しみにしていなかったし、ゴミ拾いも面倒だと思っていた。けれど豊かな自然や奇麗な景色を眺めていくうちに考えが少しずつ変わっていき、この自然をゴミで汚させたくないなと思うようになった。そして何より、普段では当たり前のように見かけていた道端に落ちているゴミなどが研修を終えてから少し目に留まるようになった。熱い中ゴミ拾いをすることによって、ゴミを拾うことや分別すること以外に、何か大切なものが得られたんじゃないかと思う。そしてそれが気づかないうちに自分に何らかの変化をもたらしたのではないだろうか。

ゴミは捨てるのは簡単でも拾うのは難しいと思う。それがわかるだけでも、ポイ捨てをする人は確実に減ると思う。

今回この研修でわかったことを自分なりに理解し、考え直してみようと思った。」



と「燃えないごみ班」に分 がとのほど、 立船橋法典高校(遠藤辰男 を熱心に清掃。空き缶や鉄 生徒たちは「燃えるごみ班」 村の山中湖畔で、 校長)の二年生約百三十一 くずなどニットラック一杯 豊かな体験活動推進事業 環境問題身近に体験 雄大な富士山を背景に、 文部科学省が委託する 中湖畔で清掃活動 約三時間かけて湖畔 船橋市藤原の県 山梨県山中湖 船橋法典高 の推進校に指定された同校 山中湖村 分のごみを集めた。 法典高校の生徒たち―山梨県 清掃活動に取り組む県立船橋 社会奉仕体験活動として 手川慎也教頭は 。文科省から同事業 と狙いを話している。 身近に感じてもらえれば 勉強になった」 け人間がごみを捨てている 思うようになった」「どれだ きれいな景色を眺めるうち 山を生で見て活動すること れないと言われている富士 に自然を汚させたくないと 面倒だと思っていたが、 研修後、参加生徒からは 生徒たちに環境問題を 現状が分かって良い

千葉日報 平成20年6月10日付掲載(H23.2 転載許諾済)

# ■ 特別支援教育のスタート

平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、 障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくことになった。本校では、平成20・2 1年度、文部科学省から「高等学校における発達障害支援モデル事業」の指定を受け、実践研究に取り組んだ。

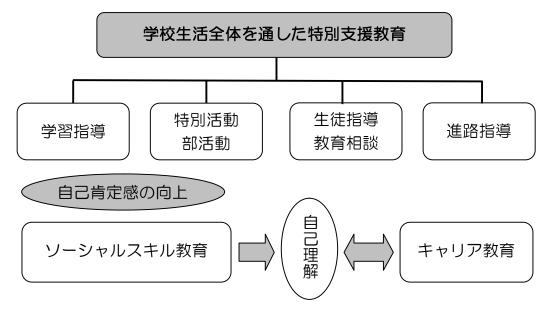
この研究では、本校がこれまで自己啓発指導重点校として実践してきた「きめ細かで丁寧な 指導」の延長が、発達障害を含む、すべての生徒に対して有効な指導・支援方法であると考え た。そこで、研究テーマを

「発達障害を含め特別な支援を必要とする生徒への『きめ細かで丁寧な指導・支援』を行うことが、すべての生徒への学力向上など、有効な指導・支援につながるという視点から、その具体的な指導方法についての実践的な検討及び有効な教材の開発を行う。また、成長とともに『生きにくさ』を感じてきた生徒に対する個別支援のためのシステムの構築に向けた研究を進める。」

と設定して研究を進めた。具体的には、本校のこれまでの自己啓発指導重点校の取組をモデル化して、その一つ一つを検証していく形となった。

## 特別支援教育のモデル

生徒の実態については、職員から見た生徒の実態やスクールカウンセラーから見た実態、社会性のスキルを見る調査、適性検査等を利用した実態把握を行った。その結果から、本校が目指す、学校生活全体を通した特別支援教育は、発達障害の有無にかかわらず、すべての生徒に対して魅力ある快適な学校を創造することであった。そこで、本校の取組を「ユニバーサルデザインによる教育」と位置づけ、下の図に示すようにモデル化した。学校生活全体を「学習指導」「特別活動・部活動」「生徒指導・教育相談」及び「進路指導」の4つの領域の柱で捉え、その土台に、ソーシャルスキル教育やキャリア教育を通した、自己理解の深化と自己肯定感の向上を目指す取組があるというデザインである。



## 校内支援体制の整備

平成20年4月に、特別支援教育コーディネーターの指名と校内支援委員会の設置を行った。コーディネーターの指名においては、2名体制とし、1名は生徒指導主事が兼任することになった。また、校内支援委員会においては、既に活動している教育相談委員会を改組して、校内支援委員会を整備した。校内支援委員会のメンバーは、教育相談委員長、各学年から1名、養護教諭、生徒指導部から2名、スクールカウンセラーと特別支援教育コーディネーターの計8名で構成されている。週に1回、時間割の中に組み込んで(金の6限)活動しており、同じく週1回実施(月の放課後)している学年会とリンクして、生徒の実態把握に努めている。さらに、研究・モデル事業推進委員会(企画委員会と同様のメンバー)を設置し、ケース会議や生徒に対する個別の支援計画を協議する委員会として機能しており、各学期1回実施している。また、モデル事業の推進に向けて、大学の教員や教育委員会関係者など5名に外部協力員を委嘱し、生徒に対する具体的な支援方法を検討した。

### 学習指導

本校では、1学年4クラスをホームルームと全ての科目において、20名の8クラスで展開している。(平成22年度は5クラスを10クラスで展開)また、2学年からは通常の4クラスとなるが、英語や数学、3学年での選択科目などでは、少人数授業やティームティーチングによる授業を展開している。学習面で苦手とする生徒が多いので、「わかる授業」の実践は不可欠で、各教科担任が授業で中学校の既習内容を取り入れた「学び直し」を意識した授業を実践している。モデル事業では、1年目に一斉授業の中で教科担任が配慮していることをまとめた。具体的には、板書計画、指導方法、教材・プリントの工夫について見直して、一斉授業の中でできる支援策についてまとめた。また、テストにおける配慮事項や評価における配慮事項について確認した。2年目は、さらに一斉授業の中でできる個別支援について研究した。学習支援カードを利用して個に応じた指導・支援方法の工夫を試みた。また、各学年と教科担任でタイアップして考査前や長期休業中に学習会を実施している。教科担任だけでなく、学年職員も一緒に学習することで、学力向上ばかりでなく、人間関係を築く場ともなっている。

## 特別活動 · 部活動

### ① ソーシャルスキル教育

自己肯定感の向上や社会性のスキルを身につけるために、特別活動の時間を利用して、集団(学級単位)で行うソーシャルスキルトレーニング(SST)として、ソーシャルスキル教育(SSE)を行った。1学年を対象に社会的スキル尺度「KiSS18」(Kikuchi's Scale of Social Skills:18items)のアンケートを実施したところ、自分を主張するスキルに対しての自己評価が低く、その必要性が高いことが確認できた。そこで、上手な断り方・上手な話の聴き方・上手な話の仕方などをテーマに、SSEの実践を試みた。実践にあたっては、SSEを展開する学級担任のために、校内研修会を開催した。また、指導案については、校内支援委員会が中心となって作成した。

#### ② 生徒会活動と部活動

生徒会役員を中心とした生徒と県立船橋特別支援学校との交流及びボランティア活動を実施している。隣接した地域にあり、今後どのような交流活動ができるか模索中である。部活動の指導では、参加意欲の向上や技能・技術の向上など、各顧問が生徒一人一人にあった練習方法を組み立てており、スモールステップでの成功体験を積み重ねることができるように工夫している。



## 生徒指導・教育相談など

### ① 学年室体制による生徒のサポート

学年室を配置し、常に学年職員が2名常駐する体制を整えている。遅刻してきた生徒や授業中に教室を退室した生徒には、遅刻カードや入室許可証が発行される。カードの枚数によっては、特別指導の対象になるのだが、ペナルティーを与えることが目的ではなく、学年室での生徒と会話を通して生徒理解を深めることがねらいである。また、挨拶の仕方や服装の指導、健康観察などを含め、生徒とコミュニケーションをとる場となっており、生徒一人一人にあったフォローができる場所として機能している。生徒も学年室が指導される場としてだけでなく、困ったときには相談できる場として理解しており、相談室の機能を兼ね備えた場所となっている。

### ② カードによる生徒のフォロー

遅刻カードや入室許可証の他に、問題行動カードや改善指導カードなどがある。ルールを守れない生徒に対し問題行動カードや改善指導カードを発行するが、他のカードと同様に、生徒のフォローとして利用している。よく話しをして何が悪かったのか、どうしてそうなったのかを整理整頓することを大切にしいる。このような指導・支援を通して教員との信頼関係が築かれ、問題行動の再発防止につながっている。

### ③ 教室環境の工夫

各学級とも教室環境の整備にも力を入れている。学校目標や学年目標を各ホームルーム 教室に掲示し、背面黒板には、行事予定を示してある。長期的な日程が分かるように工夫 し、連絡事項を書き込めるコーナーを作るなどして、視覚的にもわかるように独自の工夫 をしている。

### ④ 1人1役の班活動

本校では、学級組織のほかに班活動を実施して、1人1役の活動を大切にしている。班 活動を通して、お互いを理解するとともに、自分がクラスのために貢献しているという誇 り(達成感)がもてるように工夫している。また、清掃活動に関しても全員清掃を実施し ており、班ごとに分担して活動している。

#### ⑤ 教育相談室について

平成11年から教育相談室を設置している。平成19年からスクールカウンセラー1名 の週1日勤務に加えて養護教諭1名が毎日常駐しており、多くの相談に応じることのでき る体制をとっている。

### ⑥ 進路指導

進路指導においても、個別の支援を重視している。履歴書を書くことが苦手な生徒や面接で話すことが苦手な生徒など、進路指導部だけでなく、学年職員が個別に指導・支援にあたる。また、ハローワークや地域の就労支援の関係機関との連携も行った。

### 講演会の実施

- ・平成20年11月19日、幼保園園主の鳥居徹也氏を講師として招き、生き方を考える特別授業第1部を実施した。内容は、生徒一人一人の職業人としての自立と、社会参加がスムーズに行われるよう、キャリア教育の視点から支援する講話などであった。
- ・平成20年12月17日、NPO法人理事長の井内清満氏を講師として招き、生き方を考える特別授業第2部を実施した。内容は、将来、社会人・職業人として生きていくために、生徒一人一人が、自分の今の生き方を、客観的に考えられるよう、生徒指導の視点から支援する講話であった。
- ・平成21年7月15日、助産院院長の松田洋子氏 を講師として招き、第1回講演会を実施した。内



- 容は、生徒一人一人の自己肯定感を高めるとともに、生命の誕生を通して、命の大切さを 再確認する機会を提供し、心の教育の視点から生徒を支援する講話などであった。
- ・平成21年12月17日、県総合教育センター指導主事の松本 巌氏を講師として招き、第 2回講演会を実施した。内容は「心の表現ー相手の感情をキャッチするー」を演題とし、 高等学校における発達障害支援モデル事業の趣旨を踏まえ、生徒一人一人が、人との接し 方について理解を深め、好ましい人間関係づくりができるように、生徒たちを支援する講 話であった。

## 研究の成果

船橋法典高校の実践してきた「きめ細かで丁寧な指導・支援」を継続していく中で、退学者や転学者の減少、年間出席率の向上など生徒の学校生活が変化してきた。また、頭髪や服装面での改善指導の対象者や特別指導の件数も激減している。進路決定率でも、昨今の厳しい雇用情勢の中で、前年度を上回る90%近い進路決定率となった。本校の生徒一人一人を大切にする学校としての成果である。4つの領域から教育活動を見直して、本校の特別支援教育のスタイルをデザインしてきた結果、本校が研究テーマとしている「発達障害を含め特別な支援を必要とする生徒への『きめ細かで丁寧な指導・支援』を行うことが、すべての生徒への学力向上など、有効な指導・支援につながる」という視点が「高等学校における特別支援教育」に結びつくことが確認できた。

今後は、モデル事業の終了により、特別支援教育の視点がなくなるのではなく、さらに発展させていくことが大切である。校内支援委員会においても、生徒の実態のより詳細な把握から、より良い支援方法へと検討が始まった。本校における特別支援教育は、ユニバーサルデザインによる教育として、日々の教育活動の中に定着している。

(牧 伸裕)

# ■ 特別支援教育の推進

平成22年度、文部科学省の特別支援教育総合推進事業の一環として、県教育委員会(特別支援教育課)から高等学校特別支援教育推進校に指定され、前年度までの「高等学校における発達障害支援モデル事業」の成果を生かした特別支援教育を実践した。本校は、高等学校での特別支援教育に取り組み、3年目となったことで、各学年では生徒理解が深まり、生徒一人一人にあったサポート体制が充実してきた。また、1学年では、ソーシャルスキル教育(SSE)の実施に加えて、障害の有無にかかわらず、気になる生徒に対する個別のソーシャルスキルトレーニング(SST)も始めた。以下は、推進校としての取組の抜粋である。

## 校内支援委員会の活用

校内支援委員会を毎週必ず開催できるよう、時間割の中(平成22年度は金曜日の6限)に位置づけ、スクールカウンセラーの来校日に合わせて、実施することができた。校内支援委員会と同様に週に1回実施している学年会と連携して、生徒の実態を具体的に把握しながら、支援委員会で支援方法の検討をすることができた。個別の支援方法の検討に際しては、発達障害の有無にかかわらず、「不登校・長欠・疾病が気になる生徒」、「規範意識など行動面が気になる生徒」、「コミュニケーション能力が気になる生徒」及び「LDなど学習遅滞が気になる生徒」の4つのグループに分類して検討した。

## 講演会の実施

・平成22年7月14日、青少年育成アドバイザーの小野寺百合子氏を講師に招き、いのちの大切さを学ぶ特別授業を行った。内容は「今、私たちが大切にしなければならないこと」をテーマに、生徒一人一人が、自分の今の生き方を客観的に考えられるよう、生徒指導の視点から支



援する講話であった。生徒達は、薬物乱用やいじめの問題など、婦人警官として実際に関わった子どもたちや親の思いを伝えてもらい、いのちの大切さを学ぶことができた。

・平成22年11月15日、幼保園園主の鳥居徹也氏を講師として講演会を実施した。内容は「フリーター・ニートになる前に受けたい授業 -発達障害の視点から-」を演題とし、生徒一人一人の職業人としての自立と、社会参加がスムーズに行われるよう、特別支援教育及びキャリア教育の視点から支援する講話であった。生徒達は、フリーターやニートの実態を知り、定職に就いた場合との比較を通して、就職して自立することの大切さを学ぶことができた。また、自分を強くするためのメンターの存在など、人生を豊かにするための方法を知ることができた。

## 今後の課題

本校の特徴である「ユニバーサルデザインによる教育の実践」に今後も継続して取り組んでいくことが、大きな課題となる。そのための最初の一歩は、本校の実践している授業方法や生徒指導(生徒理解)の観点を、新しく船橋法典高校に着任する職員が継続して取り組めるような資料づくりであると考える。

## ■ 就職支援

本校は、平成16年度から毎年、県教育委員会(指導課)の高校生就職支援事業の指定校になっている。この事業の趣旨は、生徒のニーズを踏まえた就職先の拡充に努め、就職を希望する生徒が一人でも多く就職できるよう、企業訪問を充実させるとともに、進路の定まらない生徒やフリーター志向のある生徒への指導・援助を充実させることである。

本校では、この事業の趣旨を踏まえ、就職希望者全員の進路実現に向けて取り組んでいる。 毎年1学期に、進路指導部職員、新旧3学年職員及び主任・部長による求人開拓のための企業 訪問や、生徒一人一人に対するキャリア・カウンセリングを実施している。夏季休業中は、書 類の書き方、面接の受け方、企業訪問の仕方、筆記試験対策、服装指導など個別に時間をかけ て丁寧に指導している。

平成22年度は、県内30社、県外13社、計43社を職員が訪問し、そのうち24社から32名の求人があった。最終的に、訪問した企業に内定したのは10名であった。次の表は、訪問した企業数等の過去7年間の推移である。

#### <訪問企業数等の推移>

年 度	16	17	18	19	20	21	22
訪問企業数	34	37	41	49	52	40	43
訪問企業からの求人数	45	41	67	52	70	35	32
訪問企業への内定者数	4	5	9	7	14	7	10

## ■ 部活動の生徒への指導・支援

自己啓発指導重点校では、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、部活動等を通して目標を 持たせるとともに、生徒の学習意欲を高め、自己実現を支援する教育活動を展開することが期 待されている。また、部活動での成功体験や達成感が学習意欲の向上に繋がったり、部活動が 好ましい人間関係の形成や協調性を身につけていく場になっていることが多い。自己啓発指導 重点校として、多くの生徒を部活動に参加させ、継続させる 取組は重要である。本校では中学校から継続して同じ部活動 に取り組む生徒が多いが、継続して参加できない生徒や人間 関係を築くのが難しい生徒、技能習得・理解に時間のかかる 生徒、困難を乗り越えるための努力が苦手な生徒もいる。以 下は、このような生徒に対する本校における指導・支援方法 をまとめたものである。



- ① 継続的な参加ができない生徒への指導・支援
  - ・部活動に充実感をもたせるため、専門的な技能・知識習得だけではなく、部活動単位で、 課外活動の参加やボランティア活動等にも積極的に参加し、様々な経験ができる場とな るようにする。
  - ・今までに成功体験が少ない生徒もいるので、小さい成功体験を積み重ね、意欲の伸長や 継続することの大切さを実感させるようにする。
  - ・新しい技術や技能を習得するにあたっては、苦手意識を持っている生徒が多いため、初 歩的な技能(小学生で行なうような内容)から段階的な指導を計画的に行う。
  - ・身につけた技術・技能を忘れないように繰り返し練習する。また、生徒の実態に応じた 目標を設定して達成しやすくする。
- ② 人間関係を築くのが難しい生徒への指導・支援
  - ・本人に対するサポートだけでなく、周囲にいる生徒への協力体制を整える。
  - ・部内での役割分担を決め、本人に部活動への所属感を高めさせる。
  - ・仲間の大切さやチームワークの大切さを話す機会を多くした上で、仲間と協力して行な う活動を増やし、仲間の大切さを理解させる。
  - ・仲間との協力した活動を通して、自分にとってプラスになったことマイナスになったことについて考えさせ、得るものの大きさに気づかせる。
- ③ 技術習得や理解に時間のかかる生徒への指導・支援
  - ・指導者がこれぐらいできて当たり前だという思いこみをなくし、できることを見つけ指導計画を立てる。
  - ・その日の練習内容のポイントを伝え、練習の目的を明確にする。またポイントを伝える 時は多くのポイントを伝えるのではなく、ひとつにする。
  - ・繰り返し行なうことで技能習得につながる練習方法等の工夫をする。
- ④ 困難を乗り越えるための努力が苦手な生徒への指導・支援
  - ・成功体験を多くするため、小さい成功体験を積み重ねられるように工夫する。また、次 の段階への意欲の伸長をはかる工夫をする。
  - ・困難を乗り越えることによって得られるものを先輩や友人から伝達できる機会を設けモ チベーションの向上を図る。
  - ・活動日誌等を記入することにより、過去の活動を振り返り、自分の成長が確認できるようにして、困難を乗り越えるきっかけにする。
  - ・小さい困難でも乗り越えた時には、賞賛し、そのことを部全員が認めてあげる雰囲気や 場をつくるようにする。

## ■ 継承と発展をめざして

## 自己啓発指導重点校4年目のスタート

学年主任を担当することになった平成21年度の1年生(29期生)は、自己啓発指導重点校に指定されてから4回目の1年生となる。重点校指定後の3年間で築かれた「新しき良き伝統」を「継承」しつつ、さらにそれを「発展」させることを課題として新しい学年がスタートした。1年次の学年構成の特徴としては、担任8名中、高校教諭と中学経験教諭がそれぞれ半数の4名ずつであったことが挙げられる。個人的には中学経験教諭の仕事や取組に接するのは初めてのことであり、大変新鮮であった。少々大げさな言い方をすれば、異文化の接触から新しい何かが創造されるように、高校と中学、双方異なる視点からの率直な意見交換の結果、創意に満ちた様々なアイデアや具体的な方策が生まれた。その基幹となる学年会は常に自由な意見交換の場であり、継承から発展を模索する場であった。

3年間の学年生徒目標は「夢の実現」である。その夢を応援すべく学年職員団の目標は、将来生徒が「良き社会人」となるために必要な ①教養を身につけさせること、②自律心を身につけさせること、③自立心や自主性を身につけさせること、である。後述するように、①は各種検定の取組、②は基本的生活習慣の確立、③は班長会とルーム長会、によって目標達成を図っている。

## 「継承と発展」に基づく学年の取組

#### (1) 伝統の「継承」

過去3年間にわたる自己啓発指導重点校としての取組が実を結び、地域や近隣中学校からも高い評価を得ている。それはまさに「新しき良き伝統」であり、それを継承することが何よりも大切である。学校における生徒の



本分はあくまでも学習活動であり、それを支えるという意味で生徒指導関連の厳しい規則がある。その観点から、学校全体で取り組んでいる細かな規則や様々な約束事を実践している。

#### (2) 伝統の「発展」

その伝統をさらに発展させるべく、学年による新しい取組をいくつか試みた。

① 学年独自の検定 ~教養を身につける~

将来良き社会人となるために必要な教養は、日々の学習活動によって培われるものである。また朝自習等の時間を使い、様々な補助教材も活用される。ただ、継続学習を可能にするためには、いかに生徒の興味関心を引く教材であるかが大きな課題である。幸い様々な検定ブームがある昨今、3年間の基礎学力向上プロジェクトの一環として、時に柔らかい問題も含めた学年独自の「K-1検定(基礎学力検定)」を実施している。日常生活の中でK-1検定は定着しており、それを楽しむ生徒も増えている。学期末ごと

に成績優秀者を表彰し、生徒は楽しみながら教養を身につけ始めている。

また、漢字検定は学校全体での取組であるが、普通科の高校ではあまり実施されていない「サービス接遇検定」や「ビジネス電話検定」などのビジネス系の検定も本学年で実施した。社会人としての教養、素養を磨くための検定であるが、社会に巣立つ前の動機付けとして効果があっただけでなく、生徒の多くがコミュニケーション力とそれを支える国語力の大切さに気付いたという点で、大きな成果であった。

#### ② 基本的生活習慣の確立 ~自律心を身につける~

自己規制や自己抑制することが苦手である生徒が多いなか、自らを律する力は将来良き社会人となるために大切な要素である。その自律心を育むものは基本的生活習慣の確立であり、それはルーチンワークの徹底によってのみ確立される。

#### <清掃活動・環境整備>

小さなことに見えて実は学級全体に大きな影響を及ぼすのが日々の清掃活動、環境整備である。入学当初、全クラス共通の細かい清掃マニュアルを作成し、教員に指示されなくても自分たちできちんと活動できるよう徹底した。関連して戸締まりや消灯、掲示物の補修、清掃用具の点検等、係活動による環境整備の充実を試みた。その結果、クラスによる多少の差はあるが、清掃活動というルーチンワークをごく自然に、当然のこととして行えるようになった。

#### <服装・身だしなみ>

「開かれた学校づくり委員会」で地域の方からいただく評価のひとつに、最近の法典生は服装や身なりが整ってきた、という評価がある。服装に関する普段の心がけが将来の進路実現にも影響する、その観点で地域の方は温かく見守ってくれている。これは学校全体で取り組む「改善指導」等の成果であり、ルールに反する服装をする生徒はほとんどいない。ただ、制服を着崩して着用する生徒が依然として多いため、本学年ではさらに一歩進めて、細かいルールとともに「制服をきちんと身につけよう」という運動を始めた。この運動の成果を出すのは大変難しい。ただ、後述するルーム長会では毎回必ず「服装を正そう」という意見が出されるようになり、生徒間の意識は向上しつつある。

#### <遅刻対策>

学校全体で取り組んでいる遅刻対策により、全体の遅刻者数は、年々減少傾向にある。ただ、残念ながら本学年では減少傾向が顕著ではなかったため、全体での遅刻対策を学年で改善し、より有効な対策を講じた。その結果、遅刻者数は徐々に減り始め、さらにこの学年遅刻対策が、検討を経て学校全体の遅刻対策になろうとしている。

#### ③ 班長会とルーム長会 ~自立心や自主性を身につける~

これまで通り基本的生活習慣の確立は教員主導による細かい規則によって成されるが、別の視点から「生徒による生徒の意識向上」をねらいとし、1年次より班長会とルーム 長会を発足させた。生徒の自治意識や自立心の涵養がねらいであったが、進行するにつれて功を奏してきた。

日常レベルでは週末ごとの班長会議、それを受けての月末のルーム長会議を行った。 少しずつではあるが、自ら課題を見つけ、それを自分たちで改善していこうとする姿勢 が一部の生徒に見られるようになり、その姿勢は他の生徒にも広がりつつある。学期末 ごとの学年集会においてクラス代表者による発表の場を設けているが、聞いている生徒 に前向きな反応が見られる。

ルーム長会のもう一つの役割は、各種行事を「スローガン作成」という形でリードすることである。これまで様々な行事ごとにスローガンを作成してきたが、2年次最大の学校行事である修学旅行では、そのスローガンである「目指せ!心の交流 in 沖縄伊是

名島」が生徒一人一人に浸透し、結果としてその 趣旨が理想的な形で達成された。

定期的にルーム長会に関するアンケートを行っているが、その多くが肯定的な内容であり、「生徒による生徒の意識向上」の大切さを訴えている。 継続して会への参加を希望する生徒も多く、さらにメンバーの周辺にいる生徒たちへと意識の輪が広がりつつある。



## 今後に向けて

少子化とともに高校生の精神的な低年齢化が進んでいる。本校の生徒も、素直ではあるものの、行動や考え方には幼いところが多く見受けられる。一般論であるが、高校では、生徒をいわゆるヤングアダルトとして扱うことによって、生徒の個性や自主性を尊重する傾向にある。一方、中学では、規則の遵守とルーチンワークを徹底させることによって、基本的生活習慣の確立を重視する傾向にある。本学年で実施している主な取組は、高校と中学、双方の視点によるものであるが、生徒の実情を考慮すると中学校での指導スタンスの方が効果的である。今後の課題としては、中学からの指導の成果を基盤とし、生徒をいかにして社会に巣立つ前の高校生の理想レベルにまで引き上げることができるか、である。

高校生の理想レベルとは「自己啓発」ができる水準のことであると考えるが、本校で実施されている生徒指導に関する細かい規則の運用が、その自己啓発を支えている。言うまでもなく「自己啓発」とは他の力に依らず自分の力で知識や理解を深め、自分を高めることであり、一方、「規則」は他の力に依るものである。規則をきちんと守ることで自己啓発が可能になるというこの関係は、一見矛盾するようで、生徒にはどうしても理解されにくい。そのため学年集会等、機会あるごとにこの関係に触れ、喚起を促した。繰り返し訴えていることは、

「『規則』やきちんとした高校生活を送るという『枠組み』があって初めて自己啓発や創造性が生まれる。規則も枠組みも何もない、何でもありの自由な状態からは自己啓発や創造性は生まれにくい」ということである。この関係、すなわち自己啓発ができている生徒とそうでない生徒の生活意識の違いは、学期末ごとに実施した生徒の「高校生活アンケート」(77~82ページ参照)に如実に現れている。高校生が自己本位な子供のまま卒業するのではなく、社会に巣立つ前の(あるいは上級学校に進む前の)高校生という年齢に相応しい成熟を促すという意味において、自己啓発指導重点校としての取組には意義深いものがある。

(久保木忠男)

## ■ 検定試験を通しての自己啓発

### 進路希望と基礎学力

本校が自己啓発指導重点校に指定されて初めての卒業生(平成18年度入学26期生)は、 1年生の頃から頭髪や服装などの生活指導を徹底し、落ち着いた学校生活を送ることができ た。しかしその反面、卒業後の進路面では、生徒の指導に限界を感じることが多かった。

学校を殆ど休まず静かで真面目な生徒に限って「私はどういう仕事に向いている?」と質問されても、進路適性検査の結果などで、向いている仕事がほとんど見つからない。また、周りに学習面で頑張っている生徒が少なかったので、勉強が苦手であることを忘れてしまい、3年になってものんびりしている生徒が多かった。そのせいか、将来「通訳になりたい」、「アナウンサーになりたい」など、そのための努力をしていればともかく、何もしないで非現実的な進路希望を言ってくることがかなりあった。

当時の生徒の基礎学力や職業観の不足は、明らかであった。もちろん基礎学力が備わっていれば、進路選択の幅が広がるであろうし、自分自身の力や適性が分かっていれば現実的な進路を希望し、もし無理ならばそれに向けて努力をするはずである。そこで、生徒の自己啓発を促し、一人一人の基礎学力を向上させるために、平成21年度の1年生(29期生)から、従来から取り組んでいる漢字検定以外にも様々な検定を導入することにした。

## K-1検定

授業で扱わなくても、自然と身に付いているはずの一般常識が怪しい生徒が多い。千葉県民でありながら「八街」を「やがい」と平気で読んでしまう状況である。そこで、このような一般常識を身につけさせる目的で、校内検定を入学してすぐに始めた。校内検定に親しみが出るよう、名前も「Kisogakuryoku(基礎学力)」の頭文字の「K」をとって「K-1検定」とした。このような検定試験は以前にも本校で行われていたが、単発で終わってしまうことが多かった。そのため、イベント化し3年間見通して行えるよう、検定試験に級を設定し10級からスタートした。各学期2回程度行い、最終的には1級を超え、4段まで実施していく予定である。

このK-1検定の学習は主に朝学習の時間に行っている。毎回、担任がプリントを配布し答え合わせを行っている。珍解答が多く、毎日のように職員の話題になっている。さらに、クラス間で合格者数を競い合うような雰囲気になっており、クラスによっては放課後、生徒を残して問題演習を行っている。このように、学年全体で取り組んでおり、学年職員のチームワークも向上している。問題の内容は、社会人が誰でも知っているようなことに限らず、時事的な問題や流行についても触れている。できるだけ面白い問題を出題するように心掛けているせいか、生徒の興味関心も高まり、学習後の質問は普通の授業以上に多い。

また、K-1検定は合格点(200満点中140点以上)に達しないと何度でも放課後、 追試験を行うことになっているため、残りたくないという思いから、自主的に学習する生徒 が多い。これが全体的な雰囲気となっているため、他の教科にも良い影響を及ぼしている。 さらに、以前の本校生徒は、放課後残るように言っても残らないことが多かった。しかし、 入学してすぐに始めたこともあり、生徒も「高校で頑張ろう」という気持ちがあったせいか、 さぼって帰る生徒は出て来なかった。このように何かあると放課後に残ることが当たり前に なり、放課後の委員会や係りの仕事などでもさぼって帰ることは殆どなくなった。

#### <K-1検定の出題例>

- 問 平成23年の干支は「うさぎ」ですが、次に「うさぎ」がくるのは何年後ですか。
- 問 「かけうどん」に「もち」を入れた「うどん」を何と言いますか。
- 問 21世紀が始まったのは、西暦何年ですか。
- 問 K-1検定は7割以上の得点で合格です。200点満点では何点以上取れば合格ですか。

## ビジネス系検定

本校生徒のおよそ半数は、就職を希望している。進学を希望している生徒も、比較的楽に合格できる大学や専門学校を希望している。そのため受験勉強というよりは、社会に出て必要なマナーや礼儀などの学習を、以前から各教科や領域の時間に生徒全員に行っている。しかし、せっかく行っているにも拘らず、その時間だけの学習に終わってしまい定着は芳しくなかった。そこで、生徒が自主的に学習して、知識が身につくように外部団体のビジネス系検定を実施するようにした。

このような検定試験は、平日ではなく殆ど土曜日、日曜日に行われている。本校では、1年に2回、6月と11月の保護者面談週間に土曜日登校となっている。その日に行われているビジネス系の検定試験を調べたところ、6月に「サービス接遇検定」、11月に「ビジネス電話検定」が行われていた。そこで、これらの検定を希望者ではなく、学年で一丸となって合格するよう全員に受験させることにした。このビジネス系検定の学習は、K-1検定と同様に朝の学習の時間に行った。一般的な合格率が漢字検定や英語検定よりも高く本校生徒でも十分に合格できる可能性がある。また、社会に出て必要な知識であるため目的意識を持って取り組んでいる姿が見られた。

検定の結果、合格率は、「サービス接遇検定」が30.2%、「ビジネス電話検定」が48.0%であった。従来から行っている漢字検定よりも合格率が高く、結果としてはまずまずである。この検定に合格することにより、履歴書にも記入でき、就職率も高まるであろうと考えられる。また、普通科でこのような検定試験に取り組んでいる学校も少ないようで、本校の特色の1つでもある。今後も各学期1回程度、このような検定試験を実施していきたい。

(大野貴幸)

## ■ 様々な体験活動

本校では、自己啓発指導重点校としての取組を踏まえ、生徒たちが将来に向けて明るく高校生活を送れるよう、様々な体験活動を実施している。以下は、平成22年度に実施した体験活動について、その概要と生徒の感想を「魅力ある高等学校づくり実施報告書」から抜粋したものである。

## 百人一首カルタ大会

文化委員会が主催する生徒会行事として、全校生徒が参加する 百人一首カルタ大会を実施した。正月の風物詩としてなじみが深 く、伝統文化である「百人一首カルタ」を体験し、教養を高める と同時に、チームワークを育み、親睦を深めることがねらいであ る。3人のチームで、獲得した札の合計枚数を競い、優勝を目指 して、大いに盛り上がった。準備学習は、国語の時間や朝自習の





時間を利用して行い、学年ごとの リハーサルも行なった。

#### <参加した生徒の声>

「広い体育館に150近くのチームが集まり、一斉に耳を澄まし読み手の声に集中する姿に感動。」

「他学年のチームとも対戦するので、上級生と身近に話すことができた。」

## デイキャンプ体験

1年生全員が参加するデイキャンプ体験を、5月に葛西臨海公園で実施した。体験のメインは、班に分かれてのカレーライスづくり。引率職員が審査するカレーコンテストもあり、各班で気合の入った作品が完成した。共同作業の面白さが体感でき、新クラスの親睦も深まったようだ。





#### <参加した生徒の声>

「入学したばかりでクラスに親しい友達はいなかったけど、 みんなでわいわいカレーづくりをして、気付けばとても仲の 良い友達になっていました。今までしゃべったことのない人 とも友達になれて、本当によかった。」

「葛西臨海公園で作ったカレーは、いつも家で食べるカレー と違って、おいしかったです。」

## 伊是名島ホームステイ体験



修学旅行の一環として、沖縄伊是名島で2泊のホームステイを体験した。ルーム長会議で決めた「目指せ! 心の交流 in 伊是名島」をスローガンに、2年生148名が、島内36家族のもとで、家業体験、農業体験、島内史跡巡り、郷土料理作りなどに挑戦した。島の人たちの思いに触れ、見聞を広めるとともに、一人一人が心を開いてコミュニケーションを図ることができたようだ。

#### <参加した生徒の声>

「別れの船に乗るとき、友達が泣いているのを見て、今回の 体験には大きな意味があるんだなと思った。」

「世間知らずの私たちに家族のように接してくれた。感謝。」 「畑仕事は近所の人も協力し合っていた。島の人は仲がいい んだ。」



### ボッチャ競技で交流体験

生徒会役員を中心とする本校生徒が、県立船橋特別支援学校を訪問して、高等部の生徒たちと交流の機会を持った。交流会のメインは合同レクリエーションで、両校それぞれ4チームに分かれてのボッチャ競技(ヨーロッパで四肢重度機能障害者のために考案されたスポー



ツで、パラリンピックの正式種目)を行なった。本校生徒が 自発的に車椅子を押したり、歩行が不自由な生徒の手を引く など、自然にとけ込むことができ、親睦も深まったようだ。

#### <参加した生徒の声>

「特別支援学校の先生方は、生徒がしゃべってもいないのに、 何がしたいかがわかっていて、すごい!」

## 幼児とのふれあい体験学習

保育の重要性を理解しようと、2年生全員が家庭 科の授業の一環として、市川の柏井保育園で「幼児 とのふれあい体験学習」を行なった。3才から5才 までの園児47人に対して、2年生はクラスごとに 4回に分けて1対1の保育を体験した。生徒たちは 事前に、オモチャを手作りしたり、絵本を選んで読 み聞かせの練習を行うなど入念に準備して臨んだ。



本番では、園児が飽きないように、毎回少しずつ内容を変えて、絵本を読んだり、オモチャ に絵を描いたり、みんなで歌ったり、駆けっこをしたり、とにかく元気一杯に遊んだ。子育 ての大切さと難しさを肌で感じた様子であった。

#### <参加した生徒の声>

「子どもたちは元気過ぎて、これが毎日だと大変。両親に感謝しています。」 「将来保育士になりたいと思っている。この体験をこれからの人生に生かしたい。」

どもたちは元気過ぎて チャに絵を描いたり、 問する。手川慎也教頭は「生 る」と狙いを説明する。 し思っている。この体験を たちと遊ぶオモチャを手作 れからの人生に生かした 聞かせの練習を行うなど 徒35人が園を訪問し、 ャリア教育を兼ねてい 」。毛塚智也君(17)は 6歳の園児約40人とオモ 生徒たちは事前に、 認識してもらうことと、 「将来保育士になりたい 24日までに3回に分け こをして楽しく遊 絵本を選んで読 3

ふれあい体験学習」を行っ 生徒数471人) の2年生 緒に活動する「幼児との 保育の重要性を理解しよ 市川市柏井町2の柏井 (杉田恒子園長、 で、園児たちと

橋法典 |大変。両親に感謝していま|しさを肌で感じた様子だっ と子育での大切さと難一た。 高 が保

市川



千葉日報 平成22年11月27日付掲載(H23.2 転載許諾済)

## 朝読書と図書委員会活動



10分間の朝自習の時間に、春と秋の年2回、全校一斉 の朝読書週間を設定した。期間中は、ホームルームでの読 書指導や図書室での本の紹介が行なわれ、図書委員の生徒 も、各学級への図書の出前やポスターの掲示などの活動を した。図書委員は、この他に、作家インタビューや国会図 書館見学も行なった。

### <参加した生徒の声>

「家で読む機会が全然ないから学校で読めてよかった。 本ってなんかすごいよー。」

「人に言われたことって簡単に納得できないけど、本 に書いてあることって素直に納得できる。」

「朝、本を読むとおちつくし、集中できるのですばら しいと感じました。」



## 通学路清掃

学年ごと学期に1回、通学路清掃を実施した。毎回、正門方面(市川市)と裏門方面(船橋市)の二手に別れ、班ごとにゴミ袋と火鋏を手に清掃活動に向かった。周囲は住宅地なの

で、ゴミ袋を一杯にするほどの収穫はなかったが、小さなゴミも見逃さずに拾った。収集したゴミで一番多かったのはタバコの吸殻、2番目は食べ物の包装ゴミだった。地域の皆さんからの評判も上々であった。

#### <参加した生徒の声>

「通学路がきれいになるのは素晴らしい。世の中にはお金では計れないことがたくさんあるのでは、と思った。」



## 上級学校の模擬授業体験

「私が決める私の進路」をテーマに大学、短大、専門学校など14の上級学校による模擬授業が、2年生全員を対象に、本校で実施された。当日は「アダム・スミス」「ビジネスマナー」「HTML」など様々なタイトルで、上級学校の先生による授業が展開された。この他、1・2年生対象の進路学習として、外部講師による進路講演会、バスでの上級学校見学会なども実施した。





#### <参加した生徒の声>

「お客さんに笑顔で帰ってもらうのって難しいけど、美容師 はやりがいがあると思った。」

「どの種目のスポーツトレーナーになるにも、心のケアができなきゃだめなことがわかった。」

## ■ 特別支援学校との交流

## 初めての交流体験

本校の生徒会は、平成20年2月に、県立船橋特別支援学校高等部との交流会を実施した。この企画は、特別支援学校からの交流要請に応えるという形で行なわれたものであったが、文部科学省の「高等学校における発達障害支援モデル事業」の指定を受けたこともあり、本校としても、意義深いものであった。当日は本校生徒会役員ら10名が同校を訪問し、体育館でのレクリエーション(ボッチャ競技)とSHRへの参加で、約1時間の交流を行った。

同校の大部分の生徒は車椅子による学校生活を送っているが、本校生徒が自発的に車椅子を押し、あるいは歩行可能な生徒の手を引くなど、自然にとけ込むことができ、好評であった。 訪問した本校生徒の中には、平素級友との人間関係を築くことが苦手な生徒もいたが、その生徒も積極的に交流することができ、お互いに有意義な時間を過ごすことができた。

### 継続的な交流に向けて

平成21年度は、前年度の試みを踏まえ、継続的な交流活動計画を立てることになった。7月に特別支援学校の担当教諭と本校の生徒会顧問が協議して、2学期末の特別時間割となる12月18日に、新旧の生徒会役員が船橋特別支援学校を訪問して、前回と同様の交流会を実施することや、3学期末に吹奏楽部が、同校を訪問して交流活動を行うことが決まった。交流を計画するにあたっては、本校から特別支援学校を訪問するだけの交流ではなく、来校してもらう交流も考えたが、バリアーフリー環境が整備されていない本校では無理であった。また、特別支援学校の小学部・中学部・高等部合同でスクールバスによる登下校をしているため、下校時刻は14時半となっており、給食後の1時間程度しか時間がとれないという時間的な制約もあった。

## 2年目の交流会

平成21年12月18日13時15分、本校生徒会新役員9名・旧役員6名と引率教諭2名で船橋特別支援学校に到着し、玄関にて同校生徒職員の歓迎を受けた。本校生徒のうち旧役員6名は前回の交流会に参加しており、新役員9名は初参加である。早速体育館に移動して挨拶とルール説明の後、13時30分から14時までボッチャ大会が実施された。同校教職員の話では第352回の対外試合だそうで、



このうち本校との対戦は2回目ということになり、それぞれ4チームに分かれて競技を開始した。競技は赤・青2チームに分かれ、手または雨樋を使ってボールを床に転がす、最初に転がした白い球を基準に、各チームがそれぞれの色の球を、基準となる白球のどれだけ近くにまで転がせることができるかを競うものである。参加した船橋特別支援学校の生徒は全員車椅子で生活している。雨樋を転がす投球の際にも介助を必要とする者も多いが、競技ルールはバリアーフリーで、みんなが対等に対戦できるように定められている。本校の生徒たちも昨年と同様、自然にとけ込むことができたように見えたが、新役員の1年生には、ややぎこちなさが感じられた。競技終了後、各ホームルームに分かれて帰りの会に参加、14時30分の下校まで付き添い、その後、相手校担当教諭に挨拶して解散となった。

船橋特別支援学校との交流会は、本校生徒のソーシャルスキル育成という観点からも有意義であると思われる。参加した生徒たちの感想をまとめると、相手校の生徒と積極的にコミュニケーションをとろうとした、と言うより、自然に話し、接することができた満足感を抱

いたようで、生徒会役員だけでなく介護の仕事に関心ある生徒も参加するとよいという声も あった。船橋特別支援学校の生徒の多くは肢体不自由だけでなく、程度の差はあれ知的障害 を伴っているが、「船橋特別支援学校の先生方は、生徒がしゃべってもいないのに、何がした いかがわかっていて、すごいと思った」と本校生徒のひとりが感想を残しているように、本 校生徒たちが自然に交流できたのも、船橋特別支援学校側の教職員スタッフのスキルによる ところが非常に大きい。

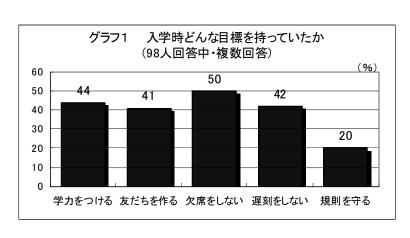
(中居一穂)

## ■ 高校生活アンケート

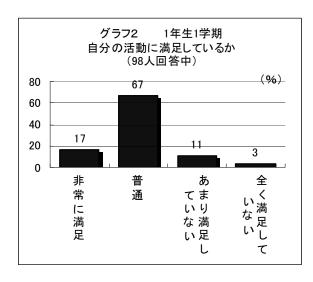
平成21年4月、自己啓発指導重点校3年間の取組が終り、新しい1年生(29期生)を迎えた。3年間の取組を点検する意味で、この年の1年生を対象に入学時から1年間、学期ごとにアンケート調査を実施することになった。調査日は、7月17日、12月22日、3月24日である。アンケートの内容は、生徒たちの学校生活満足度や目標達成度などに関するもので、アンケートの集計結果は、抽出調査で1学期末98名、2学期末147名、3学期末125名の回答をまとめたものである。何の目的も持たず、高校に入学する生徒が多くなっている状況で、「学ぶことの楽しさ」をいかに伝え、「社会で必要な基礎学力や人間関係力」をいかに身につけさせるかを考える上での参考になればと思う。以下は、集計結果のグラフをもとに、自己啓発指導の取組と生徒の意識について考察したものである。

## 1学期の意識

グラフ1にあるように、 生徒たちは高校でどのよう な生活を送りたいか、目標 をもって入学していること がわかる。1学期末に行っ たこのアンケートの回答の うち「規則を守る」を除い た項目が40%以上を示し ているということは、入学

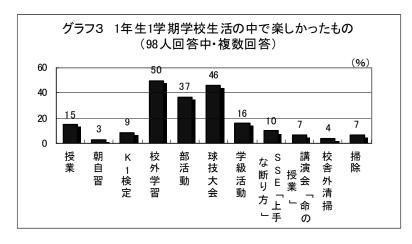


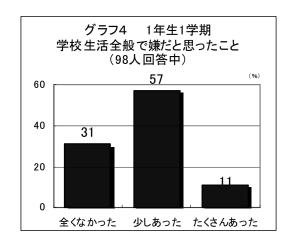
時はそれ以上の生徒が明確な目標を持って入学したと思われる。また、中学生時代に欠席しがちだった生徒も高校に来てやり直そうと思っているのではないかと予想される。「規則を守る」項目の低さは、一般的に中学校よりも高校の方が自由というイメージを持っていることにつながるのではないか。これは、生徒の規範意識を高めることの難しさを表している。



グラフ2の学校での自分自身の活動に満足しているかという問いには、84%の生徒が「普通」「非常に満足」と答えている。自由記述には「たくさんの友達ができた」「テストの点数がよかった」「1日も休むことなく学校に来れてよかった」という記述が目立つ。満足していないことの理由としては「だるかった」「休んでしまった」「友だちがほしい」「つまらない」「中学校の方が楽しかった」「あいさつができなかった」など様々な記述があった。

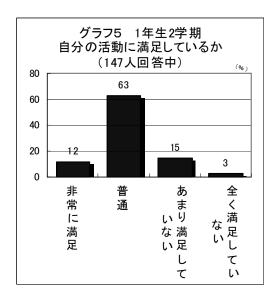
グラフ3では、「学校生活の中で楽しかったもの」として「校外学習」「球技大会」を挙げている者が50%近くいる。特別活動の目標とする人間関係力形成の取組の効果が表れており、学校生活への満足度にもつながっていると思われる。





グラフ4「学校生活全般で嫌だと思ったこと」では「たくさんあった」と答えている生徒が11%いるが、図2の学校での自分の活動に「あまり満足していない」11%「全く満足していない」3%との関係が深いだろう。嫌だったことの自由記述には「校則の厳しさ」の記述が複数ある。自己啓発指導重点校となって効果を上げ、様々な方面で認められてきた学校独自の取組を、継続して定着させることの難しさを示している。

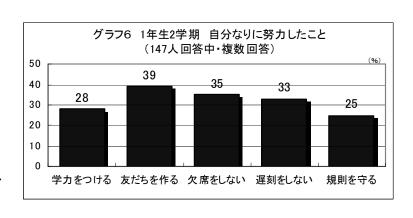
## 2 学期の意識

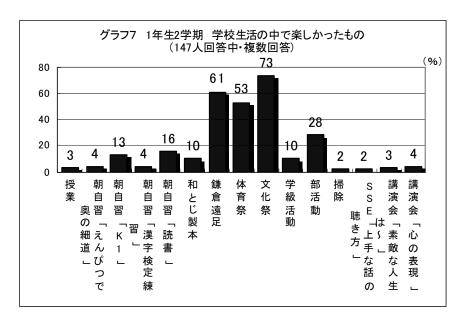


「1学期より勉強がしっかりできなかった」「遅刻、 欠席をしてしまった」「テストの点数が下がった」 などとし、自分自身の努力に対する満足度の低下 を記している。

グラフ6は2学期自分なりにどのような努力をしたかを問うた内容だが、これは入学時持っていた目標に対して継続して努力することができたかという意味も含まれている。結果として、全体的に回答率が下がっている。具体的には「規則を守る」が20%から25%に上が

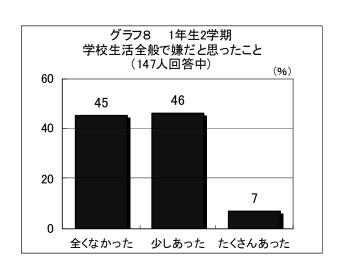
ったのみで、「学力をつける」は44%から28%に、「友だちを作る」は41%から39%に、「欠席をしない」は50%から35%に、「遅刻をしない」は42%から33%に下がった。特に、「学力をつける」という項目の低下率大きさは、着実に学力をつけることの難しさを示している。





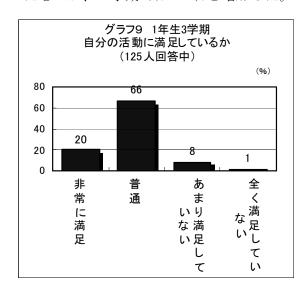
グラフ7に関しては 1学期同様「体育祭」 「文化祭」「鎌倉遠足」 といった行事と「部活動」が楽しかったと回 答する生徒が多かった という結果が出ている。

グラフ8の学校生活 全般で嫌だと思ったこ とには大きな変化が見 られる。「全くなかっ た」 が 31% か ら 45%に増加、「少しあった」が57%から46%、「たくさんあった」が11%から7%に減少している。自由記述の中には「友人と楽しく過ごした」ことが多く書かれていた。嫌なことが「全くなかった」という回答が14%も増加したことは、学校環境に慣れたとも考えられるが、グラフ6(努力したこと)で「校則を守る」の回答が若干上昇したことを見ると、単に慣れたというだけでなく、生徒自身が努力したこともうかがわれる。



## 3 学期の意識

1年生3学期の自分自身の活動に満足しているかを問うアンケートを行ったところ、グラフ9のような結果が出た。「普通」「非常に満足」の合計は、1学期84%、2学期75%だったものが、3学期では86%と増加した。「あまり満足していない」「全く満足していない」

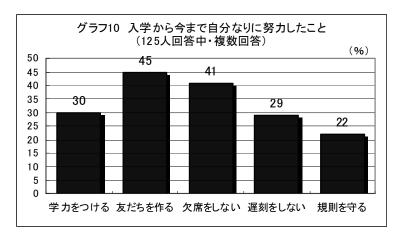


の合計は1学期14%、2学期18%だったものが、3学期では9%と減少した。自由記述では「勉強が身についた」「先生が熱心に教えてくれた」「漢字検定合格」「掃除に満足している」「みんなと仲良くできた」といった記述があった。ここに、1年間の教員のきめ細かな対応の効果が表れているといえる。ただ、「全く満足していない」「あまり満足していない」と回答する生徒が少数でもおり、自由記述に「欠席遅刻が多かった」「あまり友だちと話ができなかった」「勉強がおろそかになってしまった」「1年間無駄に過ごしてしまった」「学校が遠い」といった内容

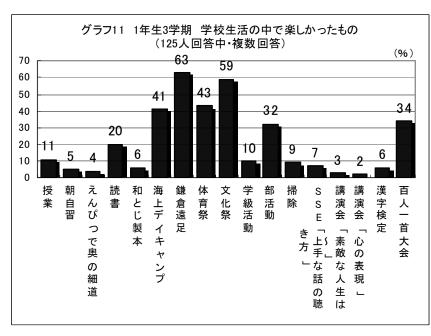
があることをしっかりと受け止め、支援していくことが重要である。

グラフ10は、入学時の努力 目標が1年間でどのように変化 したかという意味も含まれる。

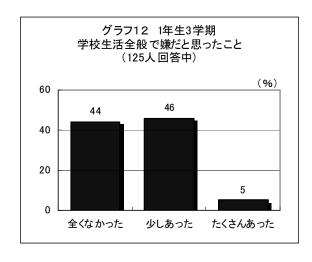
「学力をつける」は入学時 44%から3学期末30%、「欠 席をしない」は入学時50%か



ら3学期末41%、「遅刻をしない」は42%から29%に減少し、「規則を守る」は入学時20%から22%に若干増加した。反面「友だちを作る」は41%から45%に増加した。自由記述にも年間を通して友人関係に関する記述が多く見られたことや、グラフ11の「学校生活の中で楽しかったもの」が「校外学習」や「文化祭」「体育祭」を示していることからも、彼らの学校生活の充実は友人関係と関係していると思われる。別の見方をするならば、友人と安定した関係を築けるということは、学校環境が安定していることではないか。教員のきめ細かな対応や見守りが、



欲や力に期待できるのではないか。



グラフ12の学校生活全般で嫌だと思ったことで「全くなかった」は1学期末31%、2学期末45%から44%に、「少しあった」は1学期末57%、2学期末46%から3学期末46%に、「たくさんあった」は1学期末11%、2学期末7%から5%とわずかに減少した。3学期末の回答は2学期のものとそれほど変化はなく安定した回答だった。3学期末の自由記述では規則が厳しいことについて「良い」とする者と「厳しすぎる」とする者と、正反対の記述が見られるようになった。

## 期待できる生徒の意識

1年間のアンケートの集計結果をグラフ化し、自己啓発指導の取組と生徒の意識について 考察してきた。そのポイントは、以下の2点にまとめることができる。

- ① 生徒たちは高校でどのような生活を送りたいか、明確な目標を持って入学している。 本校での1年間の学校生活において、その目標は努力目標として若干の増減はあるもの の継続的に意識されているということが分かった。
- ② 本校の生徒にとっての高校生活の充実感は安定した「友人関係」を築けたことに関係している。それは、生活指導を中心とした取組によって、学校環境が落ち着いていることとも関連しているであろう。その反面、「学力をつける」という項目についての意識が、少しずつだが低下している。

今後は、今ある落ち着いた学校環境の中で、学習への意欲をいかに高めていくか、進学校とは異なる授業のあり方や意欲に結びつく指導の工夫が、より強く求められる。ただ、学校生活で楽しかったものの中に「朝読書」「百人一首大会」「授業」など学習に関連するものが見られ、自由記述の中にも「勉強が身についた」「先生が熱心に教えてくれた」「漢字検定合格」といった内容が記されていることから、生徒の意識にも期待ができるのではないか。

## 穏やかで静かな学校の背景

平成21年4月に船橋法典高校に着任した。そのときの生徒や学校の印象は、非常に穏やかで静かなものだった。自己啓発指導を始めとした様々な取組との関係もあるのだろうと、漠然とではあるが感じたことを記憶している。今回、アンケートの結果から、特別活動を中心とする人間関係力形成の取組が、学校生活への満足度につながっていること、また、きめ細かな指導の成果として、学校での活動に生徒自身が比較的満足していることなどが分かった。穏やかさや静かさの背景には、生徒たちの全体的な満足感のようなものが、そして、満足感を支える「教師と生徒との信頼関係」があるのではないか。

教員と生徒との日々のやりとりの中で、教員の思いが生徒に少しずつではあるが着実に伝わっていることを実感している。それは、単なる表面上のものだけでなく、もっと深い人間同士の信頼関係に基づくものである。本校は「厳しく 優しく 美しく、一人一人を大切にする学校」という教育方針のもとに教育活動を行っている。単なる優しさだけでなく、厳しさをもって一人一人を大切にしようとする大人の姿勢は、何か問題が起きた時に、しっかりと支えてくれ、真剣に向き合ってくれるという力強い大人の姿を表している。本校における教員によるきめ細かい指導は、対話によって信頼関係を築き、この学校ですべきこと、なぜそれが必要なのかを繰り返し伝え、定着させていくものである。その地道な取組は結果として表れ、近隣からの評価を得られ、地域からも信頼される学校となっている。

大人への信頼感は安心感につながる。本校の着実な取組は、自己啓発指導重点校となった 4年目、5年目にあっても脈々と受け継がれており、学校全体を包む心の安定をもたらして いる。

中学校までに身につけてきた生徒たちの力を引き受け、さらに伸ばし、次の段階へとつなげるための3年間を過ごす場として、本校に入学してきた生徒も様々な取組の中で、何か一つでも楽しめることや自信につながるもの、打ち込めるものを見つけ、少しずつでも力を蓄えていって欲しいと思う。

(佐藤聖子)

## ■ 生徒たちの声

### 母校への手紙

毎年1年生は、5月から6月にかけて、ホームルームの時間等を利用して、出身中学校の恩師に宛てた「母校への手紙」を書いている。書いた手紙は、職員が中学校訪問の際に、近況報告も兼ね、まとめて届けることになっている。手紙の内容は、テストで良い点数をとったこと、授業が楽しいこと、友達ができたこと、少人数クラスのこと、部活動や行事のことなど様々である。どの手紙からも、自己啓発指導重点校の取組の成果を、具体的に読み取ることでき、中学校へのPRにも役立っている。以下は、平成22年度1年生(30期生)が書いた手紙であるが、特に意図的に選んだものではなく、たまたま写しが残っていた5通を、個人情報を伏せてそのまま転載したものである。

「前略 お元気ですか。私は充実した毎日を過ごしています。中学のときは、be動詞さえわからなかったこの私が、法典高校に入学して過去形までも、できるようになりました。そして、中学校では1回も取ったことのない100点をいただきました。先生方驚かれましたか。20人の少人数クラスの中、皆と仲良くすることができ、よい友達もできました。少ない人数のクラスだからこそ感じる楽しさや団結などがあり、本当に毎日充実しています。学年の綱引き大会では優勝、校外学習でのカレー・コンテストでは、私の班が作ったカレーが、なんと2位でした。今度自慢しに行きますね。私は、○○中学校で本当に良かったです。先生達皆大好きです。皆で読んでくださいね。進級・卒業を目指して頑張っていきます。草々」

「前略 お元気ですか。僕は毎日元気に学校へ登校しています。法典高校は少人数制で、クラスの人数が中学校に比べて少なくて寂しいですが、クラスの友達はたくさんでき、毎日楽しく過ごしています。勉強の方も中学校では、まったくついていけなかったですが、法典高校は、とても授業が分かりやすく、テストでも良い点数がとれました。先生方もいい人たちばかりです。法典高校では、中学校で何もしていなかった日々を取り返すため部活に入りました。部活は〇〇〇部に入りました。練習はきついですが、日々努力しています。末筆ながら先生方のご健康をお祈りします。草々」

「拝啓 初夏の候、先生方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。私は、充実した 毎日を過ごしております。早いもので、中学校を卒業して2ヶ月以上が過ぎました。中学 校では、1クラス40人ほどでしたが、法典高校では20人です。とても少ないですが、 今ではたくさんの友達もでき、毎日楽しく生活しています。授業もすごく分かりやすいの で、中学校でできなかったところも、今ではできるようになりました。毎日、自転車で通 学しています。坂道が多いので大変ですが、良い運動になると思いながら頑張っています。 中学校では、遅刻ばかりしていましたが、今は、時間が守れるように5分前行動を心がけ

ています。これから、文化祭や体育祭など、たくさんの行事があるので、とても楽しみで す。天候不順な折、ご自愛ください。敬具」

「前略 先生、お元気ですか。〇〇中学校には慣れましたか。私は、高校に入って2ヶ月が経ち、友達もたくさんでき、クラスにもなじめ、楽しい学校生活を送っています。法典高校の先生方は、とても面白く、授業が楽しいです。中学でなかなか理解ができていなかった問題なども先生方が丁寧に教えてくれます。中間テストが終わりましたが、初めて数学のテストで52点を取り、他の教科も満足のいく点数ばかりでした。ところで、時々、〇〇中学校のことが恋しくなることがあります。中学校行きたくてもなかなか時間が取れずにいます。そのうち、顔を出しに行きますので、忘れないでいてください。先生、体調を崩さず、元気に頑張ってください。草々」

「前略 お元気ですか。私は、相変わらず元気に過ごしています。こないだテストがありました。なんと私の苦手な数学で68点をとりました。周りから見たら大した点数じゃないかも知れませんが、とてもうれしかったです。最近は高校生活にも慣れたせいか、たくさん先生に注意され、怒られることが増えてきました。ちゃんと卒業できるように、きちんとした学校生活を送りたいと思っています。これから、まだまだたくさんの行事があるので、最高の思い出になるように頑張りたいです。先生もいろいろ頑張ってください。草々」

## 生徒による学校紹介

8月と11月の2回、中学校3年生及びその保護者を対象とした学校説明会を実施している。内容は、教頭及び生徒会長あいさつ、教務主任及び生徒指導主事の説明、学校紹介スライドの上映、生徒による部活動紹介、施設見学などである。平成21年度から、説明会の運営に生徒をできるだけ参加させるようにしている。来校者の案内と受付、学校紹介、部活動紹介、会場設営・撤去などは、すべて生徒会と部活動の生徒が行っている。これは、母校への帰属意識を高める機会になると同時に、来校者に本校の生徒の様子を見てもらう機会にもなっている。

ここでは、平成22年度の第1回学校説明会における、冒頭の生徒会長あいさつを抜粋した原稿を紹介する。生徒が草案を書き、担当職員が手を加えたものである。部活動、少人数指導、朝自習、生徒指導、体験活動・学校行事、進路指導など、多くの教育活動の紹介とそれらに対する率直な感想が、生徒の視点で述べられている。



「最初に、本校の特徴についてお話ししたいと思います。本校はご覧の通り周囲を線に囲まれており、静かな環境で勉強や部活動に取り組むことができます。

部活動は現在、陸上競技部・野球部・卓球部・バスケットボール部・バドミントン部・

バレーボール部・剣道部・書道部などが活発に活動していますが、それ以外にもアニメ部・ 吹奏楽部・サッカー部・テニス部なども熱心に活動しています。今日は、多くの部活動が 活動をしますので、ぜひ見学してみてください。

次に授業のことをお話しします。本校では、1年生は1クラス20人で構成し、すべての授業を20人の少人数で行っています。入学した当初は、たった20人しかいない教室に戸惑いましたが、先生との距離も近く、一人一人を大切に授業をしてくれます。授業中は、人数が少ない分当てられる回数も多くなりますが、積極的に授業に参加することができます。私は〇〇が苦手でしたが、先生方がわかりやすくていねいに教えてくださるので、克服することができました。テストの前には、学年の先生方が補習を行ってくれます。授業でわからなかったことも補習で教えていただいたお陰でテストには心配なく臨めます。2年生になると、1クラスは40人になりますが、数学と英語・理科はハーフクラスの少人数で行っています。また、今年からは科目によって習熟度別クラスの授業も行っています。3年生では、選択科目も多く自分の興味や関心のある授業を受けることができます。

本校の特徴の代表的なものに朝自習があります。毎朝10分間朝自習の時間があり、基礎学力向上のための学習をします。内容は学年によって異なりますが、1年生は「マナトレ」というドリルを使って国語と数学の学習をします。その他に「奥の細道」の書写もします。2年生は「K1グランプリ」といって、本校オリジナルの教材を使って一般常識を身につける学習をしています。その他に修学旅行の事前学習として沖縄検定というのも行



っています。3年生は、主に就職試験対策問題に 取り組んでいます。3学年を通して、漢字検定対 策や読書など共通した学習もします。朝読書は秋 の読書週間に合わせて行いますが、図書室で本を 紹介してもらい、自分たちで本を選びます。本校 の図書館には様々な分野のおもしろくて為になる 本がたくさんあります。なかなか本を読むきっか けのない私達には、この朝読書を通して本を読む 楽しさを経験することができました。

次に、生徒指導に関してですが、法典高校は頭髪や服装などの校則は厳しいです。また、遅刻に関しても厳しく注意されます。遅刻は回数が増えると、早朝登校をしなくてはなりません。授業に遅れた場合は入室許可書というものが必要になります。法典高校の規則は厳しいですが、どれも高校生として最低限守らなくてはいけないことばかりですし、社会に出たときに困らないように先生方が指導してくださるのだと思います。

学校行事について説明します。今年度1年生は、春に葛西臨海公園でカレー作りをしました。2年生は都内を班別行動で見学し、3年生はディズニーシーに行きました。仲間との親睦を深め楽しい思い出を作ることができました。特に1年生のカレー作りは、みんなで協力しないとできないので、仲間との信頼を深め、クラスがまとまる絶好の機会になります。2年生は11月に沖縄に修学旅行に行きます。昨年、私達は東村というところで民泊をしました。沖縄の一般のご家庭に4、5人のグループで泊まります。多くは農家のお宅なので、農作業を手伝ったり、沖縄の郷土料理を教えていただいたり、沖縄の風習や文

化についてお話を聞いたりしました。とても楽しかったです。また、平和公園やガマという防空壕を見学して、沖縄の戦争についても知ることができました。沖縄の生活に触れることができ、とても貴重な体験ができました。

学校行事には、その他に1学期に球技大会、2学期に文化祭と体育祭、3学期には百人一首カルタ大会があります。どの行事も盛り上がってとても楽しいです。特に、文化祭は、「緑城祭」といいますが、各クラスがいろいろな企画を立てて取り組んでいます。今年の一般公開日は、9月25日(土)です。ぜひ来てください。

最後に進路のことをお話しします。本校では1年生の時から進路学習を行います。専門学校の先生に来ていただいて授業を体験したり、逆にバスを使って専門学校に行って体験するとこともあります。

夏休みにはインターンシップといって、実際に会社やスーパー・保育園などに行って職業体験することもできます。3年生になってからは、求人票の見方や外部講師による面接指導、進路講座などほぼ毎週行ってきました。とても役に立っています。今、就職を希望している3年生は、就職活動の真っ最中ですが、先生方の熱心なご指導の元、この就職氷河期を乗り切れるよう頑張っています。」

## ■ 学校関係者の声

平成20年度から校内に「開かれた学校づくり委員会」(学校評議委員制度に相当)を設置し、毎年1月の第3回委員会において、自己評価に基づいた学校関係者評価をいただいている。委員の構成は、自治会町会連合会役員1名、地区青少年問題連絡協議会役員1名、PTA役員3名、同窓会役員2名となっている。以下は、学校関係者評価をまとめる過程で、各委員から出された意見等を、「授業と学習指導」「生徒指導」「進路指導」「特別活動等」「開かれた学校づくり等」の5つの視点に分けて、年度ごとに並べたものである。特に、地域の方からは、「近隣の小中学生のお手本となっている。」「地域の目として確かな変化があったといえる。」など、自己啓発指導重点校の指定前では、聞けなかった良い評価を得ることができた。

## 授業と学習指導について

#### 〈平成20年度〉

- ・全体として、分かりやすい授業が行われており、生徒たちが、落ち着いて学習に取り組める雰囲気ができている。ただし、授業中に指名する生徒が偏らないような配慮や、「先生」として、ふさわしい言葉遣いが望まれる場面もあるので留意していただきたい。
- ・就職する生徒の多くにとって、高等学校は、最後の勉強の場となるので、人格を高めるための人間教育に結びつくような授業となるよう、一層の尽力を期待します。

#### <平成21年度>

- ・保護者の方から、「息子が、法典高校では、よくわかる授業をしてくれると言っていた。」 という話を聞いた。また、生徒の授業アンケートで、先生の「教え方に熱意が感じられた」 と答えた生徒が、39%もいたというのは大変すばらしいと思う。
- ・授業公開や研修については、さらに教員の授業力アップのために充実した内容として欲しい。
- ・朝自習が定着しているのは、とても良いことである。生徒が落ち着いて授業に臨めるよう、本校独自にはじめた内容であることに感心する。遅刻者がいても、整然と自習がおこなわれているとのことであり、読書活動の推進にも繋がり、自己啓発指導重点校の取組として非常に成功していると思う。

#### 〈平成22年度〉

- ・授業公開や研修については、さらに充実した内容で実施してほしい。
- ・アンケートの結果を受けて、改善できるところは改善すべきであるが、教師として確固と した信念を持って、毅然とした態度で指導をしてほしい。
- ・今後も高校生の就職活動が困難を伴うことは十分に予想される。就職試験合格を目指し、 面接での立居振舞や話し方を学ぶ予備校的な教室もあるようである。ビジネス系検定への 参加は、そうした世の中の動向に適った取組であり、将来に向けての実践的で意味のある 学習活動である。

## 生徒指導について

#### く平成20年度>

- ・服装や頭髪など、生徒指導に係る学校の決まりを知らない保護者が意外に多い状況がある。 家庭の協力を得るためには、学校として生徒指導の方針について、いろいろな場面で、保 護者に周知する必要がある。
- ・どこの学校でも、基本的な生活習慣に関して、学校の先生の指導に反発し、社会に出て初めてその必要性に気づく生徒が多い。そこで、卒業生や地域の社会人を招いての講演会や、地域でのインターンシップなどは、生徒指導の観点で有効であり、積極的に取り組んでいただきたい。また、部活動の先輩、後輩の人間関係の中で基本的生活習慣ができてくる場合もあるので、部活動における生活指導の機能も重視していただきたい。

#### く平成21年度>

- ・いつ来校しても、校舎内外とも綺麗である。落ちついた雰囲気があり、生徒とすれ違いの際は、気持ちよく挨拶してくれる。登下校のマナーも以前と比較して良くなってきた。今年度に入り、近隣の小中学生のお手本となっている。
- ・遅刻、欠席については、保護者の協力が大である。わが子に対し、しっかりとした指導も 必要である。
- ・頭髪や服装については、本来は家庭での躾の部分であるが、先生方にもさらに根気強く指導してもらいたい。また、保護者会として組織的に、生徒指導に協力する方法がないか検討してほしい。

・全校生徒参加のカルタ大会では、1年生は上級生チームを相手に、服装・頭髪面も含めて、 きちんとしたマナーで楽しく盛り上がっていた。日頃の生活指導の成果が確認できる。

#### 〈平成22年度〉

- ・遅刻をしないためには、本人の自覚が一番大切となる。また、親に対しても責任を持って もらうために、何かペナルティーがあって当然である。遅刻の回数により、親に学校へ来 てもらう必要もある。
- ・遅刻者が大変減少していているが、教員側の指導に乗ってくる生徒が増えたことが大きく 影響していると考えられる。学校は生徒1人1人に大変手厚い指導をしてくれている。生 徒の法典生としての意識を非常に高めていると思う。
- ・町会でも法典高校が良くなってきたという話が多く聞かれるようになった。毎日見ている ので、地域の目として確かな変化があったといえる。仮に、変な服装で家を出る生徒がい るとして、その場合、親はどう思っているのか、家庭での教育力はどうなっているのか、 疑問である。家庭との連携が引き続き重要である。
- ・問題行動カードや入室許可書を通して、学年室での生徒との人間関係作りが築かれている。 「指導拒否」が起こらないのは、生徒との信頼関係ができているからである。
- ・長期欠席者に対しても引き続き丁寧な指導を継続してもらいたい。

### 進路指導について

#### く平成21年度>

- ・説明会や個別指導は他校に比べても充実しているし、計画的に実施されていてよい。
- ・世界的不況のもと、就職内定率の全国平均は約60%の内定率だという。法典高校では現在71%の内定を得ているのは立派であるが、ある工業高校では企業と学校のつながりを密にして100%の内定を得、早期退職もないという。上を目指してさらなる努力を期待する。
- ・配布されている「進路ニュース」は生徒を通じて読んだが、1年のうちから重要な情報が 伝えられている。本人が見て理解しているか疑問に思ったが、朝自習で読み合わせをして いると聞き安心した。2年生は発行回数が少ないようだが、1年における学びを継続的に 生かせるようにしてほしい。
- ・就職した生徒の中には2~3ヵ月で離職する生徒がいると聞く。企業のニーズを確認する とともに、本人の意向を充分尊重して進路指導をお願いしたい。
- ・進路指導に関してよく頑張っていただいている。この不況の中で就職決定率 71% は大変 評価できる。引き続き最後までお願いしたい。

#### 〈平成22年度〉

- ・ガイダンスや個別指導は計画的に実施され充実している。就職氷河期の再来といわれるな か良く努力していると思う。
- ・配られた「進路ニュース」などを通して、子どもと話し合える機会が得られているので今 後も続けて欲しい。
- ・東京方面への公共交通機関の乗り継ぎに不安を持つ生徒については、事前のシュミレーシ

ョン等の多くの指導が必要かもしれない。

- ・国語の表現力を向上させるために、読書の習慣を身につける必要があったと思われる。
- ・就職希望者の約7割が決定(男子8割以上、女子約6割)したが、未定者の職に就く意欲 の低下を、親が簡単に納得してしまう傾向もあり、家庭との連携による指導が今後の課題 である。

## 特別活動等について

### 〈平成21年度〉

- ・生徒たちが、継続的に係活動や、班長会議・ルーム長会議を行うことで、自主性と責任感 を養うとともに、健全な自治意識を高めることに繋がっていると思う。
- ・人前で話すことに慣れ、他の人の様々な考え方に触れることができるよう、K J 法を使って意見をまとめ、発表させるなどの協同作業を体験させてほしい。
- ・修学旅行の民泊先の家庭状況の違いによって、体験やコミュニケーションのとり方に差が 出たことについて検討の余地がある。文化祭で事前学習の一環として、沖縄についての展 示発表があったが、立派なものが多かった。
- ・部活動の成果などをもっと広報する必要がある。法典公園グラスポのフェンスに掲示され た関東大会出場の横断幕は効果があった。ホームページの活用も大変効果的であるので、 検討していただきたい。また、体験活動について、近隣での老人福祉関係施設の訪問や、 わざわざ沖縄まで行かなくても地元での農業体験など、いろいろと工夫してほしい。
- ・校外清掃は、大変結構なことである。今後、地域の町内会等との連携ができると良いのだ が。
- ・様々な指定校の研究成果を十分に活かして、生徒一人一人を大切にする学校の実現に繋げてほしい。

#### 〈平成22年度〉

- ・近隣の中学校でも民泊体験は大変教育効果が高いようで、その後も長く交流が続くようである。今後も沖縄での「心の交流」の記憶とともに、頑張る気持ちを持続させてほしい。 梨農園等、近隣での農業体験を通じた地域交流も一考の価値がある。心の交流とともに、 地域への貢献という奉仕の精神も育まれるのではないか。
- ・地域の美化推進に協力していただき、評価できる。今後とも、さらに地域との連携を深め、 生徒の意識が高まるように一層の工夫をお願いしたい。たとえば町内会が実施する530 (ゴミゼロ) デーの前後に、校外清掃を設定してはどうだろうか。
- ・中学校での部活動の加入率もかなり減っていることを考えれば、50%前後の加入率は、 仕方がないことではないか。一般の評価として、部活動をやっている生徒は、そうでない 者よりマナーがよいとされている。引き続き部活動を活性化する努力をお願いしたい。

## 開かれた学校づくり等について

#### 〈平成21年度〉

- ・ホームページの内容が、他校に比較してもう少し充実させて欲しい。部活動の内容をさらに充実させて欲しい。試合の日程等をのせてもらいたい。部活動のページは、中学生が見て、受検校選択の1つの判断材料であり大切にしたい。また、保護者用のページで、PT A活動の内容をもっと充実させて欲しい。本校生徒の校外での清掃活動など、良いことをしていることを公開して欲しい。アクセスカウンターをつけ、アクセス状況を把握する必要がある。
- ・開かれた学校づくり委員会やミニ集会をとおして、地域・保護者・学校の話し合いが行われ、連携して学校を良くしていく取組ができるようになった。
- ・PTA委員会で、今年度新設された企画委員会は、はじめて校内でのPTA研修会を企画 するなど、十分に機能を発揮したと思う。
- ・部活動など、生徒の活動が活発になり、予算面での支援が必要になってきている。特に保護者会の立場では、学校のために何かしたいということがあり、今年はPTA研修会なども予算0円で行い、その分を部活動等の振興に充てたところである。今後は、課外活動の振興などを目的とした後援会のような組織の設立を検討してほしい。

#### 〈平成22年度〉

- ・昨年度要望した部活動のページとPTA活動のページを充実させることは、概ね達成できたと感じる。部活動では、写真の挿入や大会結果の報告がなされており、PTA活動では、 案内文書がダウンロードできたり、文化祭での取組なども写真で報告されており、大変わかりやすくなっている。
- ・中学生向け学校説明会の参加者が大幅に増加したのは、地域から評価されている証拠であ る。
- ・PTA総会の参加者が少ないようだが、講演会を同時に開催するなどの工夫が必要である。

## ■ 中学校からの評価

職員による中学校訪問を毎年、6月と11月の2回実施している。6月は、教育活動の紹介と入学した1年生の様子の説明を、11月は、主に入学者選抜の説明を行なっている。平成20年度は、学級副担任、主任・部長、教頭等を中心に17名の職員で、延べ89の中学校を訪問した。以下は、そのときの訪問の記録をもとに、中学校から本校へのプラス評価・マイナス評価や、本校を希望している中学3年生の例についてまとめたものである。

#### <プラス評価>

- ・落ち着いた学校になっている。(24件)
- ・少人数制による指導はよく理解されている。(4件)

- ・朝自習の取組やその実施内容が良い。(4件)
- ・生徒指導が充実している。(4件)
- ・服装など生徒の印象が良い。(3件)
- ・自転車で通学できる。(3件)
- ・自己啓発指導重点校の取組が良い。(2件)
- ・漢字検定の合格者数に感心する。(2件)
- ・中学校で課題のあった生徒が頑張っている。(2件)
- 制服が新しくなった。
- ・校内が非常にきれいで、清掃が行きとどいている。
- ・生徒の面倒をよく見ている。
- ・普通に授業が成立している。
- ・求人数が多い。
- ・周りが宅地化され、通いやすくなった。
- ・西船橋経由で通学しやすい。
- ・職員が努力している。
- ・前向きな取組を行い学校の雰囲気がよい。

#### <マイナス評価>

- ・交通の便などの理由で、本校への志願者は少ない。(7件)
- ・船橋法典高校に過去に入学した生徒を通して、中学生や保護者が従来の良くないイメージを作っている場合がある。
- ・4、5歳年上の兄妹がいる3年生については、兄弟から4、5年前の法典高校の評判を 聞かされ、法典高校への志願をためらっている例がある。
- ・保護者を中心に昔の船橋法典高校のイメージがまだある。
- ・最近の様子はわからないが、数年前は、船橋法典高校には、様々な生徒がいたようです ね。
- ・3年前は、船橋法典高校についてあまり良い評判は聞かなかった。

#### <本校を希望している中学3年生の例>

「まじめな生徒」「どちらかというと、おとなしく勉強が追いつかない生徒」「大変成績の良い生徒」「課題を抱えた生徒」「級友との人間関係がうまくいかず教室に入れなかった生徒」「自己啓発指導重点校にふさわしい生徒」「いじめられやすそうな生徒」「しっかりした生徒」「おとなしいまじめな生徒」「リスタートしたい生徒」など。



 $(1+2+3)^2 = 1^3+2^3+3^3$ 

# 新しい発見があるかもしれない高校生活 船橋法典高校で一緒に見つけてみませんか

!?

船橋法典高校は、厳しく 優しく 美しく、一人一人を大切にする学校です。

## 実力アップのために

<ul><li>分かりやすい授業</li></ul>	高校の学習の困難さを克服できるよう、楽しく丁寧な授業を行っています。
● 学習に集中できる環境	学校全体で、学習の基盤となる規範意識の徹底を図っています。
● 一貫した少人数授業	1年生は全科目、2年生は数学・理科・英語、3年生は選択科目などで20 人程度の少人数授業を行っています。
● チームティーチング	体育や情報の授業では毎時間2人の先生が担当します。
<ul><li>● たくさんのオリジナル科目</li></ul>	20世紀の世界史、日本史探訪、現代の政治と経済、応用英語A・B、体育総合、音楽表現、美術表現、書道表現、フード基礎研究、服飾基礎など本校独自の学校設定科目を2、3年生で用意しています。
● 実験実習を大切にした授業	特に、理科、体育、芸術、家庭、情報などの教科で行われています。 22年度は、家庭科の授業で2年生全員が保育園での実習を行いました。
<ul><li>● ○校時の朝自習</li></ul>	教科基礎力、漢字検定対策、百人一首、奥の細道、沖縄豆知識、地理の基礎、 就職対策、読書など様々なテーマを扱って幅広い教養を身につけます。
● 放課後や夏休みの補習	一人一人の習熟度に合わせて補習を行っています。

## 将来の夢へアプローチ

● きめ細かな進路指導	今年3月の卒業生の進路決定率は、就職と進学を合わせて81%でした。 今年度は90%を目指しています。
● 充実した大学の指定校制度	3年生の定員160名に対して、46大学223名分、21短大62名分の 指定校推薦枠があります。(平成23年度入試)
● たくさんの選択科目	1年生は3科目、2年生は11科目、3年生は21科目あります。
<ul><li>● 1年生からの 上級学校見学や進路説明会</li></ul>	一人一人の進路希望に対応した分野別の進路説明会や、貸し切りバスで行く コース別上級学校見学会を行います。
● 高校生インターンシップ	1、2年生対象で夏休みに行います。

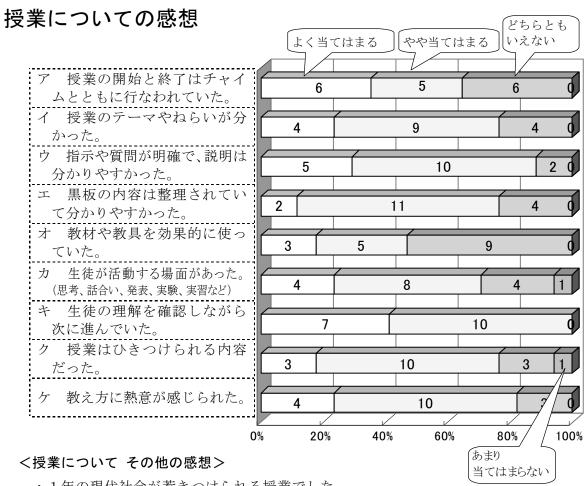
## 充実したスクールライフ

● 熱中できる部活動	野球、陸上競技、テニス、バスケットボール、バドミントン、卓球、剣道、 サッカー、バレーボール、華道、茶道、アニメ、吹奏楽、美術、書道、演劇、 映像、フィールドワーク、写真、合唱、クッキング、ガーデニングなどの 部活動・同好会があります。
● 充実した校外行事	22年度は、沖縄伊是名島修学旅行(民泊体験)、鎌倉遠足、デイキャンプ、 ミュージカル鑑賞などの豊かな体験活動を行いました。
<ul><li>楽しく取り組める文化祭や 体育祭</li></ul>	文化祭は、模擬店、実演、展示発表など30以上の団体が参加し、にぎやかに行われます。体育祭も「クイズでダッシュ」、「みんなでジャンプ」など ユニークな競技で盛り上がります。
● 気軽に利用できる相談室	迷っていること、困ったこと、何でも気軽に相談できます。
● 新鮮なデザインの制服	5年前にモデルチェンジしています。

## ■ ミニ集会参加者の声

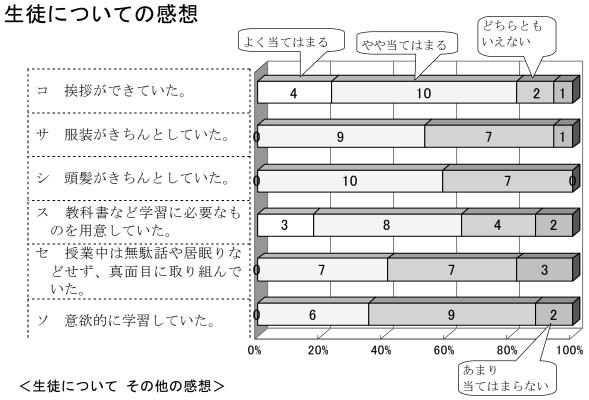
平成20年11月5日、本校において、保護者、地域住民及び職員が参加する教育ミニ集会 が開催された。教育ミニ集会は、教育を軸とした地域の交流や、開かれた学校づくりのために 毎年開催されるものである。

この年の教育ミニ集会では、授業 (第6校時)の自由見学、本校の特色ある教育活動の紹介、 意見交換などが行なわれた。また、集会の最後に、授業、生徒及び学習環境についての感想、 並びに船橋法典高校の印象やイメージについてのアンケートを実施した。アンケートは、17 名の参加者から回答をいただき、以下のような集計結果となった。なお、棒グラフの数字は、 左から、「よく当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまら ない」と答えた人数で、「全く当てはまらない」という回答はなかった。



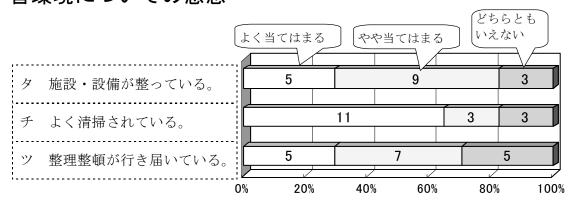
- ・1年の現代社会が惹きつけられる授業でした。
- ・1、2年に比べると3年の方が意欲に欠けるように思えます。
- ・先生のご苦労が良くわかりました。
- ・教科書が出ていない生徒がいる。空席が結構目立つ。私語の多いクラスがあった。
- ・1、2年生はとても静かに勉強していた。少人数授業はとてもよいと思う。

- ・教師の力量に差があるため、回答しにくいです。
- ・楽しい授業内容で生徒さんが分かりやすく勉強していたように感じました。



- ・授業中、活気が欲しい。
- ・生徒の無駄話は多いが、先生によってうまく惹きつけていた。
- ・3年生は、進路が決定している生徒かもしれないが、居眠りをするなどやる気のなさが目についた。
- ・机の上に飲み物や鏡が置いてあった。
- 特に1、2年生に、明るい表情で姿勢のよい生徒が多く見られました。
- ・授業中、ノートをきちんと書いている生徒さんが多かった。

## 学習環境についての感想



#### <学習環境について その他の感想>

- ・よい。
- ・校外、校内ともきれいで気持ちよいと思う。
- ・汚れていない、壊れていない、こんな環境であり落ち着いていました。
- ・黒板、掲示板など見やすくて良かったです。

### 船橋法典高校の印象やイメージ

- ・3年生になると居眠りが散見された。校内の清掃状況は良好。
- ・皆、頑張って授業を受けていたと思います。
- ・学習態度、数年前より良くなっている。
- ・全体的に片づいて清掃されているようだった。
- ・年々、校舎がきれいになり、それと共に生徒の学習意欲が感じられる様になりました。
- ・あいさつをしてくれると気持ち良く見学できた。
- ・とにかく校内の清掃が行き届いている。気持ちが良い。
- ・3年前と比較すると、落ち着いた学校になりました。真面目に取り組む姿が多く見受けられ、教師集団の頑張りが伝わってきました。
- ・とても落ち着いた学校になられたなとの印象です。

## その他、気づいた点

- ・先生の方は、もっと授業が集中するよう方法を考慮したら。
- ・先生と生徒の関係が友達のように感じた。良いのか悪いのかわからないけど、私も授業を 受けたくなりました。
- ・先生方の声が大きくとおるので、生徒達の後ろで聞いていても良くわかった。
- ・教師が生徒と向かい合って、授業や行事、学校生活への働きかけが実ってきたという印象 を持ちました。
- ・礼儀正しく、人なつこい生徒が多い。学校がきれいだと思いました。先生方がとても熱心 に指導されていると思います。見学させていただきありがとうございました。

### 高校生の社会奉仕活動推進校

## 県立船橋法典高等学校

●清掃ボランティアなど社会奉仕活動の体験を通して、環境学習に取り組むとともに、 一人一人の勤労観を育成する。

- 富士山宿泊研修における山中湖畔の清掃活動
- 学校周辺の通学路のゴミ拾いによる清掃ボランティア
- ▶沖縄修学旅行で民泊した家の家業を手伝うこと通しての就業体験,また民泊先の方々 との東村海岸清掃活動









通学路清掃

山中湖のゴミの分別

収集したゴミ(山中湖)

東村海岸清掃



- 清掃活動を通じて環境を守ることの大切さを学ぶことができた。
- ●地域社会との交流体験により、社会の一員としての自覚と責任感を養うことができた。
- ●修学旅行民泊先での就業体験を通して、高校生としての勤労観や職業観について学ぶ ことができた。また、東村海岸清掃では、豊かな自然環境の中で民泊先の方々との交 流を深めることができた。

#### 〈資料2〉 平成20年度の魅力ある取組「さわやか朝自習」

平成20年度「一校1キラッ!」優秀賞

#### 学校名 船橋法典高等学校

URL http://www.chiba-c.ed.jp/f-houden-h/

学科等 全日制の課程 普通科

住 所 〒273-0047 千葉県船橋市藤原4-1-1

雷 話 047-438-0721



#### 学校の特色

厳しく 優しく 美しく、 一人一人を大切にする学校

魅力ある取組み

学カアップをめざす 「さわやか朝自習」

#### 学校の特色と平成 20 年度の取組

- 規範意識を高め、すべての生徒が落ち着いて < 学習に集中できる環境を大切にしています。
  - 一人一人の進路希望を実現するため、 朝自習や補習授業を行なっています。
- ・教育相談体制の充実を図っています。
- **イシ** し く . 教科学習における「困難さ」を克服する 「分かりやすい授業」を展開しています

### 一人一人を大切に

- 一貫した少人数教育とチームティーチングを導入しています。
- 2年生から進路希望に応じたたくさんの選択科目(本校独自の 科目を含む)を用意しています



山中湖の湖畔での社会奉仕活動

- 毎日、全員で校舎の清掃を行い。 きれいな学習環境を維持しています。
- 富士山宿泊研修での山中湖畔清掃や、 沖縄修学旅行での民泊など、 豊かな体験活動を推進しています。

美しく



毎朝8時35分から10分間は、 授業へのウォーミングアップの時間。

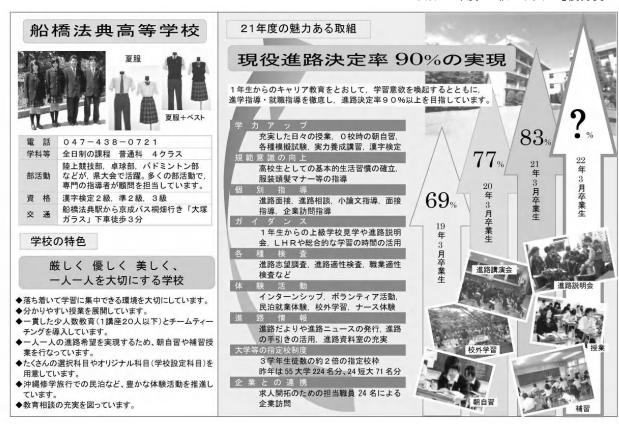
基礎知識の学習、読書活動、進路対策、学校行事の準備学習など

- 各教科や学校行事と連携した教材で知識欲が刺激されます。
- 確認テストや百人一首大会などで知識が定着します ・漢字検定など明確な目標設定で達成感が味わえます。

主体的な学習態度を身につけ、学業生活を充実させます。

#### <資料3> 平成21年度の魅力ある取組「現役進路決定率90%の実現」

平成21年度「一校1キラッ!」優秀賞



<資料4> 平成22年度の魅力ある取組「ユニバーサルデザインによる学力向上プロジェクト」 平成22年度「一校1キラッ!」優秀賞



☆ 特別支援教育の推進

高等学校発達障害支援モデル校の紹介

## 高等学校における特別支援教育の推進

― 発達障害支援モデル校の研究 –

平成19年4月に学校教育法が改正され、高等学校においても、発達障害を含む障害のある生徒に対し、特別支援教育を行うこととなりました。

県教育委員会では、文部科学省の委嘱により、今年度、県立船橋法典高等学校を「高等学校発達障害支援モデル校」に指定しました。モデル校では、校内支援体制を整備するとともに、専門家からの指導・助言を活用しながら、発達障害のある生徒への具体的な支援の在り方について実践的な研究を行い、その研究成果を県内外の学校へ広めていきます。

#### 県立船橋法典高等学校の取組

発達障害を含め特別な支援を必要とする生徒への「きめ細かで丁寧な指導や支援」は、すべての 生徒に対して有効なもので、学力向上策などにつながるという視点から、実践的な指導方法の研究 や、具体的な教材の開発を行っています。また、成長とともに「生きにくさ」を感じてきた生徒に 対する個別支援のためのシステムの構築を検討しています。

取組の重点項目は次の4つです。

- ① 一人一人の生徒を支える校内システムの構築(校内支援委員会の整備)
- ② 発達障害のある生徒に対する学習指導の工夫と充実
- ③ 「生きにくさ」を抱える生徒への教育相談機能(メンタルサポート)の充実
- ④ 一人一人の特別な教育的ニーズに応じた支援のための関係機関との連携の在り方



#### <その他の県の取組>

- 〇高等学校教員向けリーフレットの作成・配付(平成20年3月)
- 〇県内全公立学校を対象とした特別支援教育コーディネーター養成研修の実施(平成20年度)
- ○高等学校における発達障害等の校内研修への支援(平成20年度)
  - \*高等学校教員向けリーフレットは、県教育委員会ホームページで閲覧することができます。 (http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/zigyou/tokubetu/leaflet0807.pdf)

[問合せ先: 043-223-4050 教育振興部特別支援教育課]

#### 

### 伊是名島ホームステイ体験

修学旅行の一環として、沖縄伊是名島で2泊のホームス テイを体験しました。ルーム長会議で決めた「目指せ! 心 の交流 in 伊是名島」をスローガンに、2年生148名が、 島内36家族のもとで、家業体験、農業体験、島内史跡巡 り、郷土料理作りなどに挑戦しました。島の人たちの思い に触れ、見聞を広めるとともに、一人一人が心を開いてコ ミュニケーションを図ることができたようです。



## 厳しく 優しく 美しく、 ·葉県立船橋

ユニバーサルデザインによ

本校は、SNEモデル校や自己啓発指導重点 人の知識、経験などの違いにかかわらず、高校の ニバーサルデザインによる学力向上プロジェク クトの一環として様々な体験活動を行なったの

#### <参加した生徒の声>

「別れの船に乗るとき、友達が泣いているの を見て、今回の体験には大きな意味があるん だなと思った。」

「世間知らずの私たちに家族のように接して くれた。感謝。」

「畑仕事は近所の人も協力し合っていた。島 の人は仲がいいんだ。」

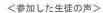
## 幼児とのふれ

保育の重要性を理解しようと、2年生全員が 育園で「幼児とのふれあい体験学習」を行いる して、2年生はクラスごとに4回に分けて15 に、オモチャを手作りしたり、絵本を選んで訪 臨みます。本番では、園児が飽きないように、 り、オモチャに絵を描いたり、みんなで歌った で遊びました。子育ての大切さと難しさを肌



10分間の朝自習の時間に、春と秋の年2回、全校一斉の朝読書週間 を設定しました。期間中は、ホームルームでの読書指導や図書室での本 の紹介が行なわれ、図書委員の生徒も、各学級への図書の出前やポスタ 一の掲示などの活動をしました。図書委員は、この他に、作家インタビ ューや国会図書館見学も行いました。

ボッチャ競技で交流体験



「家で読む機会が全然ないから学校で読めてよ かった。本ってなんかすごいよー。」

「人に言われたことって簡単に納得できないけ ど、本に書いてあることって素直に納得できる。」 「朝、木を読むとおちつくし、集中できるのです ばらしいと感じました。」



「子どもたちは元気過ぎて、これか だと大変。両親に感謝しています。 「将来保育士になりたいと思ってい この体験をこれからの人生に生か い。」 (H22.11.27 付け千葉日報よ

## 百人一首カ

文化委員会が主催する生徒会行事として を実施しました。正月の風物詩としてなじ タ」を体験し、教養を高めると同時に、チ· らいです。3人のチームで、獲得した札の 盛り上がりました。準備学習は、国語の時 とのリハーサルも行いました。

#### 生徒会役員を中心とする本校生徒が、県立船橋特別支援学校を訪問し

て、高等部の生徒たちと交流の機会を持ちました。交流会のメインは合 <参加した生徒の声> 同レクリエーションで、両校それぞれ4チームに分かれてのボッチャ競 「広い体育館に150近くのチームが 技(ヨーロッパで四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、 集まり、一斉に耳を澄まし読み手の声に パラリンピックの正式種目)を行いました。本校生徒が自発的に車椅子 集中する姿に感動。」

を押したり、歩行が不自由な生徒の手を引くなど、自然にとけ込むこと 「他学年のチームとも対戦するので、上 ができ、親睦も深まったようです。 級生と身近に話すことができた。」

いかがわかっていて、すごい!」

<参加した生徒の声> 「特別支援学校の先生方は、生徒が しゃべってもいないのに、何がした

# ー人ー人を大切にする学校 **橋法典高等学校**

**パによる学力向上プロジェクト** 

### <体験活動編>

i 導重点校としての取組を踏まえ、生徒一人一 、高校の学習活動に全員が参加できるよう「ユ 」ジェクト」を展開しています。このプロジェ ↓ったので、その一部を抜粋して報告します。

### ふれあい体験学習

F生全員が家庭科の授業の一環として、市川の柏井保を行いました。3才から5才までの園児47人に対けて1対1の保育を体験しました。生徒たちは事前選んで読み聞かせの練習を行うなど入念に準備していように、毎回少しずつ内容を変えて、絵本を読んだい歌ったり、駆けっこをしたり、とにかく元気一杯しさを肌で感じた様子でした。

## デイキャンプ体験

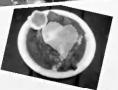
1年生全員が参加するデイキャンプ体験を、5月に葛西臨海公園で実施しました。体験のメインは、班に分かれてのカレーライスづくりです。 引率職員が審査するカレーコンテストもあり、各班で気合の入った作品 (?)が完成しました。共同作業の面白さが体感でき、新クラスの親睦 も深まったようです。

#### <参加した生徒の声>

「入学したばかりでクラスに親しい友達はいなかったけど、みんなでわいわいカレーづくりをして、気付けばとても仲の良い友達になっていました。今までしゃべったことのない人とも友達になれて、本当によかった。」

「葛西臨海公園で作ったカレーは、いつも家で 食べるカレーと違って、おいしかったです。」





### 上級学校の模擬授業体験

「私が決める私の進路」をテーマに大学、短大、専門学校など14の上級学校による模擬授業が、2年生全員を対象に、本校で実施されました。当日は「アダム・スミス」「ビジネスマナー」「HTML」など様々なタイトルで、上級学校の先生による授業が展開されました。この他、1・2年生対象の進路学習として、外部講師による進路講演会、バスでの上級学校見学会なども実施しました。

#### 声〉 、これが毎日 います。」 思っている。 生に生かした 葉日報より)

## -首カルタ大会

事として、全校生徒が参加する百人一首カルタ大会 してなじみが深く、伝統文化である「百人一首カル 時に、チームワークを育み、親睦を深めることがね した札の合計枚数を競い、優勝を目指して、大いに 国語の時間や朝自習の時間を利用して行い、学年ご

#### <参加した生徒の声>

「お客さんに笑顔で帰ってもらうのって難しいけど、美容師はやりがいがある と思った。」

「どの種目のスポーツトレーナーになるにも、心のケアが出来なきゃだめなことがわかった。」





## 通学路清掃

学年ごと学期に1回、通学路清掃を実施しました。毎回、正門方面(市川市)と裏門方面(船橋市)の二手に別れ、班ごとにゴミ袋と火鋏を手に清掃活動に向かいました。周囲は住宅地なので、ゴミ袋を一杯にするほどの収穫はありませんでしたが、小さなゴミも見逃さずに拾いました。収集したゴミで一番多かったのはタバコの吸殻、2番目は食べ物の包装ゴミでした。地域の皆さんからの評判も上々です。





<参加した生徒の声>

「通学路がきれいになるのは素晴らしい。世の中にはお金では計れないことがたくさんあるのでは、と思った。」

千葉県立船橋法典高等学校

# 確かな学力を育てる「さわやか朝自習」

## ユニバーサルデザインによる学力向上プロジェクト

公平であること、柔軟であること、単純であること、わかりやすいこと、安全であること、効率的であること、 そして、広さがあることをコンセプトに、「確かな学力」を育む教育活動を推進します。

教科別支援プログラム

レディネス・プログラム

単元別レッスンルーム

複数担任制と少人数授業

## さわやか朝自習

朝の10分間を、授業へのウォーミングアップの時間とし、 授業に臨む態勢を整えるとともに,

主体的な学習態度を確立させ、学業生活の充実を図ります。

#### ■ 実施内容

教育課程上の「ホームルーム活動」に位置づけ、 基礎学力定着のための学習、読書活動、進路対策、 学校行事の準備学習などを計画的に継続して行います。



1学年	読書、えんぴつで奥の細道、百人一首、校歌書写、漢字検定対策ワーク、基礎 カ小テスト、基礎力定着確認テストなど
2学年	読書,基礎力ドリル,沖縄豆知識,えんぴつシリーズ,進路資料を読む, 漢字検定対策,就職試験対策ドリルなど
3学年	漢字検定用小テスト,地理A,就職試験対策ドリル,えんぴつシリーズ, 読書,百人一首書き取りなど

#### 日課表

朝の	1 0 分間	を、授業へのウォーミ		
授業に臨む態勢を整えるとともに、				
		態度を確立させ、学業		
二件口	いる十日	窓反を確立では、子末		
	実施内	內容		
4	<b>教育課程</b>	上の「ホームルーム活		
基础	<b>楚学力定</b>	着のための学習、読書		
学村	交行事の	準備学習などを計画的		
	1 学年	読書、えんぴつで奥		
	1子牛	カ小テスト、基礎力		
	0 24 7	読書,基礎力ドリル		
	2学年	漢字検定対策,就職		
	s 24 F	漢字検定用小テスト		
	3学年	読書, 百人一首書き		
		日 課 表		
	S. H.	AND THE PROPERTY OF THE PARTY O		
	朝自習			
	1限	8:50~ 9:40		
	2限	9:50~10:40		
	3限	10:50~11:40		
	4限	11:50~12:40		
	昼食	THE RESERVE TO SERVE THE PROPERTY OF THE PARTY OF THE PAR		
	5限	13:25~14:15		
	6限	14:25~15:15		
	清掃			
	S. H.	₹ 15:25~		

#### ■ 留意点

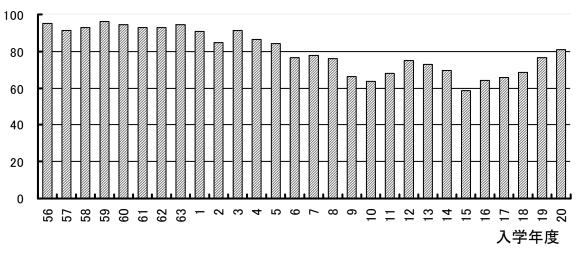
- 各教科や学校行事と連携して知識欲を刺激する教材
- ・ 確認テストや百人一首大会などで知識を定着
- 漢字検定など明確な目標設定で達成感を味わう

#### (参考) 漢字検定の延べ合格者数

	準2級	3級	4級	5級	合計
3学年	11	3 6	9	0	5 6
2学年	6	28	10	2	4 6
1学年	1	9	9	7	26

## <資料8> 入学年度別卒業割合の推移

### 卒業割合%



入学年度	入学者数	卒業者数	卒業割合 (%)
56	275	262	95.3
57	267	244	91.4
58	320	298	93.1
59	357	343	96.1
60	353	334	94.6
61	61 446		93.0
62	468 436		93.2
63	63 458		94.5
1	466	423	90.8
2	448	381	85.0
3	355	324	91.3
4	4 314		86.3
5	5 290 244		84.1
6	288	220	76.4
7	281	219	77.9

入学年度	入学者数	卒業者数	卒業割合 (%)	
8	237	180	75.9	
9	239	158	66.1	
10	239	152	63.6	
11	241	164	68.0	
12	200	150	75.0	
13	13 200 146		73.0	
14	200	139	69.5	
15	160	94	58.8	
16	160	103	64.4	
17	160	105	65.6	
18	159	109	68.6	
19	19 160 123		76.9	
20	20 160 130		81.3	
21	162	_	_	
22	201			

平成17年4月から平成23年3月までの間に船橋法典高校に所属し 自己啓発指導重点校の取組に携わった130名の職員

吉野 博、遠藤辰男、岡野 茂、鈴木祐弘、田邊昭雄、手川慎也、片野四郎、大久成子、 原田令子、窪田澄子、清水和男、渡邉秀幸、錦織葉子、髙野 倫、飯塚美津江、梶山義浩、 福井輝彦、増田幸恵、渡部寛仁、杉浦和義、高橋健夫、佐久間 研、中居一穂、荻原岳信、 阿部祥悦、藤井美矢子、田代浩久、吉永 馨、青木久和、上原美和、塚本昌敏、進藤 章、 大木島勝仁、峯岸 隆、小澤誉悦、山本秀一、牧 伸裕、石井政喜、根本秀夫、内田正勝、 大多和浩司、三谷 豊、早川雅晴、峰島不可止、古林聖哉、岩田孝昭、大野貴幸、舩田 優、 常盤亜紀子、坂野直人、星野明生、吉川勝、増田雄二、国吉恵一、柴田昭一、鈴木和広、 川崎広美、松本 健、小川康弘、黒川昭宏、海上孝一、岩倉和広、関川深雪、生田裕人、 伯ヶ部一路、高橋敏行、稲岡やよい、浅井博孝、安田 武、藤田拓哉、渡邉裕子、橋本 真、 中道 元、疋田俊夫、長岡淳美、久保木忠男、岩﨑 洋、上松香保里、山地陽子、大竹頼之、 矢橋由美子、髙橋眞理子、遠藤英也、齋藤洋子、土屋洋子、朝生喜久、上野宏枝、 長谷川美智代、吉村登代子、鈴木孝男、小林麻莉絵、村岡実紗、山内企代、桃井敦生、 山口智子、髙木啓子、土屋秀雄、柴原福子、行木正人、久慈優美子、下茂 円、渡辺和子、 渡邉 奏、下林 茜、日暮夏菜、田邊 凉、羽田真紀、ジェイビイアール真里、篠崎 博、 加藤瑞穂、小笠晴世、上原鏡恵、青木 茂、荒木秀彦、椎名 龍、髙橋順美、舘 健一、 栗原隆司、髙橋慶多、鵜澤尚美、保坂正徳、川嶋 健、佐藤聖子、小川 巧、佐々木智子、 熊手弘美、廣川真澄、金高由美子、星野幸子、西川千秋

(敬称略)

#### <資料10> 教育功労者としての功績

本校は、平成22年11月、学校教育に貢献した団体として、平成22年度教育功労者の 表彰を受けた。功績の概要は、「教育功労者功績概要」によると以下のとおりである。

#### 干葉県立船橋法典高等学校

平成18年度、県教育委員会から「自己啓発指導重点校」の指定を受け、複数担任制や少人数授業を軸に、きめ細かな指導を行い、生徒の学習意欲を高めている。平成18・19年度には「豊かな心をはぐくむ教育を推進する事業」の指定を受け、「規範意識を高める厳しい指導と自尊感情を高める温かい指導」の徹底により、豊かな心をはぐくむ教育を推進し成果を上げた。さらに、平成20・



21年度における文部科学省の「SNEモデル校(高等学校における発達障害支援モデル事業)」など、国及び県から8つの事業指定を受けて精力的に実践研究に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

## 編集後記

船橋法典高校は、自己啓発指導重点校としての取組により、生徒の規範意識の向上、授業 規律の徹底、出欠状況の改善、転・退学者の減少、地域や中学校からの評価の向上、部活動 の振興など様々な成果を上げることができました。

これらは一朝一夕にできたものではなく、吉野 博先生、遠藤辰男先生はじめ、多くの関係者のたゆまぬご尽力の賜物であると言えます。

今回、本誌の作成にあたり、過去の様々な資料を紐解きました。それで分かったことは、 自己啓発指導重点校の成果が、少人数指導と教員公募制だけではなく、ボトムアップの様々 な取組があって、それらを束ね、皆で協力してきた結果であるということです。

本誌の目的は、平成18年を新しい船橋法典高校が生まれた年と捉え、新たな歴史を刻むために、自己啓発指導重点校の草創期の記憶を記録誌として留めることです。これによって、これから船橋法典高校の教育活動に携わる方々が、当時のコンセプトを理解し、引継ぎ、発展させ、県下に誇れる素晴らしい高校づくりをするための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、創立30周年記念事業実行委員の皆様、保護者の皆様、そして同窓 会の皆様、本誌の作成にあたりご支援をいただきまして、ありがとうございました。改めて お礼申し上げます。

「自己啓発指導重点校の記録」編集委員

手川 慎也 川崎 広美 久保木 忠男 小川 康弘

## 自己啓発指導重点校の記録

創立30周年 新たな歴史を刻むために 平成23年3月 発行

編集·発行 千葉県立船橋法典高等学校

〒273-0047 千葉県船橋市藤原 4-1-1 TEL 047-438-0721 FAX 047-438-9925 http://www.chiba-c.ed.jp/f-houden-h/

印 刷 所 有限会社 サン・プランニング 〒260-0022 千葉市中央区神明町 22-1 TEL 043-247-1586

